



Cisco UCS S3260 サーバと Cisco UCS Manager リリース 4.0 との統合

初版：2018年8月14日

最終更新：2019年1月2日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>



目次

はじめに :

はじめに	ix
対象読者	ix
表記法	ix
関連 Cisco UCS 資料	xi
マニュアルに関するフィードバック	xi

第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報	1
新機能および変更された機能に関する情報	1

第 2 章

概要	3
Cisco UCS S3260 システムについて	3
このマニュアルの使用方法	5
Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要	8
接続マトリックス	10
展開オプション	11
管理スルー Cisco UCS Manager	13
Server SIOC Connectivity 機能	14
PCIe スロットを持つ新規 SIOC	16

第 3 章

UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260	23
UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260	23
スタンドアロン Cisco UCS C3160 サーバから Cisco UCS S3260 サーバへの移行	24
スタンドアロン 3260 から UCSM 管理型 3260 への移行	24

スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ移行に関する前提条件	24
シャーシ HDD からのブート	25
スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 への移行	26
スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 [2.0(13)以降のバージョン] への移行	28
システム IP アドレス	29
Cisco UCS Manager を使用したサーバポートの設定	30
管理対象の UCSM から移行Cisco UCS S3260管理 UCSM を M4 Cisco UCS S3260 M5	31
UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 からスタンドアロン Cisco UCS S3260 への移行	32
<hr/>	
第 4 章	機器関連ポリシー 35
シャーシ ディスカバリ ポリシー	35
シャーシ/FEX ディスカバリ ポリシーの設定	36
シャーシ接続ポリシー	37
シャーシ接続ポリシーの設定	40
<hr/>	
第 5 章	シャーシ プロファイル 41
シャーシ プロファイル Cisco UCS Manager	41
シャーシ プロファイルに関するガイドラインおよび推奨事項	42
ウィザードを使用したシャーシ プロファイルの作成	42
シャーシ プロファイルの名前の変更	44
シャーシ プロファイルの複製	45
シャーシ プロファイルの削除	46
シャーシ プロファイルの関連付け	47
シャーシ プロファイルとシャーシの関連付け	47
シャーシ プロファイルとシャーシの関連付け解除	48
シャーシ プロファイル テンプレート	49
シャーシ プロファイル テンプレート	49
シャーシ プロファイル テンプレートの作成	49
シャーシ プロファイル テンプレートから 1 つ以上のシャーシ プロファイルの作成	51

シャーシプロファイルからのシャーシプロファイルテンプレートの作成	52
シャーシテンプレートプロファイルの複製	53
シャーシプロファイルテンプレートのメンテナンスポリシーの変更	54
シャーシプロファイルテンプレートへのシャーシプロファイルのバインディング	55
シャーシプロファイルテンプレートからのシャーシプロファイルのバインド解除	56
シャーシメンテナンスポリシー	56
シャーシメンテナンスポリシーの作成	56
シャーシプロファイルのメンテナンスポリシーの変更	58
シャーシメンテナンスポリシーの削除	59
コンピューティング接続ポリシー	59
コンピューティング接続ポリシーの作成	60
コンピューティング接続ポリシーとシャーシプロファイルの関連付け	61

第 6 章

Cisco UCS S3260 システムストレージ管理	63
ストレージサーバ機能およびコンポーネントの概要	63
Cisco UCS S3260 ストレージ管理操作	73
高可用性のためのディスクの共有	74
ディスクゾーン分割ポリシー	74
ディスクゾーン分割ポリシーの作成	75
ディスクスロットの作成と所有権の割り当て	79
シャーシプロファイルへのディスクゾーン分割ポリシーの関連付け	80
ディスクの移行	81
ストレージエンクロージャ操作	83
シャーシレベルのストレージエンクロージャの削除	83
SAS エクスパンダ設定ポリシー	83
SAS エクスパンダ設定ポリシーの作成	83
SAS エクスパンダ設定ポリシーの削除	85

第 7 章

ファームウェア管理	87
Cisco UCS S3260 システムのファームウェア管理	87
自動インストールによるシャーシファームウェアアップグレード	89

自動インストールによるシャーシファームウェアのアップグレード	89
シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージによるファームウェアのアップグレード	92
シャーシファームウェアパッケージ	92
シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージを使用したファームウェアのアップグレードのステージ	93
シャーシプロファイルのファームウェアパッケージに対するアップデートの影響	94
シャーシファームウェアパッケージの作成	95
シャーシファームウェアパッケージのアップデート	97
既存のシャーシプロファイルへのシャーシファームウェアパッケージの追加	98
Cisco UCS S3260 サーバを使用した UCS ドメインのアップグレード	99
S3260 シャーシ およびサーバエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード	100
シャーシエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード	102
CMC ファームウェアのアップデート S3260 シャーシ	102
S3260 シャーシのシャーシアダプタファームウェアの更新	103
SAS エクスパンダのファームウェアのアップデート S3260 シャーシ	104
SAS エクスパンダファームウェアのアクティブ化 S3260 シャーシ	105
CMC ファームウェアのアクティブ化 S3260 シャーシ	106
S3260 シャーシでシャーシアダプタファームウェアをアクティブ化する	106
シャーシボードコントローラファームウェアのアクティブ化 S3260 シャーシ	107
サーバエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード	108
Cisco UCS S3260 サーバノードの CIMC ファームウェアのアップデート	108
Cisco UCS S3260 サーバノードの CIMC ファームウェアのアクティブ化	109
Cisco UCS S3260 サーバノードの BIOS ファームウェアのアップデート	110
Cisco UCS S3260 サーバノードの BIOS ファームウェアのアクティブ化	111
Cisco UCS S3260 サーバノードのボードコントローラファームウェアのアクティブ化	112
Cisco UCS S3260 サーバノードのストレージコントローラファームウェアのアクティブ化	113

Cisco UCS S3260 シャーシ	115
シャーシの認識	116
シャーシの稼働中止	117
シャーシの削除	117
シャーシのロケータ LED の電源投入	118
シャーシのロケータ LED の電源切断	119
インベントリからのゾーン分割ポリシーの作成	119
シャーシの POST 結果の表示	120

 第 9 章

サーバ管理 123

Cisco UCS S3260 サーバ ノードの管理	124
Cisco UCS S3260 サーバ ノードのブート	124
サービス プロファイルからの Cisco UCS S3260 サーバのブート	125
Cisco UCS S3260 サーバ ノードのブート順序の決定	126
Cisco UCS S3260 サーバ ノードのシャットダウン	126
サービス プロファイルからの Cisco UCS S3260 サーバ ノードのシャットダウン	127
Cisco UCS S3260 サーバ ノードのリセット	128
Cisco UCS S3260 サーバ ノードの出荷時のデフォルト設定へのリセット	129
Cisco UCS S3260 サーバ ノードの再認識	130
シャーシからの Cisco UCS S3260 サーバ ノードの削除	131
Cisco UCS S3260 サーバ ノードからのインバンド設定の削除	132
Cisco UCS S3260 サーバ ノードの稼働停止	132
Cisco UCS S3260 サーバ ノードの再稼働	133
サーバスロットの再認識 S3260 シャーシ	134
存在しない Cisco UCS S3260 サーバ ノードの設定データベースからの削除	135
Cisco UCS S3260 サーバ ノードのロケータ LED のオン/オフ切り替え	135
Cisco UCS S3260 サーバ ノードのローカル ディスク ロケータ LED のオン/オフ切り替え	136
Cisco UCS S3260 サーバ ノードの CIMC のリセット	137
Cisco UCS S3260 サーバ ノードの CMOS のリセット	138
Cisco UCS S3260 サーバ ノードからの NMI の発行	139
Cisco UCS S3260 サーバ ノードの POST 結果の表示	139

Cisco UCS S3260 サーバ ノードのヘルス イベントの表示	140
ヘルス LED アラーム	142
ヘルス LED アラームの表示	142

第 10 章**SIOC 管理 145**

SIOC 管理 Cisco UCS Manager	145
SIOC の削除または交換	145
SIOC の認識	146
PCIe サポートがある SIOC に移行する	147
CMC のリセット	148
CMC セキュア ブート	148
CMC セキュア ブートの注意事項と制約事項	148
CMC セキュア ブートの有効化	149



はじめに

- [対象読者](#) (ix ページ)
- [表記法](#) (ix ページ)
- [関連 Cisco UCS 資料](#) (xi ページ)
- [マニュアルに関するフィードバック](#) (xi ページ)

対象読者

このガイドは、次の1つ以上に責任を持つ、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

表記法

テキストのタイプ	説明
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドラベルなどの GUI 要素は、イタリック体 (italic) で示しています。 ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルなどのメインタイトルは、ボールド体 (bold) で示しています。
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体 (<i>italic</i>) で示しています。
TUI 要素	テキストベースのユーザインターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、courier フォントで示しています。

テキストのタイプ	説明
システム出力	システムが表示するターミナルセッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、 this font で示しています。 CLI コマンド内の変数は、イタリック体 (<i>this font</i>) で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。



ワンポイントアドバイス 「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

**警告** IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

This warning symbol means danger. 人身事故を予防するための注意事項が記述されています。Before you work on any equipment, be aware of the hazards involved with electrical circuitry and be familiar with standard practices for preventing accidents. Use the statement number provided at the end of each warning to locate its translation in the translated safety warnings that accompanied this device.

SAVE THESE INSTRUCTIONS

関連 Cisco UCS 資料

ドキュメント ロードマップ

すべての B シリーズ マニュアルの完全なリストについては、以下の URL で入手可能な『Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/overview/guide/UCS_roadmap.html

すべての C-Series マニュアルの完全なリストについては、次の URL で入手可能な『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/overview/guide/ucs_rack_roadmap.html

管理用の UCS Manager と統合されたラック サーバでサポートされるファームウェア バージョンとサポートされる UCS Manager バージョンについては、『[Release Bundle Contents for Cisco UCS Software](#)』を参照してください。

その他のマニュアル リソース

ドキュメントの更新通知を受け取るには、[Cisco UCS Docs on Twitter](#) をフォローしてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、ucs-docfeedback@external.cisco.com までコメントをお送りください。ご協力をよろしくお願いいたします。



第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報

- [新機能および変更された機能に関する情報 \(1 ページ\)](#)

新機能および変更された機能に関する情報

Cisco UCS Manager のリリース 4.0(2a) の新規情報および変更情報

ここでは、Cisco UCS Manager、リリース 4.0(2a) の新機能および変更された動作について説明します。

表 1: Cisco UCS Manager、リリース 4.0(2a) の新機能と変更された動作

機能	説明	参照先
PCIe スロットのある新しい SIOC に対する NVMe OOB サポート	Cisco UCS S3260 システムは、S3260 M5 サーバを持つ新規サーバ SIOC、UCS-S3260-PCISIOC の NVMe OOB をサポートしています。	PCIe スロットを持つ新規 SIOC (16 ページ)
Cisco UCS VIC 1495	Cisco UCS Manager リリース 4.0(2a) では、Cisco UCS VIC 1495 は新世代の SIOC を持つ Cisco UCS 6300 シリーズ Fabric Interconnect をサポートしています。	接続マトリックス (10 ページ)

Cisco UCS Manager のリリース 4.0(1a) の新規情報および変更情報

ここでは、Cisco UCS Manager、リリース 4.0(1a) の新機能および変更された動作について説明します。

表 2: Cisco UCS Manager、リリース 4.0(1a)の新機能と変更された動作

機能	説明	参照先
PCIe スロットを持つ新規 SIOC	Cisco UCS S3260 システムは、S3260 M5 サーバを持つ新規サーバ SIOC、UCS-S3260-PCISIOC をサポートしています。	PCIe スロットを持つ新規 SIOC (16 ページ)
Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect	このリリースでは、40/100ギガビットアップリンクポートを使用してファブリック内の 10/25ギガビットポートをサポートするCisco UCS 6454 Fabric Interconnectが導入されました。	Cisco UCS S3260 システムアーキテクチャ概要 (8 ページ)
Cisco UCS VIC 1455	Cisco UCS Manager リリース 4.0(1a) では、Cisco UCS VIC 1455 は新世代の SIOC を持つ Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect をサポートしています。	接続マトリックス (10 ページ)



第 2 章

概要

- Cisco UCS S3260 システムについて (3 ページ)
- このマニュアルの使用方法 (5 ページ)
- Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要 (8 ページ)
- 接続マトリックス (10 ページ)
- 展開オプション (11 ページ)
- 管理スルー Cisco UCS Manager (13 ページ)
- Server SIOC Connectivity 機能 (14 ページ)
- PCIe スロットを持つ新規 SIOC (16 ページ)

Cisco UCS S3260 システムについて

Cisco UCS S3260 は、サーバノードを 2 台搭載した高密度のストレージラックサーバで、ビッグデータ、クラウド、オブジェクトストレージ、コンテンツ配信などの環境で使用される大容量なデータセットに最適化されています。これは、Cisco UCS S シリーズラックマウントサーバ製品ファミリーに属しています。

Cisco UCS Manager リリース 3.1(3) から、Cisco UCS C3260/C3X60 は Cisco UCS S3260 に名称変更されました。システムの一部のコンポーネントが引き続き C3260/C3X60 として表示されることがあります。このリリースでは、用語 S3260 および C3260/C3X60 は同義で使用されます。S3260 と C3260/C3X60 のいずれも同じハードウェア コンポーネントを指します。

Cisco UCS Manager リリース 3.2(3) には、Cisco UCS S3260 M5 サーバが導入されています。Cisco UCS S3260 M5 サーバは、Cisco UCS S3260 と同じ方法で Cisco UCS Manager と統合します。このドキュメントの情報および手順は、Cisco UCS S3260 M4 と Cisco UCS S3260 M5 の両方のサーバに対して使用できます。

Cisco UCS S3260 システムは、スタンドアロン環境でも、Cisco UCS Manager 統合での Cisco Unified Computing System の一部としても動作するように設計されています。従来の製品の Cisco UCS C3160 とほぼ同じ特性を引き継いでいますが、次の機能が追加されています。

- デュアルポート 40Gbps をサポートする Cisco VIC 1300 シリーズの組み込みチップを含むシステム I/O コントローラ (SIOC)
- 最大 2 つのサーバモジュールのサポート

- スタンドアロン モードでも、Cisco UCS Manager と共にでも動作する機能
- 個々のハードディスク ドライブ (HDD) は専用モードまたは共有モードのサーバに割り当てることができます

さらに、Cisco UCS S3260 システムのサーバスロットの 1 つは、3.5 インチ ドライブを 4 台追加するためのストレージ拡張モジュールで使用できます。また、サーバモジュールには、そのモジュール専用の内部ストレージとしてソリッドステート ドライブ (SSD) を 2 台格納できます。シャーシは、個々のサーバモジュールに 3.5 インチ ドライブを割り当てるように設定できるシリアル接続 SCSI (SAS) エクスパンダをサポートしています。

リリース 3.1(3) から、Cisco UCS S3260 システムでは次の機能がサポートされています。

- Server SIOC Connectivity 機能
- オプションの I/O エクスパンダ モジュール内の 2 番目の RAID コントローラ
- デュアル HBA コントローラ



(注) Cisco UCS S3260 システムにデュアル HBA コントローラが搭載されている場合、Cisco UCS Manager を 3.1(3) より前のリリースにダウングレードすることはできません。

Cisco UCS S3260 システムで、両方のサーバにデュアル RAID コントローラまたはデュアル HBA コントローラが組み込まれてはなりません。コントローラ タイプの併用はサポートされていません。

Cisco UCS S3260 システムでは Server SIOC Connectivity 機能がサポートされています。シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されている場合、この機能を使用して、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を經由するデータパスを設定できます。詳細については、[Server SIOC Connectivity 機能 \(14 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco UCS S3260 システムでは、サーバ ノードの上部に接続するオプションの I/O エクスパンダ モジュールの 2 番目の RAID コントローラがサポートされています。コントローラにゾーン分割されているディスクの数によっては、Cisco UCS Manager、BMC、CMC、および BIOS を 3.1(3) より前のリリースにダウングレードすることはできません。

コントローラの設定	ダウングレードが可能かどうか
サーバの 2 台のコントローラ (そのうちの 1 つはオプション I/O エクスパンダ内のコントローラ) またはサーバの 1 台のコントローラ (オプション I/O エクスパンダ内のコントローラ) と、1 台以上のディスクが、オプション I/O エクスパンダ内のコントローラにゾーン分割されています。	いいえ

コントローラの設定	ダウングレードが可能かどうか
サーバの2台のコントローラ（そのうちの1つはオプション I/O エクスパンダ内のコントローラ）またはサーバの1台のコントローラ（オプション I/O エクスパンダ内のコントローラ）および1台以上のディスクが、オプション I/O エクスパンダ内のコントローラに事前プロビジョニングされています。	いいえ
サーバの2台のコントローラ（そのうち1つはオプション I/O エクスパンダ内のコントローラ）またはサーバの1台のコントローラ（任意のスロット）およびディスクが、オプション I/O エクスパンダ内のコントローラにゾーン分割も事前プロビジョニングもされていません。	Yes

ライセンス要件

S3260 システムが FI にアプライアンスとして接続されている場合（アプライアンスポート）または Cisco UCS Manager 管理対象ノード（サーバポート）として接続されている場合は、ライセンス ETH_PORT_ACTIVATION_PKG（6200/6400 FI の場合）、40G_ETH_PORT_ACTIVATION_PKG（6400 および 6300 FI - 6332 の場合）、および 10G_PORT_ACTIVATION_PKG（6300 FI - 6332-16UP の場合）を使用します。

ライセンス要件の詳細については、『Cisco UCS Manager Server Management Guide』の「Server License Management」の章を参照してください。

このマニュアルの使用方法

Cisco UCS Manager を使用して管理されている Cisco UCS S3260 システムは、Cisco UCS Manager を使用して管理されている他の S シリーズラックサーバによりサポートされている機能のほとんどをサポートしています。Cisco UCS S3260 システムは、Cisco UCS Manager に一部の新機能と管理機能も導入しています。これらの特長と管理機能については、次の章で詳しく説明します。

- 概要：Cisco UCS Manager を使用して管理されるとき Cisco UCS S3260 システムとその接続のアーキテクチャに関する詳細情報を提供します。
- Cisco UCS Manager 管理型 Cisco UCS S3260 への移行：スタンドアロン Cisco UCS C3160 サーバまたはスタンドアロン Cisco UCS S3260 サーバから Cisco UCS Manager 管理型 Cisco UCS S3260 サーバへの移行に必要な手順について説明します。
- システム関連ポリシー：Cisco UCS S3260 システムに適用可能なシャーシディスクバリポリシーとシャーシ接続ポリシーについて説明します。

- シャーシプロファイル：シャーシプロファイルとシャーシプロファイルテンプレートの詳細プロファイル情報情報を提供します。これを使用して Cisco UCS S3260 シャーシのストレージ、ファームウェアとメンテナンスの特性を定義できるようになりました。
- ストレージ管理：Cisco UCS S3260 システムの新しいストレージ コンポーネントと、その管理方法について説明します。
- ファームウェア管理：ファームウェアを手動で更新できる Cisco UCS S3260 のシャーシファームウェア パッケージとエンドポイントについて詳しく説明します。
- シャーシ管理：Cisco UCS S3260 シャーシの管理に関する詳細情報を提供します。
- サーバ管理：Cisco UCS S3260 サーバノードの管理に関する詳細情報を提供します。
- SIOC 管理：Cisco UCS S3260 シャーシの一部であるシステム I/O コントローラ (SIOC) の管理に関する詳細情報を提供します。

Cisco UCS Manager リリース 3.1 以降のリリースでサポートされているすべての機能と設定タスクは、次の表に示す構成ガイドで説明されています。これらのガイドは、Cisco UCS S3260 システム用のこのクイック リファレンス ガイドとともに使用する必要があります。

ガイド	説明
Cisco UCS Manager Getting Started Guide	Cisco UCS アーキテクチャのほか、Cisco UCS Manager の初期設定や構成のベストプラクティスなど、稼働前に必要な操作について説明しています。
『Cisco UCS Manager Administration Guide』	パスワード管理、ロールベースアクセスの設定、リモート認証、通信サービス、CIMC セッション管理、組織、バックアップと復元、スケジューリング オプション、BIOS トークン、および遅延展開について説明しています。
Cisco UCS Manager Infrastructure Management Guide	Cisco UCS Manager によって使用および管理される物理インフラストラクチャと仮想インフラストラクチャのコンポーネントについて説明します。
『Cisco UCS Manager Firmware Management Guide』	ファームウェアのダウンロードと管理、自動インストールによるアップグレード、サービスプロファイルによるアップグレード、ファームウェアの自動同期によるエンドポイントでの直接アップグレード、機能カタログの管理、展開シナリオ、およびトラブルシューティングについて説明しています。

ガイド	説明
『Cisco UCS Manager Server Management Guide』	新しいライセンス、Cisco UCS ドメインへの Cisco UCS Central の登録、パワー キャッピング、サーバブート、サーバプロファイル、サーバ関連のポリシーについて説明しています。
『Cisco UCS Manager Storage Management Guide』	Cisco UCS Manager の SAN や VSAN など、ストレージ管理のあらゆる側面について説明しています。
『Cisco UCS Manager Network Management Guide』	Cisco UCS Manager の LAN や VLAN 接続など、ネットワーク管理のあらゆる側面について説明しています。
『Cisco UCS Manager System Monitoring Guide』	Cisco UCS Manager における、システム統計を含むシステムおよびヘルスマonitoringのあらゆる側面について説明しています。
Cisco UCS S3260 サーバと Cisco UCS Manager との統合	Cisco UCS Manager を使用して管理される UCS S シリーズサーバの管理のあらゆる側面について説明しています。

[『Release Notes for Cisco UCS Manager, Release 4.0』](#) には、Cisco UCS Manager リリース 4.0 に関する新機能、解決済みの問題、未解決の問題および回避策の詳細情報が記載されています

Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要

アーキテクチャ概要

図 1: Cisco UCS S3260 システム全体のアーキテクチャ図

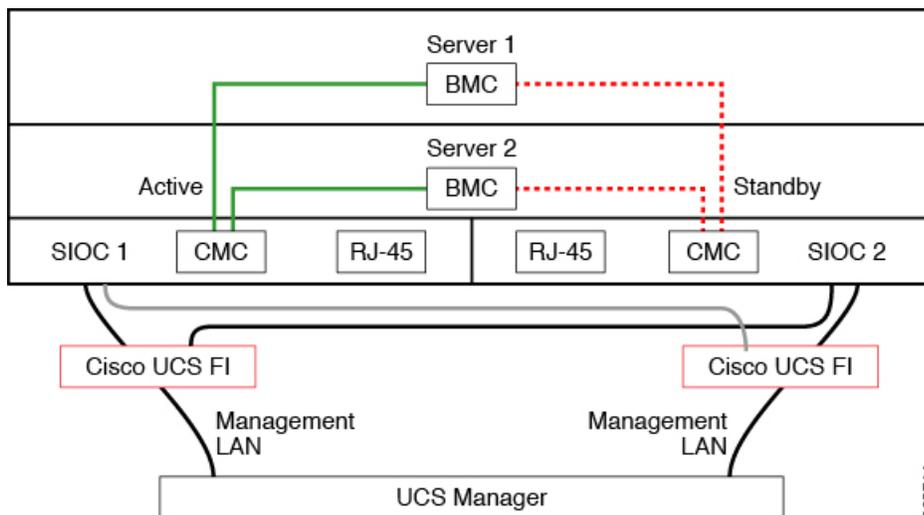
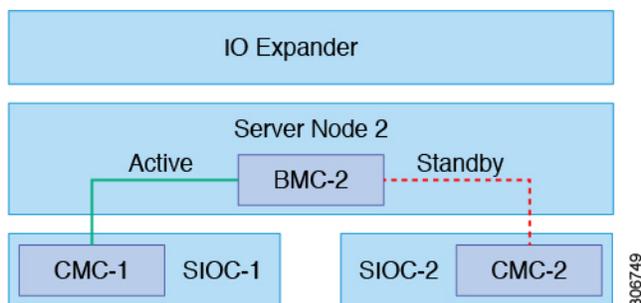


図 2: Cisco UCS S3260 システム (単一ノード デュアル SIOC) 全体のアーキテクチャ図



このシステムは、シャード管理コントローラ (CMC) を使用してサーバノードを管理します。各システム I/O コントローラ (SIOC) モジュールには、内蔵型 CMC が組み込まれています。2つの SIOC を使用する場合、2つの CMC がアクティブ/スタンバイ構成で機能します。Cisco IMC インターフェイスでログインしている SIOC 内の CMC がアクティブ CMC になります。アクティブ CMC を使用して、両方のサーバノードの BMC を管理できます。

すべてのユーザインターフェイスは、アクティブ CMC でのみ動作します。構成の変更は、アクティブ CMC とスタンバイ CMC の間で自動的に同期されます。

システムの電源を再投入すると、デフォルトで SIOC 1 内の CMC がアクティブ CMC になります。次のいずれかの条件が発生すると、アクティブ CMC はスタンバイ CMC にフェールオーバーします。

- アクティブ CMC のリブートまたは障害が発生した場合。

- アクティブ CMC を持つ SIOC が取り外された場合。
- アクティブ CMC でネットワーク接続が失われた場合。

ビルディング ブロックと接続

Cisco UCS S3260 シャーシは、次のモジュールで構成されるモジュラ アーキテクチャです。

ベース シャーシ

電源ユニット 4 つ、8 つのファンを搭載し、レールキットが付属しています。

サーバノード

1 台または 2 台のサーバノードごとに、2 つの CPU および、128 GB、256 GB、または 512 GB の DIMM メモリ、およびパススルーモードの RAID カードまたは 1 GB/4 GB のキャッシュを持つ RAID カードを選択、搭載可能です。

システム I/O コントローラ (SIOC) (リリース 4.0(1) 以降)

リリース 4.0(1) 以降、Cisco UCS S3260 システムは、S3260 M5 サーバを持つ新規サーバ SIOC、UCS-S3260-PCISIOC をサポートしています。この SIOC では、ネットワーク アダプタを交換するための PCIe スロットがあります。

システム I/O コントローラ (SIOC) (リリース 3.2(3) 以前)

1 つまたは 2 つのシステム I/O コントローラ (それぞれ 1300 シリーズ VIC を搭載)。Cisco UCS S3260 SIOC には Cisco UCS VIC 1300 シリーズの内蔵型チップが組み込まれているため、リムーバブルアダプタカードはありません。

オプションのドライブ拡張ノード

4 つの 4TB ドライブ (合計容量: 16TB)、4 つの 6TB ドライブ (合計容量: 24TB)、または 4 個の 10TB ドライブ (合計容量: 40TB) の選択。

ソリッドステート ブート ドライブ

1 つのサーバノードあたり最大 2 つの SSD

Cisco UCS ファブリック接続

Cisco UCS S3260 シャーシは、次のいずれかの方法で接続できます。

- ファブリック インターコネクタへの直接接続。
- FEX による接続。

Cisco UCS ファブリック インターコネクタへの直接接続

1. Cisco UCS 6200 Series Fabric Interconnects : SIOC は 6248 FI ポートに直接接続できます。SIOC のアップリンクは、次の 2 つの方法のいずれかで FI ポートに接続できます。
 - QSA ケーブルを使用した、シングル FI ポートへの 10G 接続
 - ブレークアウト ケーブルを使用した、4 つの FI ポートへの 4*10G ポート チャンネル接続

2. Cisco UCS 6300 Series Fabric Interconnects : SIOC のアップリンクは、シングル 40G 接続で 6300 シリーズ FI ポートに直接接続できます。
3. **Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect**: SIOC アップリンクは、単一の 25G 接続を使用して Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect ポートに直接接続できます。

FEX による接続

N2348UPQ and 2232 FEX : SIOC は、QSA コネクタを使用して、シングル 10G 接続で FEX ポートに直接接続できます。

接続マトリックス

新規 Cisco VIC カード

リリース 4.0(2a) から、Cisco UCS S3260 システムでは次の新規 Cisco VIC カードがサポートされています。

- Cisco UCS VIC 1495

リリース 4.0(1a) から、Cisco UCS S3260 システムでは次の新規 Cisco VIC カードがサポートされています。

- Cisco UCS VIC 1455

表 3: 接続マトリックス

	ケーブル	リンク集約	接続速度	FEX サポート	6200 FI サポート	6300 FI サポート	6400 FI サポート
VIC 1495 (新世代 SIOC)	QSFP	非ポート チャンネル	40G	×	×	Yes	×
VIC 1455 (新世代 SIOC)	SPF+	ポート チャンネル	2x10G	Yes	Yes	Yes	Yes
	ブレイク アウト ケーブル	ポート チャンネル	2x10G	×	×	Yes	×
	SFP28	ポート チャンネル	2x25G	×	×	×	Yes

	ケーブル	リンク集約	接続速度	FEXサポート	6200 FI サポート	6300 FI サポート	6400 FI サポート
SIOC	QSA (SFP+)	非ポートチャンネル	10G	Yes	Yes	×	Yes
	QSFP	非ポートチャンネル	40G	×	×	Yes	×
	ブレイクアウトケーブル	ポートチャンネル	4x10G	×	Yes	×	Yes

展開オプション

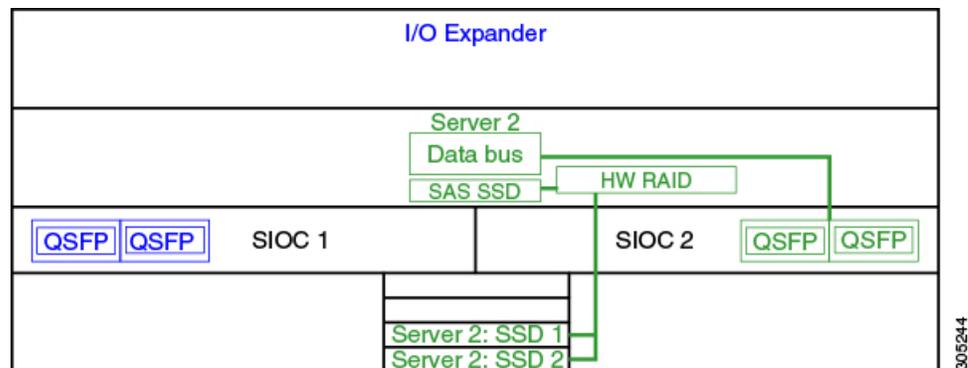
Cisco UCS S3260 システムの 3 つの主要な展開オプション（単一サーバ接続およびデュアルサーバ接続）について説明します。

単一サーバ接続

次の図は、単一サーバシステムの関連付けを示しています。

- サーバノード 2 のデータバスは、SIOC 2 を介して接続します。
- サーバ 2 SSD 1 および 2 は、サーバノード 2 の RAID コントローラカードによって制御できます。

図 3: I/O エクспанダを備えた単一サーバ



単一サーバ接続（Server SIOC Connectivity 機能を使用）

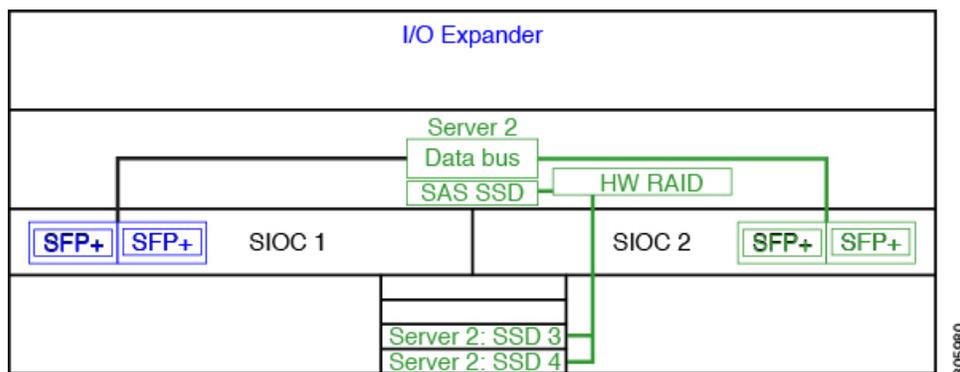
Cisco UCS S3260 システムに単一サーバとデュアル SIOC が含まれている場合、ユーザは Server SIOC Connectivity 機能を有効にできます。Server SIOC Connectivity 機能が有効な単一サーバシステムの関連性を次の図に示します。

- サーバノード2のデータバスは、プライマリ SIOC および補助 SIOC 経由で接続しています。



(注) サーバ1のプライマリ SIOC は SIOC 1、サーバ2のプライマリ SIOC は SIOC 2 です。サーバ1の補助 SIOC は SIOC 2、サーバ2の補助 SIOC は SIOC 1 です。

図 4: Server SIOC Connectivity 機能を使用した単一サーバ単一 SIOC

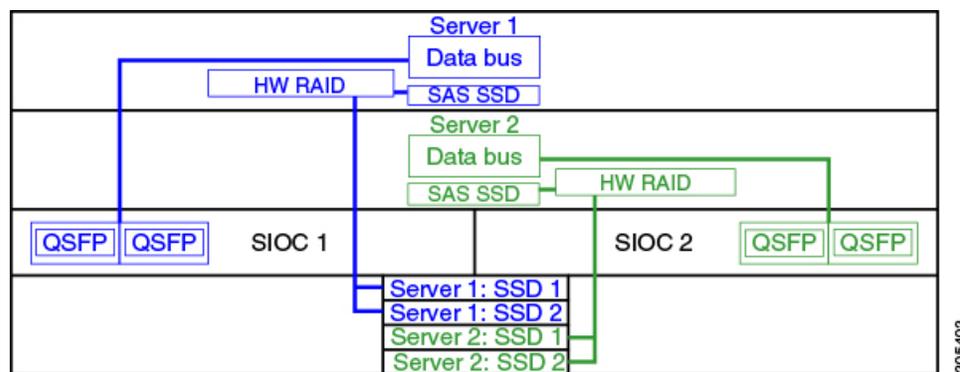


デュアルサーバ接続

このモードの導入では、各サーバスロットに独立したサーバブレードが含まれています。SAS SSD などのさまざまなコンポーネントとともに冗長サーバノードは高可用性を提供します。

次の図は、デュアルサーバシステムを示しています。Cisco UCS C3X60 M3 サーバノードでは、サーバ1のPCHコントローラはSSD1とSSD2を制御し、サーバ2のPCHコントローラはSSD3およびSSD4を制御します。Cisco UCS C3X60 M4 サーバノードでは、サーバ上のRAIDコントローラカードは、それぞれのSSDを制御します。

図 5: デュアルサーバシステム



**重要**

さまざまなサーバノードおよび関連するサービスノードでサポートされているストレージコントローラなどの Cisco UCS S3260 システムのストレージコントローラに関する考慮事項の詳細については、『*Cisco UCS S3260 Cisco UCS 3260 Storage Server Installation and Service Guide*』の「Storage Controllers」のセクションを参照してください。

管理スルー Cisco UCS Manager

Cisco UCS S3260 システムはスタンドアロンモードで動作できますが、Cisco UCS Manager により管理することもできます。

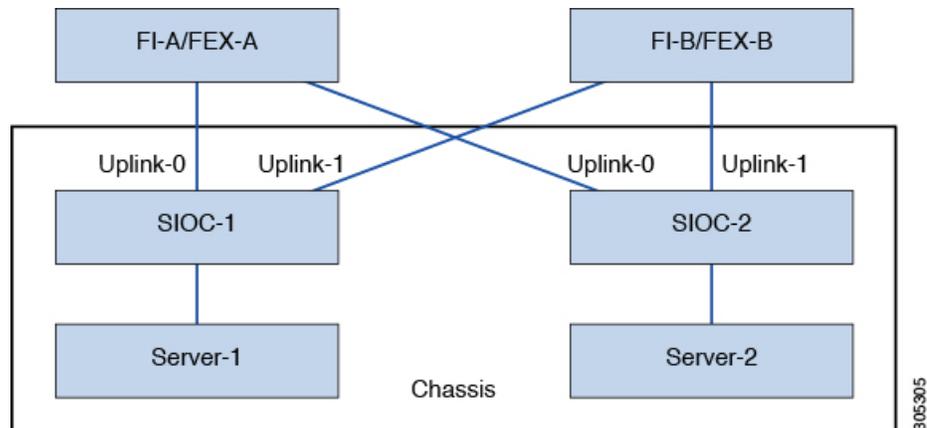


(注) UCS Mini 6324 では Cisco UCS Manager と Cisco UCS S3260 の統合はサポートされていません。

デュアルサーバ接続

次の図は、Cisco UCS Manager が管理するデュアルサーバノード搭載の Cisco UCS S3260 システムの接続を示しています。

図 6: Cisco UCS S3260 システムと Cisco UCS Manager との統合

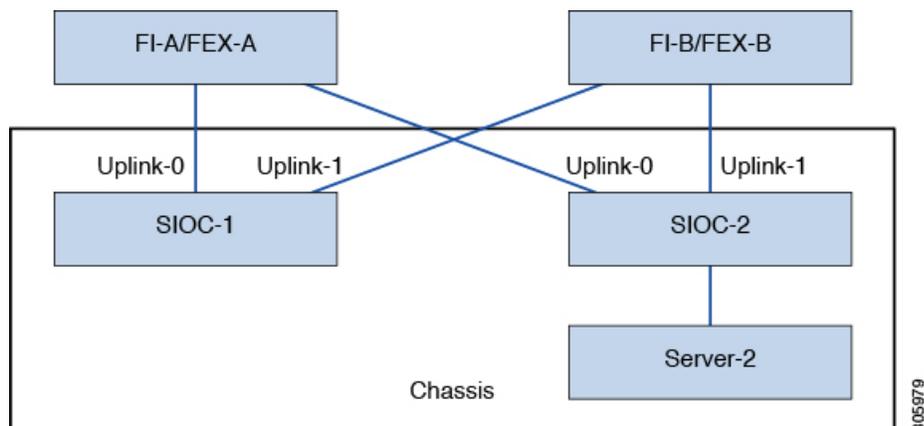


SIOC の 40G ポートは、ファブリック インターコネクタまたは FEX モジュールに接続できます。各 SIOC で、1 つのポートはプライマリ ファブリック インターコネクタおよび FEX に接続でき、もう 1 つのポートは下位のファブリック インターコネクタおよび FEX に接続できます。各 SIOC からのトラフィックは、ファブリック インターコネクタおよび FEX に到達できます。

単一サーバおよび単一 SIOC 接続

次の図は、Server SIOC Connectivity 機能を使用せずに Cisco UCS Manager により単一サーバおよび単一 SIOC が管理されている Cisco UCS S3260 システムの接続を示しています。

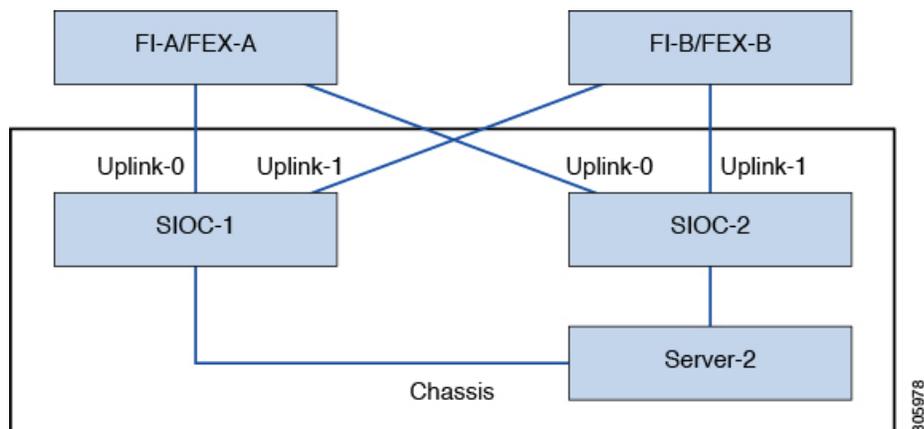
図 7: Cisco UCS S3260 システムと Cisco UCS Manager (Server SIOC Connectivity 機能を使用しない単一サーバおよび単一 SIOC)



単一サーバおよびデュアル SIOC 接続 (Server SIOC Connectivity 機能を使用)

次の図は、Server SIOC Connectivity 機能を使用して Cisco UCS Manager により単一サーバおよびデュアル SIOC が管理されている Cisco UCS S3260 システムの接続を示しています。

図 8: Cisco UCS S3260 システムと Cisco UCS Manager (Server SIOC Connectivity 機能を使用する単一サーバおよび単一 SIOC)



Server SIOC Connectivity 機能

リリース 3.1(3) から、Cisco UCS S3260 システムでは Server SIOC Connectivity 機能がサポートされています。シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されている場合、この機能を使用して、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を經由するデータパスを設定できます。



- (注) サーバ 1 のプライマリ SIOC は SIOC 1、サーバ 2 のプライマリ SIOC は SIOC 2 です。サーバ 1 の補助 SIOC は SIOC 2、サーバ 2 の補助 SIOC は SIOC 1 です。

Server SIOC Connectivity 機能は、シャーシプロファイルで [Compute Conn Policy] を使用して設定できます。このためには [single-server-dual-sioc] オプションを選択します。

Server SIOC Connectivity 機能の前提条件

この機能は次の条件を満たしている場合にのみ動作します。

- Cisco UCS S3260 システムでリリース 3.1(3) 以降が稼働している。
- 関連付けられている BIOS、BMC、および CMC ファームウェアで 3.1(3) 以降が動作している。
- シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されている。

ワークフロー：Cisco UCS Manager アップグレード

Cisco UCS Manager をリリース 3.1(3) 以降のリリースにアップグレードすると、シャーシディスクカバリがトリガーされ、UCSM がサーバ SIOC 接続機能の動作状態を取得します。ユーザはシャーシプロファイルの [Compute Conn Policy] で使用可能な [single-server-dual-sioc] オプションを使用してこの機能を有効にできます。



- (注) コンピューティング接続ポリシーの設定を変更すると、保留イベントが発生します。この保留イベントを確認した後でのみ、シャーシプロファイルの関連付けが自動的に開始します。

GUI で [Compute Conn Policy] プロパティを [single-server-dual-sioc] に設定すると、この操作によってサーバがリブートすることを警告するメッセージが Cisco UCS Manager により表示されます。メッセージの確認後に、シャーシの関連付けがトリガーされます。Server SIOC Connectivity 設定が正常に展開されると、サーバの詳細なディスクカバリが Cisco UCS Manager により自動的にトリガーされます。

CLI で [Compute Conn Policy] プロパティを [single-server-dual-sioc] に設定したら、関連付けを開始するために **apply pending-changes immediate** コマンドを実行します。

[Compute Conn Policy] が [single-server-dual-sioc] に設定された場合は、Cisco UCS Manager を 3.1(3) より前のリリースにダウングレードすることはできません。Cisco UCS Manager では同様に、BMC、CMC、および BIOS を 3.1(3) より前のリリースにダウングレードすることはできません。

single-server-dual-sioc オプションが有効な場合にこの機能に影響する条件

- サーバの交換：サーバが交換されると、ブレードスロットの不一致が検出されます。スロットを確認するとサーバの詳細なディスクカバリがトリガーされ、その後サービスプロ

ファイルの関連付けが行われます。サービス プロファイルの関連付けがトリガーされると、次の 2 つの状況が発生する可能性があります。

1. BIOS/BMC ファームウェアがホストファームウェアで指定されている場合：BIOS/BMC ファームウェアで単一サーバデュアル SIOC 接続がサポートされている場合は、サービスプロファイル関連付けプロセスが続行されます。BIOS/BMC ファームウェアで単一サーバデュアル SIOC 接続がサポートされていない場合は、この関連付けで設定の問題が発生します。
 2. BIOS/BMC ファームウェアがホストファームウェアで指定されていない場合、Cisco UCS Manager は、実行中の BIOS/BMC バージョンで単一サーバデュアル SIOC 接続がサポートされているかどうかを確認します。この機能がサポートされていない場合は、設定の問題は発生しません。
- SIOC の交換：交換した SIOC で 3.1(3) 以降が稼働している場合、1 つの SIOC が装着されるとユーザ確認メッセージが表示されます。SIOC アクションを確認すると、Cisco UCS Manager により FI と SIOC 間の接続が確立されます。さらに、Cisco UCS Manager はこの SIOC を経由するデータパス接続があるサーバを再確認します。サーバに対して設定されている VNIC も再確認されます。詳細については、「[SIOC の削除または交換 \(145 ページ\)](#)」を参照してください。
- 交換した SIOC で古いバージョンのファームウェアが稼働している場合、Cisco UCS Manager では [Server SIOC Connectivity] 動作状態が [single-server-single-sioc] に自動的に変更されます。シャーププロファイルの関連付けを再度トリガーすることで、交換した SIOC のファームウェアを更新できます。
- SIOC の取り外し：SIOC を取り外すと、Cisco UCS Manager ではその SIOC と、サーバで作成された対応するアダプタユニットが欠落しているものとしてマークされます。
 - シャーシへのサーバの追加：この機能が有効な状態で新しいサーバをシャーシに追加すると、サーバ ディスカバリが失敗します。
 - シャーシ/サーバの関連付け解除：サーバまたはシャーシの関連付けが解除される場合、Server SIOC Connectivity 機能は無効になりません。

PCIe スロットを持つ新規 SIOC

Cisco UCS Manager リリース 4.0(1a) 以降、Cisco UCS S3260 システムは、S3260 M5 サーバを持つ新規サーバ SIOC、UCS-S3260-PCISIOC をサポートしています。この SIOC では、ネットワーク アダプタを交換するための PCIe スロットがあります（サポートされているアダプタについては [表 4: サポートされている Cisco VIC とサードパーティ製のアダプタ \(17 ページ\)](#) を参照してください）。これらのスロットでは、Cisco VIC とサードパーティ製のアダプタの両方をサポートしています。さらに、新しい SIOC には 2 つの NVME スロットがあります。

Cisco UCS Manager リリース 4.0(2a) 以降、NVMe OOB はサポートされています。

図 9:新しい SIOC による FI 接続

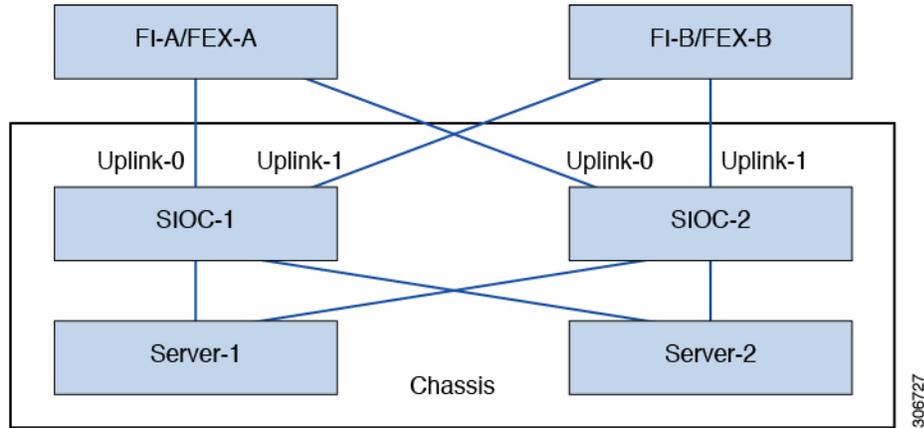


表 4:サポートされている Cisco VIC とサードパーティ製のアダプタ

PID	説明
UCSC-PCIE-C25Q-04	Cisco VIC 1455 クラッドポート : 25 G (注) 直接接続モードで 6300 FI シリーズとともに使用する場合、vHBA はサポートされません。直接接続モードでは、Cisco UCS Manager に設定エラーは表示されませんが、関連付けが継続しています。Cisco UCS Manager では [Info] 障害のみ報告します。
UCSC-PCIE-ID10GC	Intel X550 デュアルポート 10GB Base-T
UCSC-PCIE-ID25GF	Intel XXV710 (デュアルポート 25G SFP28)
UCSC-PCIE-ID40GF	Intel XL710 デュアルポート 40GB QSFP+ NIC
UCSC-PCIE-QD16GF	Qlogic QLE2692 デュアルポート 16G ファイバチャネル HBA

表 5:サポートされる NVMe ディスク

PID	説明
UCS-S3260-NVG25	Intel 4501 をベースにした M5 サーバノード用 UCS S3260 500GB NVM
UCS-S3260-NVG210	UCS S3260 Intel 4501 1TB NVMe ドライブ M5 サーバノード用

PID	説明
UCS-S3260-NVG220	UCS S3260 Intel 4501 2TB NVMe ドライブ M5 サーバ ノード用

新しい SIOC をインストールするための前提条件

- BMC ファームウェアバージョンが 4.0(1a) 以降である必要があります。
- 33 CMC ファームウェアバージョンが 4.0(1a) 以降である必要があります。

Cisco VIC カード、サードパーティ製のアダプタ、NVMe ディスクの制限

- サードパーティ製のアダプタを使用した SIOC は、スタンバイにのみ設定できます。
- アクティブな SIOC をリポートしても、サードパーティ製のアダプタに接続している SIOC はアクティブになりません。
- Cisco UCS Manager 混合 SIOC による設定はサポートしていません。セットアップで新しい gen SIOC と古い SIOC を混在させることはできません。
- Cisco UCS Manager サードパーティ製のアダプタを持つ SIOC は管理されません。
- Cisco UCS Manager サードパーティ製のアダプタを持つ SIOC の CMC イメージを更新またはアクティブにしません。
- NVMe ディスクのホット挿入および取り外しはサポートされていません。
- Cisco とサードパーティ製のアダプタのサポートの詳細については、[Cisco UCS Manager 混合アダプタセットアップの管理 \(18 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco UCS Manager 混合アダプタ セットアップの管理

表 6: Cisco UCS Manager の管理

スロット 1	スロット 2	サーバ SIOC 接続	Cisco UCS Manager の管理
Cisco VIC	Cisco VIC	単一サーバ デュアル VIC	Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供
Cisco VIC	Cisco VIC	デュアルサーバ モード	Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供

スロット 1	スロット 2	サーバ SIOC 接続	Cisco UCS Manager の管理
Cisco VIC	サードパーティ製のアダプタ	単一サーバデュアル VIC	<p>Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> サードパーティ製のアダプタの検出とファームウェア管理 SIOC/VIC の障害発生時に CMC 冗長性はサポートされません
Cisco VIC	SIOC のサードパーティ製のアダプタ	デュアルサーバ	<p>Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> スロット 1 のサーバ検出 SIOC/VIC の障害発生時に CMC 冗長性はサポートされません スロット 2 のサーバ検出は Cisco UCS Manager モードではサポートされていません。スロット 2 にサーバがある場合。Cisco UCS Manager は [No Connected Adapters] のエラーで検出に失敗します。

スロット 1	スロット 2	サーバ SIOC 接続	Cisco UCS Manager の管理
サードパーティ製のアダプタ	Cisco VIC	単一サーバ デュアル VIC	<p>Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> サードパーティ製のアダプタの検出とファームウェア管理 SIOC/VIC の障害発生時に CMC 冗長性はサポートされません
サードパーティ製のアダプタ	Cisco VIC	デュアル サーバ	<p>Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> スロット 2 のサーバ検出 SIOC/VIC の障害発生時に CMC 冗長性はサポートされません スロット 1 のサーバ検出は Cisco UCS Manager モードではサポートされていません。スロット 1 にサーバがある場合。Cisco UCS Manager は [No Connected Adapters] のエラーで検出に失敗します。
サードパーティ製のアダプタ	SIOC のサードパーティ製のアダプタ	単一サーバ デュアル VIC	サポート対象外
サードパーティ製のアダプタ	SIOC のサードパーティ製のアダプタ	デュアル サーバ	サポート対象外

SIOC の削除または交換

シャーシから SIOC の取り外しや交換ができます。SIOC の取り外しと交換はサービスに影響する操作であるため、シャーシ全体の電源をオフにする必要があります。詳細については、「[SIOC の削除または交換 \(145 ページ\)](#)」を参照してください。

PCIe サポートによる新しい SIOC への移行

詳細については、「[PCIe サポートがある SIOC に移行する \(147 ページ\)](#)」を参照してください。新しい SIOC に移行すると、次のダウングレード制限が適用されます。

- Cisco UCS Manager を 4.0(1a) 以下のリリースにダウングレードすることはできません
- BMC ファームウェアを以下のリリースにダウングレードすることはできません 4.0(1a)

Server SIOC Connectivity 機能

Cisco UCS Manager 次の例外では、新しい SIOC を持つ単一のサーバデュアル VIC 機能のサポートを継続します。

- 新しい SIOC に接続されているサードパーティ製のアダプタの拡張がサポートされています。
- **[Compute Connection Policy]** プロパティを **[single-server-dual-sioc]** に変更すると、ポリシーが適用される前にサーバの電源がオフになります。
- 単一サーバデュアル SIOC は SIOC アダプタの割り当てのみを決定しており、SIOC で NVME ディスク スロットを割り当てることはありません。サーバごとに 1 つの NVMe ディスクが割り当てられ、サーバへの SIOC NVME 接続を固定します。



第 3 章

UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260

この章は、次の項で構成されています。

- [UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260 \(23 ページ\)](#)
- [スタンドアロン Cisco UCS C3160 サーバから Cisco UCS S3260 サーバへの移行 \(24 ページ\)](#)
- [スタンドアロン 3260 から UCSM 管理型 3260 への移行 \(24 ページ\)](#)
- [管理対象の UCSM から移行Cisco UCS S3260管理 UCSM を M4 Cisco UCS S3260 M5 \(31 ページ\)](#)
- [UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 からスタンドアロン Cisco UCS S3260 への移行 \(32 ページ\)](#)

UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260



(注) Cisco UCS C3160 の UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 への直接移行はサポートされていません。まずスタンドアロン Cisco UCS C3160 をスタンドアロン Cisco UCS S3260 に移行してから、UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 に移行します。

スタンドアロン Cisco UCS C3160 の UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260

スタンドアロン Cisco UCS C3160 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 に移行するには、次を行います。

1. スタンドアロン Cisco UCS C3160 をスタンドアロン Cisco UCS へ Cisco UCS S3260
2. スタンドアロン Cisco UCS Cisco UCS S3260 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ
3. Cisco UCS Manager を使用したサーバポートの設定

スタンドアロン Cisco UCS Cisco UCS S3260 の UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 への移行

スタンドアロン Cisco UCS Cisco UCS S3260 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 に移行するには、次を行います。

1. スタンドアロン Cisco UCS Cisco UCS S3260 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ
2. Cisco UCS Manager を使用したサーバ ポートの設定

スタンドアロン Cisco UCS C3160 サーバから Cisco UCS S3260 サーバへの移行

Cisco UCS C3160 サーバを Cisco UCS S3260 サーバに移行するには、『[Upgrading to Cisco UCS S3260 System With C3X60 M4 Server Nodes](#)』を参照してください。

スタンドアロン 3260 から UCSM 管理型 3260 への移行

スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ移行に関する前提条件

移行手順を開始する前に、次の条件を満足していることを確認します。

- M4サーバについては、システムがそれより前のバージョンを実行している場合は、リリース 2.0(9) 以降の Cisco UCS S3260 Host Upgrade Utility (HUU) をダウンロードして実行してください。M4サーバについては、システム Host Upgrade Utility のダウンロード手順と使用方法については、リリース 2.0(9) 以降の Host Upgrade Utility ユーザガイドを使用します。使用しているリリースの [HUU ガイド](#) の手順を参照してください。
- M5サーバについては、リリース 3.2(3) 以降の Cisco UCS S3260 Host Upgrade Utility (HUU) をダウンロードして実行してください。Host Upgrade Utility のダウンロード手順と使用方法については、リリース 3.2(3) 以降の Host Upgrade Utility ユーザガイドを使用します。使用しているリリースの [HUU ガイド](#) の手順を参照してください。
- DHCP サーバで設定されたか、スタティック IP アドレスとして手動で入力した、最大 5 個の IP アドレス。詳細については、「[システム IP アドレス \(29 ページ\)](#)」を参照してください。
- UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ移行する前に、既存のシステム設定のメモを作成することを推奨します。これらの設定には、次のようなものがあります。
 - サーバの UUID
 - ストレージ設定
 - ネットワーク コンフィギュレーション

- ブート ポリシー
- No. of vNICs
- vNIC の配置
- MAC アドレス
- MTU

移行後に Cisco UCS Manager を使用してこれらの構成を再度作成できます。

- シャーシ HDD からシステム ブート ボリュームが作成されたら、[シャーシ HDD からのブート \(25 ページ\)](#) を実行します。

シャーシ HDD からのブート

始める前に

UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ移行する前に、システム ブート ボリュームをシャーシ HDD から作成する場合にのみ、この手順を実行します。

手順の概要

1. [Disk Zoning Policy] が [Preserve Config] に設定されているシャーシ プロファイルとシャーシを関連付けます。
2. サーバのサービス プロファイル内では、[Prepare Claim Local LUN] オプションを使用して LUN とストレージ プロファイルを作成します。
3. サービス プロファイルを関連付けた後、サービス プロファイルのストレージ プロファイルに移動して、[Reclaim orphaned LUN] を選択し、再要求する LUN (シャーシ HDD 上の LUN) を選択します。
4. ブート ポリシーでは、手順2で書き留めたものと同じ名前のローカル LUN を定義します。

手順の詳細

ステップ 1 [Disk Zoning Policy] が [Preserve Config] に設定されているシャーシ プロファイルとシャーシを関連付けます。

詳細については、「*Creating a Chassis Profile with the Wizard*」 (GUI の手順) または「*Creating a Chassis Profile*」 (CLI の手順) を参照してください。

ステップ 2 サーバのサービス プロファイル内では、[Prepare Claim Local LUN] オプションを使用して LUN とストレージ プロファイルを作成します。

LUN の名前を書き留めます。ストレージ プロファイルの詳細については、http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/ucs-manager/GUI-User-Guides/Storage-Mgmt/3-1/b_UCSM_GUI_Storage_Management_Guide_3_1/b_UCSM_GUI_Storage_Management_Guide_3_1_chapter_010000.html#d1049e1627a1635 を参照してください。

ステップ 3 サービス プロファイルを関連付けた後、サービス プロファイルのストレージ プロファイルに移動して、[Reclaim orphaned LUN] を選択し、再要求する LUN（シャーシ HDD 上の LUN）を選択します。

ステップ 4 ブート ポリシーでは、手順 2 で書き留めたものと同じ名前のローカル LUN を定義します。

次のタスク

スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 への移行 (26 ページ) に進みます。

スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 への移行



重要 システムが 2.0(13) 以前のバージョンで実行している場合、スタンドアロン Cisco UCS S3260 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 に移行するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. 2.0(13)用の Cisco UCS S3260 HUU を使用して、システム全体を Cisco IMC リリース 2.0(13) にアップグレードします。Cisco UCS S3260 システム内のすべてのサーバ ノードに対して HUU を実行します。
2. シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
3. システムにキーボードとモニタを接続します。
4. 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。F8 の押下を求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。
5. プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
6. 目的の IP アドレス、NIC モード、NIC 冗長化に応じてネットワーク プロパティを設定します。
7. Cisco UCS Host Upgrade Utility を使用して、残りのシステム コンポーネントを Cisco IMC リリース 2.0(13) 以降にアップグレードします。
8. F8 を押すことを求めるプロンプトが表示されたら、F8 を押して Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
9. サーバを工場出荷時のデフォルトに設定するか、またはユーティリティを使用する次の手順を実行してサーバコントローラを工場出荷時のデフォルトに設定するには、『[Resetting Cisco IMC to Factory Defaults](#)』を参照してください。
10. SIOC の 40G ポートを、ファブリック インターコネクトまたは FEX モジュールに接続できます。

手順の詳細

- ステップ 1** 2.0(13) 用の Cisco UCS S3260 HUU を使用して、システム全体を Cisco IMC リリース 2.0(13) にアップグレードします。Cisco UCS S3260 システム内のすべてのサーバノードに対して HUU を実行します。
- ステップ 2** シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
- ステップ 3** システムにキーボードとモニタを接続します。
1. システムの背面にあるサーバノードの外部 KVM コネクタに KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) を接続します。
 2. VGA モニタと USB キーボードを KVM ケーブルのコネクタに接続します。
- ステップ 4** 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。F8 の押下を求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。
- ステップ 5** プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
- ステップ 6** 目的の IP アドレス、NIC モード、NIC 冗長化に応じてネットワーク プロパティを設定します。
1. 5 つの IP アドレスを設定するという、Cisco UCS S3260 システムの要件に注意します。詳細については、「[システム IP アドレス \(29 ページ\)](#)」を参照してください。手順のこの時点では、システムは次の 3 つのアドレスを必要とします。
 - 1 つの管理 IP アドレス
 - 各 SIOC 用に 1 つの CMC アドレス
 - 各サーバノード用に 1 つの BMC アドレス(注) DHCP サーバを使用している場合、アドレスは DHCP サーバによって定義されます。DHCP をディセーブルにした場合は、ユーザ固有のスタティック管理 IP アドレスとネットワーク設定を指定する必要があります。
 2. ネットワーク設定は、ブート時に F8 を押すと開かれる Cisco IMC 設定ユーティリティを使用しています。http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/s/hw/S3260/install/S3260.html の「*Setting Up the System Using the Cisco IMC Configuration Utility*」を参照してください。
 3. CMC および BMC コントローラのスタティック IP アドレスを設定する場合は、Cisco IMC 管理インターフェイスを使用することが求められています。http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/s/hw/S3260/install/S3260.html の「*Setting Static CMC and BMC Internal IP Addresses*」を参照してください。
- ステップ 7** Cisco UCS Host Upgrade Utility を使用して、残りのシステム コンポーネントを Cisco IMC リリース 2.0(13) 以降にアップグレードします。
- ユーティリティのダウンロード手順と使用方法については、リリース 2.0(13) 以降の Host Upgrade Utility ユーザ ガイド (『[HUU Guides](#)』) を使用してください
- アップグレードが完了したら、Cisco UCS S3260 システムの UCSM 統合への準備が完了します。

- ステップ 8** F8 を押すことを求めるプロンプトが表示されたら、F8 を押して Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
- ステップ 9** サーバを工場出荷時のデフォルトに設定するか、またはユーティリティを使用する次の手順を実行してサーバコントローラを工場出荷時のデフォルトに設定するには、『[Resetting Cisco IMC to Factory Defaults](#)』を参照してください。
1. **F1** を押して、ユーティリティの 2 番目の画面に移動します。
 2. [Factory Default] の下の [Chassis Controller Configuration] オプションを選択します。[Server Controller Configuration] は選択しないでください。
 3. **F10** キーを押して変更を保存し、BMC をリブートします。
 4. リブートが完了するまで待ちます (約 5 分)。
- ステップ 10** SIOC の 40G ポートを、ファブリック インターコネクトまたは FEX モジュールに接続できます。
- 各 SIOC で、1 つのポートが FI-A/FEX-A に接続され、他のポートが FI-B/FEX-B に接続されます。各 SIOC からのトラフィックは、どちらの FI/FEX にも到達できます。「[Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要 \(8 ページ\)](#)」を参照してください。

次のタスク

サーバポートを設定します。「[Cisco UCS Manager を使用したサーバポートの設定 \(30 ページ\)](#)」を参照してください。

スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 [2.0(13) 以降のバージョン] への移行



重要 システムがすでに 2.0(13) 以降のバージョンで実行している場合、スタンドアロン Cisco UCS S3260 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 に移行するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
2. システムにキーボードとモニタを接続します。
3. 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。F8 の押下を求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。
4. プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
5. サーバを工場出荷時のデフォルトに設定するか、またはユーティリティを使用する次の手順を実行してサーバコントローラを工場出荷時のデフォルトに設定するには、『[Resetting Cisco IMC to Factory Defaults](#)』を参照してください。

6. SIOC の 40G ポートを、ファブリック インターコネクトまたは FEX モジュールに接続できます。

手順の詳細

ステップ 1 シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。

ステップ 2 システムにキーボードとモニタを接続します。

1. システムの背面にあるサーバノードの外部 KVM コネクタに KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) を接続します。
2. VGA モニタと USB キーボードを KVM ケーブルのコネクタに接続します。

ステップ 3 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。F8 の押下を求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。

ステップ 4 プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。

ステップ 5 サーバを工場出荷時のデフォルトに設定するか、またはユーティリティを使用する次の手順を実行してサーバコントローラを工場出荷時のデフォルトに設定するには、『[Resetting Cisco IMC to Factory Defaults](#)』を参照してください。

1. **F1** を押して、ユーティリティの 2 番目の画面に移動します。
2. [Factory Default] の下の [Chassis Controller Configuration] オプションを選択します。[Server Controller Configuration] は選択しないでください。
3. **F10** キーを押して変更を保存し、BMC をリブートします。
4. リブートが完了するまで待ちます (約 5 分)。

ステップ 6 SIOC の 40G ポートを、ファブリック インターコネクトまたは FEX モジュールに接続できます。

各 SIOC で、1 つのポートが FI-A/FEX-A に接続され、他のポートが FI-B/FEX-B に接続されます。各 SIOC からのトラフィックは、どちらの FI/FEX にも到達できます。「[Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要 \(8 ページ\)](#)」を参照してください。

次のタスク

サーバポートを設定します。「[Cisco UCS Manager を使用したサーバポートの設定 \(30 ページ\)](#)」を参照してください。

システム IP アドレス

Cisco UCS S3260 システム システムは、最大 5 つの IP アドレスを設定できます。



(注) システム内に存在するすべてのコントローラは、相互に通信するために、割り当てられた IP アドレスが必要です。すべての IP アドレスは DHCP サーバで割り当てることができます。ユーザが固定 IP アドレスを割り当てることもできます。

- 管理 IP : これは、システム全体の仮想 IP アドレスです。このアドレスには、システムの Cisco IMC インターフェイスに、SIOC 1 または SIOC 2 のアクティブ シャーシ管理コントローラへの LAN 接続経由でアクセスするときにログインします。
- SIOC 1 CMC IP : これは SIOC 1 のシャーシ管理コントローラ (CMC) の内部アドレスです。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。
- SIOC 2 CMC IP : これは SIOC 2 の CMC の内部アドレスです (インストールされている場合)。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。
- サーバ 1 BMC IP : これはサーバ ノード 1 のボード管理コントローラ (BMC) の内部アドレスです。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。
- サーバ 2 BMC IP : これはサーバ ノード 2 の BMC の内部アドレスです (インストールされている場合)。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。

Cisco UCS Manager を使用したサーバポートの設定

サーバポートとしてイーサネットポートを設定するには、次の手順を実行します。ポートをサーバポートとして設定すると、移行プロセスは完了です。



(注) スタンドアロン Cisco UCS S3260 に接続されたイーサネットポートがアプライアンスポートとしてすでに設定されていれば、サーバポートとして再設定します。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] > [Fixed Module] > [Ethernet Ports] の順に展開します。
3. [Ethernet Ports] ノードの下のポートをクリックします。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で、[Reconfigure] をクリックします。

- ドロップダウンリストから [Configure as Server Port] を選択します。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] > [Fixed Module] > [Ethernet Ports] の順に展開します。
- ステップ 3 [Ethernet Ports] ノードの下ポートをクリックします。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Reconfigure] をクリックします。
- ステップ 6 ドロップダウンリストから [Configure as Server Port] を選択します。

次のタスク

これで移行プロセスを完了します。Cisco UCS Manager は自動的に S3260 シャーシを検出します。[シャーシディスカバリ ポリシー \(35 ページ\)](#) は、シャーシディスカバリについて詳細を説明します。[サーバ管理 \(123 ページ\)](#) では、Cisco UCS Manager を使用してサーバを管理する方法を説明します。

スタンドアロン Cisco UCS S3260 内に存在する設定を Cisco UCS Manager を使用して再設定できます。[このマニュアルの使用方法 \(5 ページ\)](#) に一覧になっている Cisco UCS Manager 設定ガイドで詳細を説明しています。

管理対象の UCSM から移行 Cisco UCS S3260 管理 UCSM を M4 Cisco UCS S3260 M5

始める前に

移行手順を開始する前に、次の条件を満足していることを確認します。

- システムがそれより前のバージョンを実行している場合は、リリース 3.2(3) 以降の Cisco UCS S3260 Host Upgrade Utility (HUU) をダウンロードして実行してください。Host Upgrade Utility のダウンロード手順と使用方法については、リリース 3.2(3) 以降の Host Upgrade Utility ユーザ ガイドを使用します。使用しているリリースの [HUU ガイド](#) の手順を参照してください。
- PCIe スロットを持つ新しい SIOC を使用する場合は、BMC がバージョン 4.0 以降であることを確認します。

手順の概要

1. シャーシから Cisco UCS S3260 M4 サーバを使用停止にします。

2. シャットダウンして、システム全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
3. 既存の M4 サーバノードを取り外し、いずれかのサーバベイで新しい M5 サーバノードと交換します。
4. 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。

手順の詳細

ステップ 1 シャーシから Cisco UCS S3260 M4 サーバを使用停止にします。

[Cisco UCS S3260 サーバノードの稼働停止 \(132 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 2 シャットダウンして、システム全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。

ステップ 3 既存の M4 サーバノードを取り外し、いずれかのサーバベイで新しい M5 サーバノードと交換します。

ステップ 4 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。

次のタスク

スロットを再認識して、Cisco UCS Manager にこのサーバを再検出させる必要があります。

UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 からスタンドアロン Cisco UCS S3260 への移行

手順の概要

1. シャーシの稼働を中止します。「シャーシ管理」の章の「シャーシの稼働中止」の手順を参照してください。
2. SIOC ケーブルを取り外します。

手順の詳細

ステップ 1 シャーシの稼働を中止します。「シャーシ管理」の章の「シャーシの稼働中止」の手順を参照してください。

ステップ 2 SIOC ケーブルを取り外します。

次のタスク

これで移行プロセスは完了です。シャーシをスタンドアロンモードで使用できるようになりました。詳しい設定については、Cisco UCS S3260 システムの構成ガイドでサーバの管理について参照してください。Cisco UCS S3260 システムの構成ガイドは <http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-c-series-integrated-management-controller/products-installation-and-configuration-guides-list.html> にあります。



第 4 章

機器関連ポリシー

- [シャーシディスカバリ ポリシー \(35 ページ\)](#)
- [シャーシ接続ポリシー \(37 ページ\)](#)

シャーシ ディスカバリ ポリシー

シャーシディスカバリ ポリシーは、新しい Cisco UCS S3260 シャーシまたは既存のスタンドアロン Cisco UCS S3260 シャーシを Cisco UCS システムに追加する際の、システムの対応を決定します。[Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要 \(8 ページ\)](#) では、Cisco UCS S3260 システム (Cisco UCS Manager 管理型) の接続性を説明します。Cisco UCS Manager はシャーシディスカバリ ポリシーの設定を使って、グループをシステム I/O コントローラ (SIOC) からファブリック ポートチャンネルのファブリック インターコネクタにリンクするか決定します。

以前のスタンドアロン Cisco UCS S3260 シャーシを Cisco UCS システムに追加するには、最初に工場出荷時のデフォルトに設定する必要があります。これにより、シャーシの両 SIOC を両方のファブリック インターコネクタに接続できます。シャーシの SIOC をファブリック インターコネクタに接続し、ポートをサーバポートとしてマークすると、シャーシディスカバリが開始されます。

サーバ ディスカバリ

Cisco UCS S3260 シャーシが検出されると、Cisco UCS Manager は Cisco UCS S3260 サーバ ノードを自動的に検出します。



(注) サーバ ディスカバリはサーバに対応する SIOC が存在しない場合、失敗します。

リンクのグループ化

リリースで 4.0(1a)、[リンクのグループの設定](#)は PCIe スロットの新しい SIOC を使用すると、自動的に [ポート チャンネル](#)を設定します。



(注) Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect、リンクのグループの設定は常にポートチャンネルを設定します。

Cisco UCS S3260 シャーシを FEX 経由で Cisco UCS 6200 シリーズ ファブリック インターコネクタに接続、または Cisco UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコネクタまたは Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect に直接接続する場合、Cisco UCS Manager は **[Port Channel]** のプリファレンスを無視し、SIOC は、非ポートチャンネルモードで動作します。

Cisco UCS S3260 シャーシを Cisco UCS 6200 シリーズ ファブリック インターコネクタに直接接続すると、リンクのグループ化を使用して、シャーシの検出時に SIOC からファブリック インターコネクタへのすべてのリンクがファブリック ポートチャンネルにグループ化されているかどうかを判断できます。リンクのグループ化を **[Port Channel]** に優先設定している場合、SIOC からファブリック インターコネクタへのリンクがすべてファブリック ポートチャンネルにグループ化されます。**[None]** に設定すると、SIOC からのリンクはファブリック インターコネクタにピン接続されます。

Cisco UCS S3260 シャーシが 4x10G ブレークアウト ケーブルを介して Cisco UCS 6200 シリーズ ファブリック インターコネクタに接続されている場合、リンクのグループ化プリファレンスを **[Port Channel]** に設定します。これを行わないと、シャーシ ディスカバリは完了しません。

Cisco UCS S3260 シャーシ [conrefS3260](#) シャーシがシングル 10G ケーブルを介してファブリック インターコネクタに接続されている場合、リンクのグループ化プリファレンスを **[None]** に設定します。

Cisco UCS Manager GUI の **[Link Group Preference]** 値を変更した後、変更を有効にするには、Cisco UCS S3260 シャーシの稼働を中止してから再稼働させます。

Cisco UCS ドメインでは、他のシャーシが **[Port Channel]** モードで稼働している場合、次を実行します。

1. **[Link Group Preference]** が **[Port Channel]** に設定された Cisco UCS システムのシャーシを検出します
2. Cisco UCS S3260 シャーシのリンク集約のプリファレンスをシャーシ接続ポリシーを通じて変更します
3. シャーシの稼働を中止します
4. シャーシを再稼働します

シャーシ/FEX ディスカバリ ポリシーの設定

手順の概要

1. **[Navigation]** ペインで **[Equipment]** をクリックします。
2. **[Equipment]** ノードをクリックします。

3. [Work] ペインの [Policies] タブをクリックします。
4. [Global Policies] サブタブをクリックします。
5. [Chassis/FEX Discovery Policy] 領域で、アクションとリンクのグループ化のプリファレンスを指定します。
6. [Save Changes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] ノードをクリックします。

ステップ 3 [Work] ペインの [Policies] タブをクリックします。

ステップ 4 [Global Policies] サブタブをクリックします。

ステップ 5 [Chassis/FEX Discovery Policy] 領域で、アクションとリンクのグループ化のプリファレンスを指定します。

1. **[Action]** ドロップダウンリストで、シャーシまたは FEX とファブリック インターコネクタ間のリンク数の最小しきい値を選択します。
2. **[Link Grouping Preference]** ラジオ ボタンでは、IOM または FEX からファブリック インターコネクタへのリンクを 1 つのポート チャネルにグループ化するかどうかを選択します。

リリース 4.0(1a) では、PCIe スロットを持つ新しい SIOC を使用する場合、**[Link Group Preference]** は自動的に **[Port Channel]** に設定されます。

(注) Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect でセットアップする場合、シャーシ/FEX ディスカバリ ポリシーの **[Link Grouping Preference]** 値はユーザーが設定することはできません。値は **[Port Channel]** に設定されます。

3. **[Backplane Speed Preference]** ラジオ ボタンで速度設定を選択します。40G バックプレーン設定は、22xx IOM には適用されません。

ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。

次のタスク

特性のシャーシのファブリック ポート チャネルの接続をカスタマイズするには、シャーシ接続ポリシーを設定します。

シャーシ接続ポリシー

シャーシ接続ポリシーは、特定のシャーシがシャーシ ディスカバリ後にファブリック ポート チャネルに含められるかどうかを決定します。このポリシーは、グローバルシャーシ ディスカバリ ポリシーで指定したのとは異なる方法で 1 つ以上のシャーシを設定する場合に役立ちます。

デフォルトでは、シャーシ接続ポリシーはグローバルに設定されます。これはつまり、接続制御はシャーシが新しく検出されたときに、シャーシディスカバリポリシーに設定された内容を使用して設定されることを意味しています。シャーシが検出されると、接続制御が「なし」と「ポートチャンネル」のどちらに設定されるかを、シャーシ接続ポリシーが制御します。



(注) シャーシ接続ポリシーは、Cisco UCS Manager によって、ハードウェア設定がファブリックポートチャンネルをサポートする場合にだけ作成されます。

次の表に、FC/FCoE のさまざまな接続とメディアタイプのサポートを示します。

表 7: FC/FCoE の接続とメディアタイプのサポート

FI	接続	サポート	ポートチャンネル	FC/FCoE
Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect	直接接続 10 GB – QSA	対応 ブレークアウトを使用しない	¹ SIOC (非ポートチャンネル) ² 新しい gen SIOC - なし	Yes
Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect	直接接続: 25 G SFP 28	対応 ブレークアウトを使用しない	SIOC - なし 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	対応
Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect	2232 FEX - 10 GB - QSA	対応	SIOC (非ポートチャンネル) 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	対応
Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect	2232xx - 4x10 GB - ブレークアウトケーブル	対応	SIOC (ポートチャンネル) 新しい gen SIOC - なし	該当なし
63xx	直接接続 40 GB	対応	SIOC (非ポートチャンネル) 新しい gen SIOC - なし	対応
63xx	直接接続 10 GB – QSA	対応 ブレークアウトを使用しない	SIOC - なし 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	×
63xx	直接接続 4x10 GB – ブレイクアウト	非対応	該当なし	該当なし

FI	接続	サポート	ポート チャンネル	FC/FCoE
63xx	直接接続 2x10 GB - ブレークアウト	Yes	SIOC - なし 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	×
63xx	2348UPQ FEX - 10 GB - QSA	対応	SIOC (非ポート チャンネル) 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	対応
63xx	2348UPQ FEX - 4x10 GB - ブレー クアウト	非対応	該当なし	該当なし
62xx	直接接続 - 4x10 GB - ブレークア ウト ケーブル	対応	SIOC (ポート チャンネル) 新しい gen SIOC- なし	対応
62xx	直接接続 - 10 GB - QSA	対応	SIOC (非ポート チャンネル) 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	対応
62xx	2232 FEX - 10 GB - QSA	対応	SIOC (非ポート チャンネル) 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	対応
62xx	2232xx - 4x10 GB - ブレークアウト ケーブル	非対応	該当なし	該当なし
6324	直接接続 - 40 GB	非対応	該当なし	該当なし
6324	直接接続 - 10 GB - QSA	非対応	該当なし	該当なし

¹ リリース 3.2 以前で使用されている PCIe を持たない SIOC

² リリース 4.0 以降で使用されている PCIe スロットを持つ新しい SIOC

シャーシ接続ポリシーの設定



注意 シャーシの接続モードを変更すると、シャーシの稼働が停止し、再稼働することになります。その間トラフィックが中断されます。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
3. SIOC とファブリック インターコネク ト間の接続を設定するシャーシをクリックします。
4. [Work] ペインで、[Connectivity Policy] タブをクリックします。
5. シャーシの各 SIOC について、シャーシとファブリック接続用に [Admin State] フィールドで次のいずれかの値を選択します。
6. [Save Changes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。

ステップ 3 SIOC とファブリック インターコネク ト間の接続を設定するシャーシをクリックします。

ステップ 4 [Work] ペインで、[Connectivity Policy] タブをクリックします。

ステップ 5 シャーシの各 SIOC について、シャーシとファブリック接続用に [Admin State] フィールドで次のいずれかの値を選択します。

- [なし (None)] : リンクをポート チャネルにグループ化しません
- [Port Channel] : IOM からファブリック インターコネク トへのすべてのリンクがポート チャネルにグループ化されます。
(注) Cisco UCS 6454 Fabric Interconnectポート チャネル モードのみをサポートします。
- [Global] : シャーシはこの設定をシャーシ ディスカバリ ポリシーから継承します。これはデフォルト値です。

ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。



第 5 章

シャーシ プロファイル

- [シャーシ プロファイル Cisco UCS Manager \(41 ページ\)](#)
- [シャーシ プロファイルに関するガイドラインおよび推奨事項 \(42 ページ\)](#)
- [ウィザードを使用したシャーシ プロファイルの作成 \(42 ページ\)](#)
- [シャーシ プロファイルの名前の変更 \(44 ページ\)](#)
- [シャーシ プロファイルの複製 \(45 ページ\)](#)
- [シャーシ プロファイルの削除 \(46 ページ\)](#)
- [シャーシ プロファイルの関連付け \(47 ページ\)](#)
- [シャーシ プロファイル テンプレート \(49 ページ\)](#)
- [シャーシ メンテナンス ポリシー \(56 ページ\)](#)
- [コンピューティング接続ポリシー \(59 ページ\)](#)

シャーシ プロファイル Cisco UCS Manager

シャーシ プロファイルはシャーシのストレージ、ファームウェアとメンテナンスの特性を定義します。Cisco UCS S3260 シャーシのシャーシ プロファイルを作成できます。シャーシ プロファイルがシャーシに関連付けられると、Cisco UCS Manager は自動的にシャーシ プロファイルで指定された設定に一致するようにシャーシを設定します。



重要 各 S3260 シャーシは、いつの時点においても 1 つのシャーシ プロファイルだけに関連付けることができます。同様に、各シャーシ プロファイルは 1 度に 1 つの S3260 シャーシだけに関連付けることができます。

シャーシ プロファイルには、次の情報が含まれます。

- **Chassis definition** : プロファイルを割り当てる特定のシャーシを定義します。
- **Maintenance policy** : プロファイルに適用されるメンテナンス ポリシーが含まれます。
- **[Firmware specifications]** : このプロファイルによるシャーシに適用できるシャーシファームウェア パッケージを定義します。

- **[Disk zoning policy]** : ストレージディスクに適用されるゾーン分割ポリシーが含まれます。
- **Compute Connection policy** : プライマリ SIOC、補助 SIOC、およびサーバ間のデータパスを定義します。

シャーシプロファイルに関するガイドラインおよび推奨事項

シャーシプロファイルまたはシャーシプロファイルテンプレートに含まれるポリシー（ディスクゾーン分割ポリシーなど）に固有のガイドラインと推奨事項に加え、シャーシプロファイルとシャーシを関連付ける機能に影響する以下のガイドラインと推奨事項も順守してください。

- 各 S3260 シャーシは、1 個のみシャーシプロファイルに関連付けることが可能です。同様に、各シャーシプロファイルは 1 度に 1 つの S3260 シャーシだけに関連付けることができます。
- シャーシプロファイルは、Cisco UCS S3260 シャーシ上でのみサポートされます。Cisco UCS 5108 ブレードサーバシャーシは、シャーシプロファイルをサポートしておらず、シャーシプロファイルに関連付けることはできません。
- Cisco UCS S3260 シャーシでは、S シリーズサーバソフトウェアの Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) より前のバンドルはサポートされません。

ウィザードを使用したシャーシプロファイルの作成

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。
3. シャーシプロファイルを作成する組織のノードを展開します。
4. 組織を右クリックし、[Create Chassis Profile] を選択します。
5. [Identify Chassis Profile] パネルで、シャーシプロファイルの [Name] を指定して、[Next] をクリックします。
6. (任意) [Chassis Maintenance Policy] パネルで、シャーシメンテナンスポリシーを指定して [Next] をクリックします。
7. (任意) [Chassis Assignment] パネルで、次を指定して [Next] をクリックします。
8. (任意) [Disk Zoning Policy] パネルで、ディスクゾーン分割ポリシーを指定して [Next] をクリックします。
9. (任意) [Sas Expander Configuration Policy] パネルで、SAS エクスパンダ設定ポリシーを指定し、[Next] をクリックします。
10. [Finish] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。
- ステップ 3** シャーシ プロファイルを作成する組織のノードを展開します。
システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ 4** 組織を右クリックし、[Create Chassis Profile] を選択します。
- ステップ 5** [Identify Chassis Profile] パネルで、シャーシ プロファイルの [Name] を指定して、[Next] をクリックします。
この名前には、1 ~ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。
このシャーシ プロファイルの説明 (任意) を入力できます。
(注) シャーシ プロファイルをすばやく作成するには、名前を指定した後に [Finish] をクリックします。Cisco UCS Manager は、指定された名前とすべてのシステム デフォルト値を使用して、新しいシャーシ プロファイルを作成します。
- ステップ 6** (任意) [Chassis Maintenance Policy] パネルで、シャーシ メンテナンス ポリシーを指定して [Next] をクリックします。
このパネルから新しいメンテナンス ポリシーを作成することができます。[シャーシ メンテナンス ポリシーの作成 \(56 ページ\)](#) では、シャーシ メンテナンス ポリシーの作成について説明します。
- ステップ 7** (任意) [Chassis Assignment] パネルで、次を指定して [Next] をクリックします。
- a) ドロップダウン リストから [Chassis Assignment] を指定します。
[Chassis Assignment] に次のいずれかを指定できます。
- **Assign Later** : シャーシ プロファイルを作成して設定した後で、シャーシを割り当てることができます。
 - **Select existing Chassis** : シャーシ プロファイルに割り当てられるシャーシを選択するのに使用できる、使用可能で関連付けられていないシャーシの表が表示されます。
シャーシに関連付けられた後にシャーシ プロファイルの移行を制限する場合は、[Restrict Migration] チェックボックスをオンにします。
移行を制限しない場合、既存のシャーシ プロファイルを移行する前に、Cisco UCS Manager による新規シャーシに対する互換性チェックは実行されません。シャーシ タイプが類似していない場合、関連付けが失敗することがあります。
- b) [Chassis Firmware Package] をこのシャーシに関連付けるには、[Chassis Firmware Package] 領域を展開して、シャーシ ファームウェア パッケージを指定します。

このパネルからシャーシファームウェアパッケージを作成することができます。[シャーシファームウェアパッケージの作成 \(95 ページ\)](#) は、シャーシファームウェアパッケージの作成について詳しく説明します。

- c) **コンピューティング接続ポリシー**をこのシャーシプロファイルに関連付けるには、[Compute Connection Policy] 領域を展開してコンピューティング接続ポリシーを指定します。**コンピューティング接続ポリシー**および **Server SIOC Connectivity 機能**の詳細については、[Server SIOC Connectivity 機能 \(14 ページ\)](#) を参照してください。

このパネルからコンピューティング接続ポリシーを作成することができます。[コンピューティング接続ポリシーの作成 \(60 ページ\)](#) は、コンピューティング接続ポリシーの作成について詳しく説明します。

ステップ 8 (任意) [Disk Zoning Policy] パネルで、ディスクゾーン分割ポリシーを指定して [Next] をクリックします。

このパネルからディスクゾーミングポリシーを作成することができます。[ディスクゾーン分割ポリシーの作成 \(75 ページ\)](#) では、ディスクゾーミングポリシーの作成について詳しく説明します。

(注) ディスクゾーン分割ポリシーを選択しないと、デフォルトのディスクゾーン分割ポリシーが使用されます。デフォルトのディスクゾーン分割ポリシーでは [Preserve Config] が選択されています。

ステップ 9 (任意) [Sas Expander Configuration Policy] パネルで、SAS エクспанダ設定ポリシーを指定し、[Next] をクリックします。

このパネルから Sas エクспанダ設定ポリシーを作成できます。[SAS エクспанダ設定ポリシーの作成 \(83 ページ\)](#) は、Sas エクспанダ設定ポリシーの作成について詳しく説明します。

(注) Sas エクспанダ設定ポリシーを選択しない場合、デフォルトの Sas エクспанダ設定ポリシーが使用されます。**[変更なし]** は、デフォルトの Sas エクспанダ設定ポリシーでデフォルトで選択されます。

ステップ 10 [Finish] をクリックします。

シャーシ プロファイルの名前の変更

シャーシプロファイルの名前を変更すると、次のことが起こります。

- シャーシプロファイルの以前の名前を参照するイベント ログと監査ログは、その名前のまま保持されます。
- 名前変更の操作を記録する、新しい監査データが作成されます。
- シャーシプロファイルの以前の名前で生じたすべての障害データは、新しいシャーシプロファイル名に転送されます。



(注) 保留中の変更があるシャーシ プロファイルの名前は変更できません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。
3. 名前を変更するシャーシ プロファイルが含まれている組織のノードを展開します。
4. 名前を変更するシャーシ プロファイルをクリックします。
5. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
6. [Actions] 領域で、[Rename Chassis Profile] をクリックします。
7. [Rename Chassis Profile] ダイアログ ボックスで、[New Name] フィールドにシャーシ プロファイルの新しい名前を入力します。
8. [OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。

ステップ 3 名前を変更するシャーシ プロファイルが含まれている組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 名前を変更するシャーシ プロファイルをクリックします。

ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域で、[Rename Chassis Profile] をクリックします。

ステップ 7 [Rename Chassis Profile] ダイアログ ボックスで、[New Name] フィールドにシャーシ プロファイルの新しい名前を入力します。

この名前には、1～16文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

シャーシ プロファイルの複製

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。

3. 複製するシャーシ プロファイルが含まれている組織のノードを展開します。
4. 複製するシャーシ プロファイルを右クリックし、[Create a Clone] を選択します。
5. [Create Clone From Service Profile] ダイアログボックスで次の作業を行います。
6. 作成したシャーシ プロファイルに移動し、すべてのオプションが正しいことを確認します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。

ステップ 3 複製するシャーシ プロファイルが含まれている組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 複製するシャーシ プロファイルを右クリックし、[Create a Clone] を選択します。

ステップ 5 [Create Clone From Service Profile] ダイアログボックスで次の作業を行います。

a) 新しいプロファイルに使用する名前を [Clone Name] フィールドに入力します。

この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。

この名前は、シャーシ プロファイルを作成する組織またはサブ組織内で一意である必要があります。

b) (任意) シャーシ プロファイルを作成する組織またはサブ組織を選択します。

c) [OK] をクリックします。

ステップ 6 作成したシャーシ プロファイルに移動し、すべてのオプションが正しいことを確認します。

シャーシ プロファイルの削除

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。
3. 削除するシャーシ プロファイルを右クリックし、[Delete] を選択します。
4. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ2 [Chassis] > [Chassis Profiles]の順に展開します。

ステップ3 削除するシャーシ プロファイルを右クリックし、[Delete] を選択します。

ステップ4 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ5 [OK] をクリックします。

シャーシ プロファイルの関連付け

シャーシ プロファイルとシャーシの関連付け

作成時にシャーシ プロファイルをシャーシに関連付けなかった場合、またはシャーシ プロファイルに関連付けるシャーシを変更する場合には、次の手順を実行します。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles]の順に展開します。
3. 新しいシャーシに関連付けるシャーシ プロファイルが含まれる組織のノードを展開します。
4. シャーシに関連付けるシャーシ プロファイルを右クリックし、[Change Chassis Profile Association] を選択します。
5. [Associate Chassis Profile] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [Select existing Chassis] オプションを選択します。
6. 使用可能なシャーシの表の [Select] 列で、このシャーシ プロファイルに関連付けるシャーシのラジオ ボタンをクリックします。
7. (任意) シャーシに関連付けられた後にシャーシ プロファイルの移行を制限する場合は、[Restrict Migration] チェックボックスをオンにします。
8. [OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ2 [Chassis] > [Chassis Profiles]の順に展開します。

ステップ3 新しいシャーシに関連付けるシャーシ プロファイルが含まれる組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ4 シャーシに関連付けるシャーシ プロファイルを右クリックし、[Change Chassis Profile Association] を選択します。

ステップ5 [Associate Chassis Profile] ダイアログボックスで、ドロップダウンリストから [Select existing Chassis] オプションを選択します。

シャーシプロファイルに割り当てられるシャーシを選択するのに使用できる、使用可能で関連付けられていないシャーシの表が表示されます。

ステップ 6 使用可能なシャーシの表の [Select] 列で、このシャーシプロファイルに関連付けるシャーシのラジオ ボタンをクリックします。

ステップ 7 (任意) シャーシに関連付けられた後にシャーシプロファイルの移行を制限する場合は、[Restrict Migration] チェックボックスをオンにします。

移行を制限しない場合、既存のシャーシプロファイルを移行する前に、Cisco UCS Manager による新規シャーシに対する互換性チェックは実行されません。両方のシャーシのハードウェアが類似していない場合、関連付けが失敗することがあります。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

シャーシ プロファイルとシャーシの関連付け解除

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。
3. シャーシとの関連付けを解除するシャーシプロファイルが含まれる組織のノードを展開します。
4. シャーシとの関連付けを解除するシャーシプロファイルを右クリックし、[Disassociate Chassis Profile] を選択します。
5. [Disassociate Chassis Profile] ダイアログ ボックスで、[Yes] をクリックして確認します。
6. (任意) シャーシのステータスおよび FSM をモニタして、関連付けの解除が完了したことを確認します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。

ステップ 3 シャーシとの関連付けを解除するシャーシプロファイルが含まれる組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 シャーシとの関連付けを解除するシャーシプロファイルを右クリックし、[Disassociate Chassis Profile] を選択します。

ステップ 5 [Disassociate Chassis Profile] ダイアログ ボックスで、[Yes] をクリックして確認します。

ステップ 6 (任意) シャーシのステータスおよび FSM をモニタして、関連付けの解除が完了したことを確認します。

シャーシ プロファイル テンプレート

シャーシ プロファイル テンプレート

シャーシ プロファイル テンプレートを使用して、メンテナンス ポリシーやディスク ゾーン 分割ポリシーなどの基本的なパラメータを共通させることで、複数のシャーシ プロファイルを迅速に作成できます。



ヒント 既存のシャーシ プロファイルに類似した値を持つ 1 つのシャーシ プロファイルだけが必要な場合は、Cisco UCS Manager GUI でシャーシ プロファイルを複製できます。

たとえば、類似した値を持つ数個のシャーシ プロファイルが必要である場合、手動、または既存のシャーシ プロファイルから、シャーシ プロファイル テンプレートを作成できます。その後、このテンプレートを使用して、シャーシ プロファイルを作成できます。

Cisco UCS 次のタイプのシャーシ プロファイル テンプレートをサポートしています。

初期テンプレート

初期テンプレートから作成されたシャーシ プロファイルはテンプレートのプロパティをすべて継承します。初期シャーシ プロファイル テンプレートから作成されたシャーシ プロファイルはテンプレートにバインドされます。ただし、初期テンプレートに対して行われた変更は、バインドされたシャーシ プロファイルに自動的に伝播されません。バインドされたシャーシ プロファイルに変更を伝播したい場合は、そのシャーシ プロファイルをアンバインドしてから、再び初期テンプレートにバインドします。

アップデート テンプレート

テンプレートのアップデートから作成されたシャーシ プロファイルはテンプレートのプロパティをすべて継承し、そのテンプレートへの接続をそのまま保持します。テンプレートを変更すると、このテンプレートから作成されたシャーシ プロファイルが自動的にアップデートされます。

シャーシ プロファイル テンプレートの作成

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profile Templates] の順に展開します。
3. シャーシ プロファイル テンプレートを作成する組織のノードを展開します。
4. 組織を右クリックし、[Create Chassis Profile Template] を選択します。
5. [Identify Chassis Profile Template] パネルで、シャーシ プロファイルの [Name]、[Type] を指定し、[Next] をクリックします。

6. (任意) [Chassis Maintenance Policy] パネルで、シャーシ メンテナンス ポリシーを指定して [Next] をクリックします。
7. (任意) [Policies] パネルで、次を指定して [Next] をクリックします。
8. (任意) [Disk Zoning Policy] パネルで、ディスク ゾーン分割ポリシーを指定して [Next] をクリックします。
9. [Finish] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profile Templates] の順に展開します。

ステップ 3 シャーシ プロファイル テンプレートを作成する組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 組織を右クリックし、[Create Chassis Profile Template] を選択します。

ステップ 5 [Identify Chassis Profile Template] パネルで、シャーシ プロファイルの [Name]、[Type] を指定し、[Next] をクリックします。

このシャーシ プロファイル テンプレートの説明 (任意) を入力できます。

(注) シャーシ プロファイル テンプレートをすばやく作成するには、名前を指定した後に **[Finish]** をクリックします。Cisco UCS Manager は、指定された名前とすべてのシステム デフォルト値を使用して、新しいシャーシ プロファイル テンプレートを作成します。

ステップ 6 (任意) [Chassis Maintenance Policy] パネルで、シャーシ メンテナンス ポリシーを指定して [Next] をクリックします。

このパネルから新しいシャーシ メンテナンス ポリシーを作成できます。

ステップ 7 (任意) [Policies] パネルで、次を指定して [Next] をクリックします。

- a) シャーシ ファームウェア パッケージを関連付けるには、[Chassis Firmware Package] 領域を展開して、シャーシ ファームウェア パッケージを指定します。

このパネルからシャーシ ファームウェア パッケージを作成できます。[シャーシ ファームウェア パッケージの作成 \(95 ページ\)](#) はシャーシ ファームウェア パッケージの作成に関する詳細を提供します。

- b) コンピューティング接続ポリシーを関連付けるには、[Compute Connection Policy] 領域を展開してコンピューティング接続ポリシーを指定します。コンピューティング接続ポリシーおよび Server SIOC Connectivity 機能の詳細については、[Server SIOC Connectivity 機能 \(14 ページ\)](#) を参照してください。

このパネルからコンピューティング接続ポリシーを作成することができます。[コンピューティング接続ポリシーの作成 \(60 ページ\)](#) は、コンピューティング接続ポリシーの作成について詳しく説明します。

ステップ 8 (任意) [Disk Zoning Policy] パネルで、ディスク ゾーン分割ポリシーを指定して [Next] をクリックします

このパネルからディスク ゾーン分割ポリシーを作成できます。

ステップ9 [Finish] をクリックします。

シャーシ プロファイル テンプレートから1つ以上のシャーシ プロファイルの作成

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profile Templates] の順に展開します。
3. シャーシ プロファイルのベースとして使用するシャーシ プロファイル テンプレートを含む組織のノードを展開します。
4. プロファイルの作成元となるシャーシ プロファイル テンプレートを右クリックし、[Create Chassis Profiles From Template] を選択します。
5. [Create Chassis Profiles From Template] ダイアログ ボックスで、必要なフィールドに値を入力します。
6. [OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ2 [Chassis] > [Chassis Profile Templates] の順に展開します。

ステップ3 シャーシ プロファイルのベースとして使用するシャーシ プロファイル テンプレートを含む組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ4 プロファイルの作成元となるシャーシ プロファイル テンプレートを右クリックし、[Create Chassis Profiles From Template] を選択します。

ステップ5 [Create Chassis Profiles From Template] ダイアログ ボックスで、必要なフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Naming Prefix] フィールド	<p>テンプレート名に使用する接頭辞。システムによってシャーシ プロファイルが作成されるとき、この接頭辞に一意的な数値 ID が追加されます。この番号は、名前のサフィックス開始 Number フィールドで指定される番号から始まります。</p> <p>1～29文字の英数字を入力します。スペースおよび次を除く特殊文字は使用できません：- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および. (ピリオド) が使用できます。</p>

名前	説明
[Name Suffix Starting Number] フィールド	シャーシ プロファイル [Naming Prefix] にサフィックスとして割り当てられている、最初の一意な数字識別子。
[Number of Instances] フィールド	シャーシ プロファイルを作成するの数。 1 ~ 255 の範囲内の数を入力してください。 たとえば、[Naming Prefix] を [MyProfile] として [Name Suffix Starting Number] を 1、[Number of Instances] として指定する場合、最初のシャーシ プロファイルは MyProfile1 になり、2 つ目は MyProfile2 になります。
[Chassis Profile Template] フィールド	シャーシ プロファイル テンプレートの名前

ステップ 6 [OK] をクリックします。

シャーシ プロファイルからのシャーシ プロファイル テンプレートの作成

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。
3. テンプレートのベースとして使用するシャーシ プロファイルが含まれる組織のノードを展開します。
4. テンプレートの作成元となるシャーシ プロファイルを右クリックし、[Create a Chassis Profile Template] を選択します。
5. [Create Template From Chassis Profile] ダイアログ ボックスで、必要なフィールドに値を入力します。
6. [OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。

ステップ 3 テンプレートのベースとして使用するシャーシ プロファイルが含まれる組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 テンプレートの作成元となるシャーシ プロファイルを右クリックし、[Create a Chassis Profile Template] を選択します。

ステップ 5 **[Create Template From Chassis Profile]** ダイアログ ボックスで、必要なフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Template Name] フィールド	シャーシ プロファイル テンプレートの名前
[Org] ドロップダウン リスト	このテンプレートを関連付ける組織を選択します。
[Type] フィールド	テンプレートのタイプ。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Initial Template] : テンプレートが変更されても、このテンプレートから作成されたシャーシ プロファイル テンプレートはアップデートされません。 • [Updating Template] : テンプレートが変更されると、このテンプレートから作成されたシャーシ プロファイル テンプレートがアップデートされます。

ステップ 6 **[OK]** をクリックします。

シャーシ テンプレート プロファイルの複製

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. **[Chassis] > [Chassis Profile Templates]** の順に展開します。
3. 複製するシャーシテンプレートプロファイルが含まれている組織のノードを展開します。
4. 複製するシャーシテンプレートプロファイルを右クリックし、**[Create a Clone]** を選択します。
5. **[Create Clone From Chassis Template Profile]** ダイアログボックスで次の作業を行います。
6. 作成したシャーシテンプレートプロファイルに移動し、すべてのオプションが正しいことを確認します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 **[Chassis] > [Chassis Profile Templates]** の順に展開します。

ステップ 3 複製するシャーシテンプレートプロファイルが含まれている組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 複製するシャーシテンプレートプロファイルを右クリックし、**[Create a Clone]** を選択します。

ステップ 5 **[Create Clone From Chassis Template Profile]** ダイアログボックスで次の作業を行います。

- a) 新しいプロファイルに使用する名前を **[Clone Name]** フィールドに入力します。

この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン) 、 _ (アンダースコア) 、 : (コロン) 、 および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。

この名前は、シャーシテンプレートプロファイルを作成する組織またはサブ組織内で一意である必要があります。

- b) (任意) シャーシテンプレートプロファイルを作成する組織またはサブ組織を選択します。
- c) [OK] をクリックします。

ステップ 6 作成したシャーシテンプレートプロファイルに移動し、すべてのオプションが正しいことを確認します。

シャーシ プロファイル テンプレートのメンテナンス ポリシーの変更

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profile Templates] の順に展開します。
3. 変更するシャーシメンテナンス ポリシーを含むシャーシプロファイルテンプレートが含まれている組織のノードを展開します。
4. 変更するシャーシプロファイルテンプレートをクリックします。
5. [Work] ペインの [General] タブをクリックします。
6. [Actions] 領域で、[Change Chassis Maintenance Policy] をクリックします
7. [Change Chassis Maintenance Policy] ダイアログボックスで、[Chassis Maintenance Policy] ドロップダウン リストからシャーシのメンテナンス ポリシーを指定して、[OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profile Templates] の順に展開します。

ステップ 3 変更するシャーシメンテナンス ポリシーを含むシャーシプロファイルテンプレートが含まれている組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 変更するシャーシプロファイルテンプレートをクリックします。

ステップ 5 [Work] ペインの [General] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域で、[Change Chassis Maintenance Policy] をクリックします

ステップ 7 [Change Chassis Maintenance Policy] ダイアログボックスで、[Chassis Maintenance Policy] ドロップダウン リストからシャーシのメンテナンス ポリシーを指定して、[OK] をクリックします。

このパネルから新しいメンテナンス ポリシーを作成できます。

シャーシ プロファイル テンプレートへのシャーシ プロファイルのバインディング

シャーシプロファイルをシャーシプロファイルテンプレートにバインドすることができます。シャーシプロファイルをテンプレートにバインドした場合、Cisco UCS Managerにより、シャーシプロファイルテンプレートに定義された値を使って、シャーシプロファイルが設定されます。既存のシャーシプロファイル設定がテンプレートに一致しない場合、Cisco UCS Managerにより、シャーシプロファイルが再設定されます。バインドされたシャーシプロファイルの設定は、関連付けられたテンプレートを使用してのみ変更できます。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles]の順に展開します。
3. バインドするシャーシプロファイルが含まれている組織のノードを展開します。
4. バインドするシャーシプロファイルをクリックします。
5. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
6. [Actions] 領域で、[Bind to a Template] をクリックします。
7. [Bind to a Chassis Profile Template] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profiles]の順に展開します。

ステップ 3 バインドするシャーシプロファイルが含まれている組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 バインドするシャーシプロファイルをクリックします。

ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域で、[Bind to a Template] をクリックします。

ステップ 7 [Bind to a Chassis Profile Template] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a) [Chassis Profile Template] ドロップダウンリストから、シャーシプロファイルにバインドするテンプレートを選択します。
- b) [OK] をクリックします。

シャーシ プロファイル テンプレートからのシャーシ プロファイルのバインド解除

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles]の順に展開します。
3. バインド解除するシャーシ プロファイルが含まれている組織のノードを展開します。
4. バインド解除するシャーシ プロファイルをクリックします。
5. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
6. [Actions] 領域で [Unbind from the Template] をクリックします。
7. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profiles]の順に展開します。

ステップ 3 バインド解除するシャーシ プロファイルが含まれている組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 バインド解除するシャーシ プロファイルをクリックします。

ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域で [Unbind from the Template] をクリックします。

ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

シャーシ メンテナンス ポリシー

シャーシ メンテナンス ポリシーの作成

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Policies] の順に展開します。
3. ポリシーを作成する組織のノードを展開します。
4. [Chassis Maintenance Policies] を右クリックし、[Create Maintenance Policy] を選択します。
5. [Create Chassis Maintenance Policy] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。
6. [OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Policies] の順に展開します。

ステップ 3 ポリシーを作成する組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 [Chassis Maintenance Policies] を右クリックし、[Create Maintenance Policy] を選択します。

ステップ 5 [Create Chassis Maintenance Policy] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	<p>ポリシーの名前。</p> <p>この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。</p>
[Description] フィールド	<p>ポリシーの説明。ポリシーを使用する場所とタイミングについての情報を含めることを推奨します。</p> <p>256 文字以下で入力します。次を除く任意の文字またはスペースを使用できます。 ` (アクセント記号)、\ (バックスラッシュ)、^ (キャレット)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または ' (一重引用符) は使用できません。</p>

名前	説明
[Reboot Policy] フィールド	<p>シャーシプロファイルがシャーシに関連付けられたとき、またはシャーシにすでに関連付けられているシャーシプロファイルに変更を加えたときは、プロセスを完了するためにシャーシをリブートする必要があります。[Reboot Policy] フィールドは、このシャーシメンテナンス ポリシーを含むシャーシプロファイルのいずれかに関連付けられたシャーシで電源の再投入がいつ発生するかを決定します。シャーシプロファイルとシャーシプロファイルテンプレートがサポートするのは1つのリブートポリシーだけです。</p> <p>[User Ack] : シャーシプロファイルの関連付けが完了したり、変更が行われたりした後で、ユーザはシャーシの電源を手動で再投入する必要があります。</p>

ステップ 6 [OK] をクリックします。

次のタスク

ポリシーをシャーシプロファイルまたはシャーシプロファイルテンプレートに含めます。

シャーシ プロファイルのメンテナンス ポリシーの変更

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles]の順に展開します。
3. 変更するメンテナンス ポリシーを含むシャーシプロファイルが含まれている組織のノードを展開します。
4. 変更するシャーシプロファイルを右クリックし、[Change Chassis Maintenance Policy] を選択します。
5. [Change Chassis Maintenance Policy] ダイアログボックスで、[Chassis Maintenance Policy] ドロップダウン リストからシャーシのメンテナンス ポリシーを指定して、[OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profiles]の順に展開します。

- ステップ3** 変更するメンテナンスポリシーを含むシャーシプロファイルが含まれている組織のノードを展開します。
システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ4** 変更するシャーシプロファイルを右クリックし、[Change Chassis Maintenance Policy] を選択します。
- ステップ5** [Change Chassis Maintenance Policy] ダイアログボックスで、[Chassis Maintenance Policy] ドロップダウン リストからシャーシのメンテナンス ポリシーを指定して、[OK] をクリックします。
このパネルから新しいシャーシメンテナンス ポリシーを作成できます。
- (注) シャーシプロファイルは、混乱が生じる変更が適用されると即座にリブートします。

シャーシメンテナンス ポリシーの削除

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Policies] > [Organization_Name] の順に展開します。
3. [Chassis Maintenance Policies] を展開します。
4. 削除するシャーシメンテナンス ポリシーを右クリックし、[Delete] を選択します。
5. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ1** [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
- ステップ2** [Chassis] > [Policies] > [Organization_Name] の順に展開します。
- ステップ3** [Chassis Maintenance Policies] を展開します。
- ステップ4** 削除するシャーシメンテナンス ポリシーを右クリックし、[Delete] を選択します。
- ステップ5** 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

コンピューティング接続ポリシー

コンピューティング接続ポリシーは、サーバ SIOC 接続のユーザ設定を保存するために使用されます。これらの設定は、[Server SIOC Connectivity] プロパティを使用して行われます。このプロパティは次のいずれかに設定できます。

- [single-server-single-sioc] (デフォルト) : シャーシに単一サーバと単一 SIOC またはデュアルサーバとデュアル SIOC が装着されている場合に、1 つの SIOC を経由するデータパスを設定します。

- [single-server-dual-sioc] : 有効な場合は、シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されていると、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を經由するデータパスを設定できます。詳細については、[Server SIOC Connectivity 機能 \(14 ページ\)](#) を参照してください。

コンピューティング接続ポリシーの作成

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Policies] > [Organization_Name] の順に展開します。
3. [Compute Connection Policies] を右クリックして、[Create Compute Connection Policy] を選択します。
4. [Create Compute Connection Policy] ペインで次の情報を入力します。
5. [OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Policies] > [Organization_Name] の順に展開します。

ステップ 3 [Compute Connection Policies] を右クリックして、[Create Compute Connection Policy] を選択します。

ステップ 4 [Create Compute Connection Policy] ペインで次の情報を入力します。

- [Name] : ポリシーの名前を入力します。
- [Description] : ポリシーの簡単な説明。
- [Server SIOC Connectivity] : 次のいずれかを選択します。
 - [single-server-single-sioc] (デフォルト) : シャーシに単一サーバと単一 SIOC またはデュアルサーバとデュアル SIOC が装着されている場合に、1 つの SIOC を經由するデータパスを設定します。
 - [single-server-dual-sioc] : 有効な場合は、シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されていると、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を經由するデータパスを設定できます。詳細については、[Server SIOC Connectivity 機能 \(14 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

- (注) GUI で [Compute Conn Policy] プロパティを [single-server-dual-sioc] に設定すると、この操作によってサーバがリブートすることを警告するメッセージが Cisco UCS Manager により表示されます。メッセージの確認後に、シャーシの関連付けがトリガーされます。Server SIOC Connectivity 設定が正常に展開されると、サーバの詳細なディスクバリエーションが Cisco UCS Manager により自動的にトリガーされます。

コンピューティング接続ポリシーとシャーシプロファイルの関連付け

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles] > [Chassis_Profile_Name] の順に展開します。
3. [Policies] タブを選択します。
4. [Compute Connection Policies] 領域を展開します。
5. [Compute Connection Policies] ドロップダウンリストからポリシーを選択します。
6. [Save Changes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

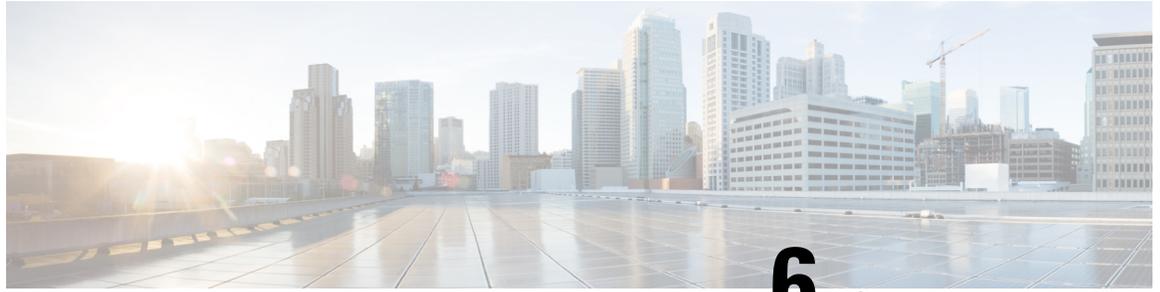
ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profiles] > [Chassis_Profile_Name] の順に展開します。

ステップ 3 [Policies] タブを選択します。

ステップ 4 [Compute Connection Policies] 領域を展開します。

ステップ 5 [Compute Connection Policies] ドロップダウンリストからポリシーを選択します。

ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。



第 6 章

Cisco UCS S3260 システムストレージ管理

- [ストレージサーバ機能およびコンポーネントの概要 \(63 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 ストレージ管理操作 \(73 ページ\)](#)
- [高可用性のためのディスクの共有 \(74 ページ\)](#)
- [ストレージエンクロージャ操作 \(83 ページ\)](#)
- [SAS エクスパンダ設定ポリシー \(83 ページ\)](#)

ストレージサーバ機能およびコンポーネントの概要

ストレージサーバ機能

次の表に、Cisco UCS S3260 システムの機能の概要を示します。

表 8 : Cisco UCS S3260 システムの機能

機能	説明
シャーシ	4 ラックユニット (4RU) シャーシ
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none">• Cisco UCS S3260 M3 サーバ ノード : 各サーバ ノード内の 2 つの Intel Xeon E5-2600 v2 シリーズ プロセッサ。• Cisco UCS S3260 M4 サーバ ノード : 各サーバ ノード内の 2 つの Intel Xeon E5-2600 v4 シリーズ プロセッサ。• Cisco UCS S3260 M3 サーバ ノード : 各サーバ ノード内の 2 つの Skylake 2S-EP プロセッサ。
メモリ	各サーバ ノード内で最大 16 個の DIMM。

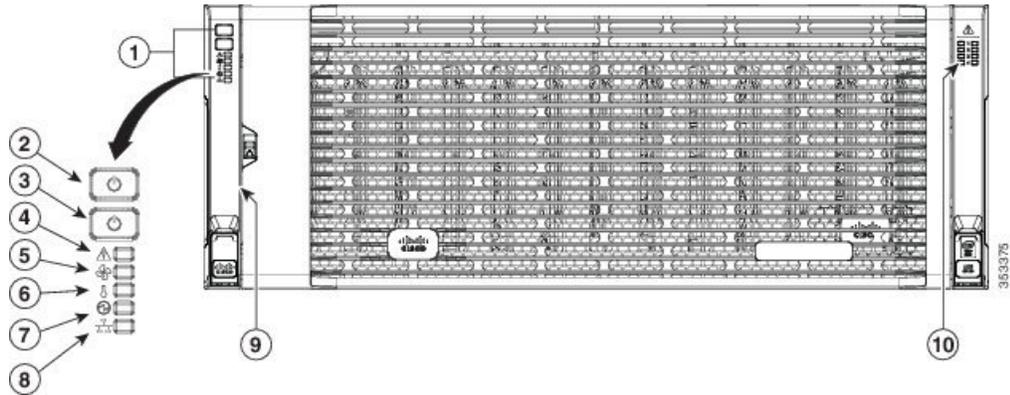
機能	説明
マルチビット エラー保護	このシステムは、マルチビット エラー保護をサポートします。
ストレージ	<p>システムには次のストレージ オプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最大 56 台のトップ ローディング 3.5 インチ ドライブ • オプションのドライブ エクспанダ モジュール内に最大 4 台の 3.5 インチ、リア ローディング ドライブ • 最大 4 台の 2.5 インチ、リア ローディング SAS ソリッドステート ドライブ (SSD) • サーバ ノード内部の 1 台の 2.5 インチ NVMe ドライブ (注) これは S3260 M4 サーバにのみ適用されます。 • サーバ ノード内に 2 台の 7 mm NVMe ドライブ (注) これは、S3260 M5 サーバのみに適用されます。 • IO エクспанダのサポートされている 2 つの 15 mm NVMe ドライブ
ディスク管理	<p>このシステムは、最大 2 台のストレージ コントローラをサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各サーバ ノード内に Cisco ストレージ コントローラ カード用の専用メザニン形式 ソケット 1 基
RAID バックアップ	supercap 電源モジュール (SCPM) は、RAID コントローラ カードにマウントされます。

機能	説明
PCIe I/O	<p>オプションの I/O エクспанダは、8x Gen 3 PCIe 拡張スロットを 2 つ提供します。</p> <p>リリース 3.2(3) 以降では、S3260 M5 サーバで次をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Intel X550 デュアルポート 10GBase-T • Qlogic QLE2692 デュアルポート 16G ファイバチャネル HBA • N2XX-AIPCI01 Intel X520 デュアルポート 10 Gb SFP+ アダプタ
ネットワークおよび管理 I/O	<p>システムには、システム I/O コントローラ (SIOC) を 1 つまたは 2 つ搭載できます。それにより、背面パネル管理とデータ接続が可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIOC ごとに 2 つの SFP+ 40 Gb ポート • SIOC ごとに 1 つの 10/100/1000 イーサネット専用管理ポート <p>サーバノードごとに、KVM ケーブルで 2 つの USB を接続できる 1 つの背面パネル KVM コネクタ、1 つの VGA DB-15 コネクタ、1 つのシリアル DB-9 コネクタがあります。</p>
電源	2 台または 4 台の電源装置、各 1050 W (ホットスワップ可能で 2+2 冗長)。
冷却	<p>前面から背面に冷却を引き出す 4 つの内蔵ファンモジュール、ホットスワップ可能。各ファンモジュールには 2 つのファンが内蔵されています。</p> <p>さらに、各電源にはファンが 1 個あります。</p>

前面パネルの機能

次の図に、Cisco UCS S3260 システムの前面パネルの機能を示します。

図 10: 前面パネルの機能

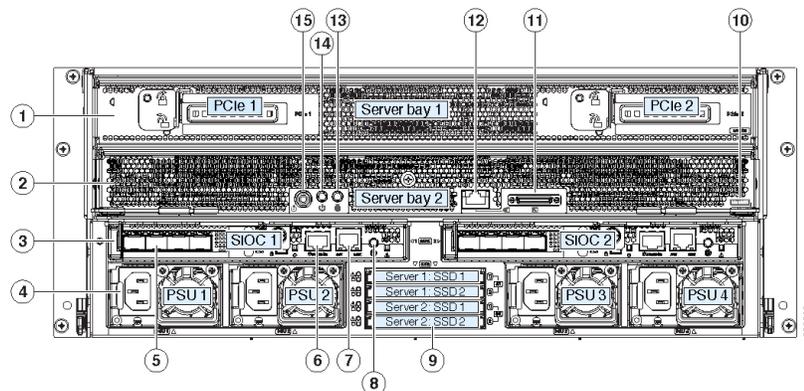


1	操作パネル	6	温度ステータス LED
2	システム電源ボタン/LED	7	電源装置ステータス LED
3	システムユニット識別ボタン/LED	8	ネットワークリンクアクティビティ LED
4	システムステータス LED	9	引き出し型の資産タグ (前面ベゼルの下に表示されない)
5	ファンステータス LED	10	内蔵ドライブのステータス LED

背面パネルの機能

次の図に、Cisco UCS S3260 システムの背面パネルの機能を示します。

図 11: 前面パネルの機能



ディスク スロット

1	<p>サーバ ベイ 1</p> <ul style="list-style-type: none"> • (オプション) I/O エクスパンダ (図を参照) (Cisco UCS S3260 M4および M5サーバノードのみに搭載) • (オプション) サーバノード • (オプション) ドライブ拡張モジュール 	8	現時点ではサポートされていません。
2	<p>サーバ ベイ 2</p> <ul style="list-style-type: none"> • (オプション) サーバノード (Cisco UCS S3260 M4および M5に表示) • (オプション) ドライブ拡張モジュール 	9	現時点ではサポートされていません。

3	<p>システム I/O コントローラ (SIOC)</p> <ul style="list-style-type: none"> サーバベイ 1 にサーバノードがある場合は SIOC 1 が必要 サーバベイ 2 にサーバノードがある場合は SIOC 2 が必要です 	10	<p>ソリッドステートドライブ ベイ (最大で 4 つの 2.5 インチ SAS SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ベイ 1 および 2 の SSD には、サーバベイ 1 のサーバノードが必要です ベイ 3 および 4 の SSD には、サーバベイ 2 のサーバノードが必要です
4	電源装置 (4、2+2 として冗長)	11	<p>Cisco UCS S3260 M4 サーバノードのラベル (M4 SVRN)</p> <p>(注) このラベルは、Cisco UCS S3260 M4 および M5 サーバノードを識別します。Cisco UCS S3260 M3 サーバノードにはラベルがありません。</p>
5	40 Gb SFP+ ポート (SIOC ごとに 2 つ)	12	<p>KVM コンソール コネクタ (サーバノードごとに 1 つ)</p> <p>USB 2 個、VGA 1 個、シリアルコネクタ 1 個を装備した KVM ケーブルで使用</p>
6	<p>Chassis Management Controller (CMS) のデバッグファームウェアユーティリティポート (SIOC ごとに 1 つ)</p>	13	サーバノードのユニット識別ボタン/LED

7	10/100/1000 専用管理ポート、RJ-45 コネクタ (SIOC ごとに 1 つ)	14	サーバノードの電源ボタン
		15	サーバノードのリセットボタン (サーバノードのチップセットをリセット)

ストレージサーバコンポーネント

サーバノード

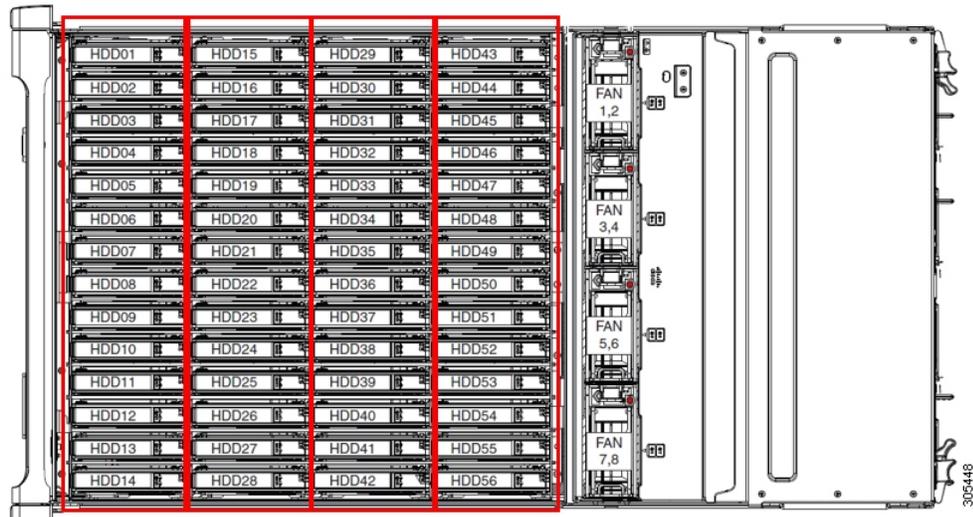
Cisco UCS S3260 システムは、1 つまたは 2 つのノードから構成されています。各ノードには 2 つの CPU、128 GB、256 GB、または 512 GB の DIMM メモリ、最大 4 GB のキャッシュの RAID カードまたはパススルーコントローラが備わっています。サーバノードは次のいずれかです。

- Cisco UCS S3260 M3 サーバノード
- Cisco UCS S3260 M4 サーバノード：このノードに、サーバノードの上部に接続するオプションの I/O エクспанダが含まれる場合があります。
- Cisco UCS S3260 M5 サーバノード：このノードに、サーバノードの上部に接続するオプションの I/O エクспанダが含まれる場合があります。

ディスクスロット

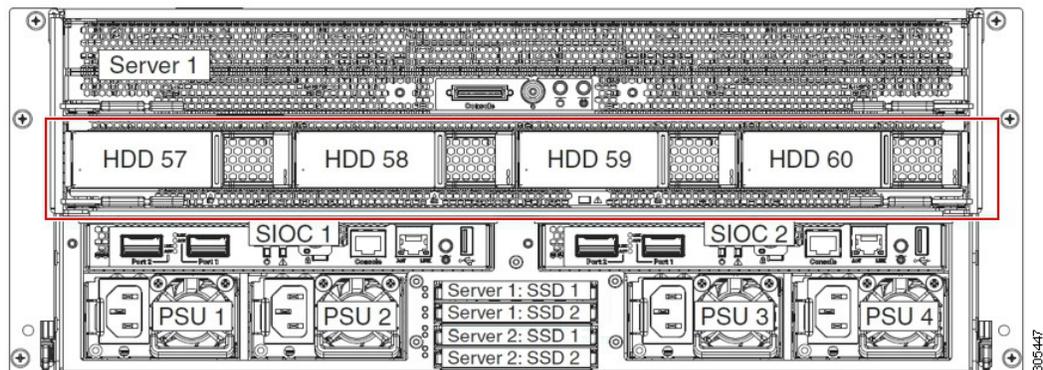
Cisco UCS S3260 シャーシの HDD マザーボードに 14 ディスクスロットが 4 行と、HDD 拡張トレイに追加の 4 ディスクスロットがあります。次の図は、上面からアクセス可能でホットスワップ可能な 56 台の 3.5 インチの 6 TB または 4 TB 7200 rpm NL-SAS HDD ドライブのディスクの配置を示しています。ディスクスロットに 2 つの SAS ポートがあり、それぞれがシャーシの SAS エクспанダに接続されます。

図 12: Cisco UCS S3260 上面図



次の図は、HDD 拡張トレイに4つの追加ディスク スロットを備えた Cisco UCS S3260 シャーシを示しています。

図 13: HDD 拡張トレイを搭載した Cisco UCS 3260 (背面図)



2つのサーバノードと2つのSIOCがある場合、次の機能を使用できます。

1. 上のサーバノードは左のSIOC（サーバスロット1、SIOC1）を使用します。
2. 下のサーバは右のSIOC（サーバスロット2、SIOC2）を使用します。

2つのSIOCを搭載した1つのサーバノードがある場合、Server SIOC Connectivity 機能を有効にできます。リリース 3.1(3) から、Cisco UCS S3260 システムでは Server SIOC Connectivity 機能がサポートされています。シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されている場合、この機能を使用して、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を經由するデータパスを設定できます。

SAS エクスパンダ

Cisco UCS S3260 システムには、冗長モードで実行し、シャーシレベルのディスクをサーバのストレージコントローラに接続する2つのSASエクспанダがあります。SASエクспанダは、ストレージコントローラのために2つのパスを提供するため、可用性が向上します。それらには、次の利点があります。

- ハードドライブのプールを管理します。
- サーバのストレージコントローラへのハードドライブのディスクのゾーン設定。

リリース 3.2(3a)以降、Cisco UCS Managerは、ディスクスロットごとに単一のDiskPortを設定することによって、ディスクへの単一パスアクセスを有効にすることができます。これにより、サーバは単一のデバイスのみを検出し、マルチパス設定を避けることができます。

次の表に、各SASエクспанダのポートの、導入の種類に基づくディスクへの接続方法について示します。

Port range	Connectivity
1 ~ 56	上面からアクセス可能なディスク
57 ~ 60	HDD 拡張トレイのディスク。



- (注) ストレージコントローラとSASエクспанダ間のSASのアップリンクの数は、サーバに搭載されているコントローラのタイプによって異なることがあります。

ストレージエンクロージャ

Cisco UCS S3260には、次のタイプのストレージエンクロージャが備わっています。

シャーシレベルのストレージエンクロージャ

- **HDD motherboard enclosure** : シャーシの56のデュアルポートディスクスロットは、HDDマザーボードエンクロージャで構成されています。
- **HDD 拡張トレイ** : Cisco UCS S3260 システムに追加された4つのデュアルディスクスロットでHDD拡張トレイを構成しています。



- (注) HDD拡張トレイは現場交換可能ユニット (FRU) です。ディスクは挿入時は未割り当てのままであり、ストレージコントローラに割り当てることができます。ディスクゾーン分割の実行方法の詳細については、次を参照してください。 [ディスクゾーン分割ポリシー \(74 ページ\)](#)

サーバレベルのストレージエンクロージャ

サーバレベルのストレージエンクロージャは、サーバに事前に割り当てられた専用のエンクロージャです。次のいずれかになります。

- **背面ブート SSD エンクロージャ**：このエンクロージャには、Cisco UCS S3260 システムの背面パネル上の2つの2.5インチディスクスロットが含まれています。各サーバは2つの専用ディスクスロットを備えています。これらのディスクスロットはSATA SSDをサポートします。
- **Server board NVMe enclosure**：このエンクロージャには1つのPCIe NVMe コントローラが搭載されています。



(注) Cisco UCS S3260 システムでは、上記2種類のエンクロージャに物理的にディスクが存在することも、ホスト OS からは、すべてのディスクが SCSI エンクロージャの一部として見なされます。これらは単一SESエンクロージャとして動作するように設定された SAS エクспанダに接続されます。

ストレージコントローラ

メザニンストレージコントローラ

次の表に、さまざまなストレージコントローラのタイプ、ファームウェアのタイプ、モード、共有およびOOBサポートを示します。

表 9:

ストレージコントローラのタイプ	ファームウェアのタイプ	モード	共有	OOB サポート
UCSC-S3X60-R1GB	メガ RAID	HW RAID、JBOD	×	Yes
UCS-C3K-M4RAID	メガ RAID	HW RAID、JBOD	×	Yes
UCSC-S3X60-HBA	イニシエータターゲット	パススルー	Yes	Yes
UCS-S3260-DHBA	イニシエータターゲット	パススルー	Yes	Yes
UCS-S3260-DRAID	メガ RAID	HW RAID、JBOD	×	Yes

その他のストレージコントローラ

SW RAID コントローラ：Cisco UCS S3260 システム内のサーバは、SW RAID コントローラに接続しているPCIeライザーに組み込まれた、2つの専用内部SSDをサポートします。このコントローラは、Cisco C3000 M3 サーバでサポートされます。

NVMe コントローラ：Cisco UCS S3260 システム内のサーバによって、NVMe ディスクのインベントリとファームウェアアップデートにこのコントローラが使用されます。

さまざまなサーバノードでサポートされているストレージコントローラに関する詳細は、関連するサービス ノートを参照してください。

- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ サービス ノート用 Cisco UCS C3X60 M3 サーバ ノード](#)
- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ サービス ノート用 Cisco UCS C3X60 M4 サーバ ノード](#)
- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ用 Cisco UCS S3260 M5 サーバ ノードのサービス ノート](#)

Cisco UCS S3260 ストレージ管理操作

次の表に、Cisco UCS Manager 統合 Cisco UCS S3260 システムで、実行できるさまざまなストレージ管理操作を示します。

動作	説明	次を参照してください。
高可用性のためのディスクの共有	<p>Cisco UCS S3260 システムの SAS エクспанダは、ドライブのプールをシャールレベルで管理できます。高可用性のためにディスクを共有するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ディスク ゾーン分割ポリシーを作成します。 2. ディスクのスロットを作成し、所有権を割り当てます。 3. シャールプロファイルにディスクを関連付けます。 	このガイドの「ディスク ゾーン分割ポリシー」セクション。

動作	説明	次を参照してください。
ストレージプロファイル、ディスクグループおよびディスクグループ設定ポリシー	Cisco UCS S3260 システムでストレージディスクの定義、ディスクの割り当て、および管理を行うには、Cisco UCS Manager のストレージプロファイルとディスクグループポリシーを利用できます。	『』の「Storage Profiles」セクション。 <i>Cisco UCS Manager</i> リリース 3.2 ストレージ管理ガイド
ストレージエンクロージャ操作	サーバで、HDD 拡張トレイを交換するか、以前に挿入したトレイを取り外します。	このガイドの「シャーシレベルのストレージエンクロージャの削除」セクション。

高可用性のためのディスクの共有

ディスク ゾーン分割ポリシー

ディスク ゾーン分割を使用してサーバノードにドライブを割り当てることができます。ディスクゾーン分割は、同一サーバのコントローラまたは異なるサーバのコントローラで実行することができます。ディスクの所有権は次のいずれかになります。

未割り当て

未割り当てのディスクとは、サーバノードに表示されていないものを指します。

専用

このオプションを選択すると、[Server]、[Controller]、[Drive Path]、およびディスクスロットの [Slot Range] の値を設定する必要があります。



(注) ディスクは割り当てられたコントローラにのみ表示されます。

リリース 3.2(3a)以降、Cisco UCS S 3260 M 5 以降のサーバでは、Cisco UCS Manager は、ディスクスロットごとに単一の DiskPort を設定することによって、ディスクへの単一パスアクセスを有効にすることができます。1つのパスの設定により、サーバが設定で選択されたドライブが1つパスでのみディスクドライブを検出します。シングルパスアクセスは、Cisco UCS S3260 デュアルパススルーコントローラ (UCS-S3260-DHBA) でのみサポートされています。

シングルパスアクセスが有効になると、3.2(3a)より前のリリースにダウングレードすることはできません。ダウングレードするには、ディスクゾーニングポリシーでディスク

スロットのディスク パスを**Path Both**に設定して、この機能を無効にし、すべてのディスク スロットを両方のディスク ポートに割り当てます。

共有

共有ディスクとは、複数のコントローラに割り当てられるものを指します。これらは、サーバがクラスタ構成で動作し、各サーバにHBA モードのストレージコントローラがある場合に絞って使用されます。



(注) デュアル HBA コントローラを使用する場合は、特定の条件下では共有モードを使用できません。

シャーシのグローバル ホット スペア

このオプションを選択すると、ディスクの[Slot Range]の値を設定する必要があります。



重要 ディスクの移行と孤立した LUN の要求：サーバ（サーバ 1）へゾーン分割されたディスクを別のサーバ（サーバ 2）に移行するには、仮想ドライブ（LUN）を転送準備完了としてマークするか、仮想ドライブを非表示にする処理を実行します。次に、そのディスクに割り当てるディスク ゾーン分割ポリシーを変更できます。仮想ドライブ管理の詳細については、『[Cisco UCS Manager Storage Management Guide](#)』の「*Disk Groups and Disk Configuration Policies*」のセクションを参照してください。

ディスク ゾーン分割ポリシーの作成

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] をクリックします。

ステップ 2 [Policies] > [root] の順に展開します。

ステップ 3 [Disk Zoning Policies] を右クリックし、[Create Disk Zoning Policy] を選択します。

ステップ 4 [Create Disk Zoning Policy] ダイアログボックスで、次を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	<p>ポリシーの名前。</p> <p>この名前には、1～16文字の英数字を使用できます。-（ハイフン）、_（アンダースコア）、:（コロン）、および.（ピリオド）は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。</p>

名前	説明
[Description] フィールド	<p>ポリシーの説明。ポリシーを使用する場所とタイミングについての情報を含めることを推奨します。</p> <p>256 文字以下で入力します。次を除く任意の文字またはスペースを使用できます。` (アクセント記号)、\ (バックスラッシュ)、^ (キャラット)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または' (一重引用符) は使用できません。</p>
[Preserve Config] チェックボックス	<p>このチェックボックスをオンにすると、スロット番号、所有権、割り当てられたサーバ、割り当てられたコントローラとコントローラのタイプなどのディスクに関するすべての設定関連情報を維持します。</p> <p>(注) デフォルトでは、[Preserve Config] チェックボックスはオフになっています。</p>

[Disk Zoning Information] 領域で、次を入力します。

名前	フィールド
[Name] カラム	ディスク スロットの名前。
[Slot Number] カラム	ディスクのスロット番号。

名前	フィールド
[Ownership] カラム	

名前	フィールド
	<p>スロットの所有権の値。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unassigned : このオプションは、デフォルトで選択されます。[Slot Range] フィールドにスロット番号を設定できます。 • Dedicated—このオプションを選択すると [Server]、[Controller]、およびディスクスロットの [Drive Path]、および [Slot Range] の値を設定する必要があります。 <p>リリース 3.2(3a) 以降、Cisco UCS Manager は、ディスクスロットごとに単一の DiskPort を設定することによって、ディスクへの単一パスアクセスを有効にすることができます。これにより、サーバは単一のデバイスのみを検出し、マルチパス設定を避けることができます。</p> <p>ドライブのパスのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 両方のパス(デフォルト) - ドライブパスは両方の SAS エクスパンダにゾーニングされます。 • パス 0 - ドライブパスは、SAS エクスパンダ 1 にゾーニングされます。 • パス 1 - ドライブパスは、SAS エクスパンダ 2 にゾーニングされます。 <ul style="list-style-type: none"> • Shared : このオプションを選択すると、ディスクスロットに対する、[Slot Range] と、割り当てられているサーバ、割り当てられているコントローラ、コントローラのタイプなどのコントローラ情報の値を設定する必要があります。 <p>(注) デュアル HBA コントローラを使用する場合は、特定の条件下では共有モードを使用できません。デュアル HBA コントローラの共有モードの条件を確認するには、表 10: デュアル HBA コントローラの共有モードの制約事項 (79 ページ) を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Chassis Global Hot Spare : このオプションを選択すると、ディスクスロットに対する [Slot Range]

名前	フィールド
	の値を設定する必要があります。
[Assigned to Server] 列	ディスクが割り当てられているサーバの ID。
[Assigned to Controller] 列	ディスクが割り当てられているコントローラの ID。 (注) デュアル RAID セットアップで、最初のコントローラから 2 番目のディスクにディスクを移行するには、 [Assigned to Controller] をセカンドコントローラに変更します。
[Controller Type] 列	コントローラのタイプ。ディスクが専用または共有のいずれでも、コントローラタイプは常に SAS です。

表 10: デュアル HBA コントローラの共有モードの制約事項

サーバ	HDD トレイ	コントローラ	共有モードのサポート
Cisco UCS S3260	非対応	デュアル HBA	未サポート
Cisco UCS S3260	HDD トレイ	デュアル HBA	未サポート
事前プロビジョニング	HDD トレイ	デュアル HBA	未サポート

ディスク スロットの作成と所有権の割り当て

ディスク ゾーン分割ポリシーの作成後、ディスク スロットを作成し、所有権を割り当てる必要があります。

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] をクリックします。
- ステップ 2 [Policies] > [root] > [Disk Zoning Policies] の順に展開して、ディスク スロットを追加するディスク ゾーン分割ポリシーを選択します。
- ステップ 3 [Work] ペインで、[Actions] の下の [Add Slots to Policy] をクリックします。
- ステップ 4 [Add Slots to Policy] ダイアログボックスで、次のように入力します。

名前	説明
[Ownership] チェックボックス	<p>ディスク スロットの所有権。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unassigned : このオプションは、デフォルトで選択されます。 [Slot Range] フィールドにスロット番号を設定できます。 • Dedicated : このオプションを選択すると、[Server]、[Controller]、およびディスク スロットの [Slot Range] の値を設定する必要があります。 • Shared : このオプションを選択すると、ディスク スロットに対する、[Slot Range] と、割り当てられているサーバ、割り当てられているコントローラ、コントローラのタイプなどのコントローラ情報の値を設定する必要があります。 <p>(注) デュアル HBA コントローラを使用する場合は、特定の条件下では共有モードを使用できません。デュアル HBA コントローラの共有モードの条件を確認するには、表 10: デュアル HBA コントローラの共有モードの制約事項 (79 ページ) を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Chassis Global Hot Spare : このオプションを選択すると、ディスク スロットに対する [Slot Range] の値を設定する必要があります。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

シャーシプロファイルへのディスクゾーン分割ポリシーの関連付け

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。

ステップ 3 シャーシプロファイルを作成する組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 組織を右クリックし、[Create Chassis Profile] を選択します。

ステップ 5 [Identify Chassis Profile] ページで、シャーシプロファイルの名前を指定し、[Next] をクリックします。

ステップ 6 (任意) [Maintenance Policy] ページで、メンテナンス ポリシーの名前を指定して [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Chassis Assignment] ページで、[Chassis Assignment] の下の [Select existing Chassis] を選択し、このシャーシプロファイルに関連付けるシャーシを選択します。[Next] をクリックします。

ステップ 8 [Disk Zoning] ページで、このシャーシプロファイルに関連付けるディスクのゾーン分割に関するポリシーを指定します。

ステップ9 [Finish] をクリックします。

ディスクの移行

1つのサーバから別のサーバへゾーン分割されているディスクを移行する前に、転送準備完了として仮想ドライブ (LUN) をマークするか、または仮想ドライブの非表示操作を実行する必要があります。これにより、サービスプロファイルからのすべての参照がディスクの移行前に削除されたことを確認します。仮想ドライブの詳細については、『Cisco UCS Manager リリース 3.2 ストレージ管理ガイド』の「仮想ドライブ」セクションを参照してください。



(注) デュアルRAIDセットアップで、ディスクをファーストコントローラからセカンドに移行するには、ディスクゾーニングポリシーの **[Assigned to Controller]** をセカンドコントローラに変更します。[ディスクゾーン分割ポリシーの作成 \(75 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ1 [Navigation] ペインで、**[Equipment] > [Chassis] > [Servers]** の順にクリックします。

ステップ2 ディスクの移行を実行するサーバを選択します。

ステップ3 [Work] ペインの [Inventory] タブをクリックします。

ステップ4 [Storage] サブタブをクリックします。

ステップ5 [LUNs] サブタブをクリックします。

ステップ6 別のサーバに移行するための仮想ドライブを準備するストレージコントローラを選択します。

ステップ7 移行するディスクを選択します。

ステップ8 [Actions] 領域で、次のいずれかを選択します。

名前	説明
Rename	ディスクの名前を変更するには、このリンクをクリックします。
[削除 (Delete)]	ディスクを削除するには、このリンクをクリックします。

名前	説明
Set Transportation Ready	<p>1つのサーバから別のサーバへ仮想ドライブを安全に移行するには、このリンクをクリックします。</p> <p>(注) ディスクグループのすべての仮想ドライブは、移行またはサーバノードから割り当て解除される前に、非表示としてマークされている必要があります。</p>
ClearTransportation Ready	<p>仮想ドライブの状態の転送準備完了をクリアするには、このリンクをクリックします。</p>
Hide Virtual Drive	<p>1つのサーバから別のサーバへ仮想ドライブを安全に移行するには、このオプションをクリックします。</p> <p>(注) ディスクグループのすべての仮想ドライブは、移行またはサーバノードから割り当て解除される前に、非表示としてマークされている必要があります。</p>
Unhide Virtual Drive	<p>仮想ドライブを表示して入出力処理を有効にするには、このリンクをクリックします。</p>

ストレージエンクロージャ操作

シャーシレベルのストレージエンクロージャの削除

物理的に取り外した後で、Cisco UCS ManagerのHDD拡張トレイに対応するストレージエンクロージャを削除できます。サーバレベルまたは他のシャーシレベルのストレージエンクロージャは削除できません。

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Servers] > [Storage Enclosures] の順に展開します。

ステップ 3 削除するストレージエンクロージャを選択します。

ステップ 4 [Actions] 領域で [Remove Enclosure] をクリックします。

SAS エクスパンダ設定ポリシー

SAS エクスパンダ設定ポリシーの作成

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Policies] の順に展開します。
3. ポリシーを作成する組織のノードを展開します。
4. [Sas Expander Configuration Policies] を右クリックし、[Create Sas Expander Configuration Policy] を選択します。
5. [Create Sas Expander Configuration Policy] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。
6. [OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Policies] の順に展開します。

ステップ 3 ポリシーを作成する組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 [Sas Expander Configuration Policies] を右クリックし、[Create Sas Expander Configuration Policy] を選択します。

ステップ 5 [Create Sas Expander Configuration Policy] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	<p>ポリシーの名前。</p> <p>この名前には、1～16文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および. (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。</p>
[Description] フィールド	<p>ポリシーの説明。ポリシーを使用する場所とタイミングについての情報を含めることを推奨します。</p> <p>256文字以下で入力します。次を除く任意の文字またはスペースを使用できます。` (アクセント記号)、\ (バックスラッシュ)、^ (キャラット)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または' (一重引用符) は使用できません。</p>
[6G-12G Mixed Mode] フィールド	<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : このポリシーでは接続管理が無効になっているため、12G が使用可能でも SAS エクスパンダは 6G の速度のみを使用します。 • [Enabled] : このポリシーでは接続管理が有効になっており、可用性に基づいて 6G と 12G 間で速度をインテリジェントに切り替えます。 <p>[6G-12G Mixed Mode] を有効にした後は、3.2(3a)より前のリリースにダウングレードすることはできません。ダウングレードするには、このモードを無効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Change] (デフォルト) : 事前の設定が保持されます。 <p>(注) [6G-12G Mixed Mode] モードを有効または無効にするには、システムが再起動します。</p> <p>[6G-12G Mixed Mode] フィールドは、Cisco UCS S3260 M5 以降のサーバでのみ使用可能です。</p>

ステップ 6 [OK] をクリックします。

SAS エクスパンダ設定ポリシーの削除

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Policies] の順に展開します。
3. プールを含む組織のノードを展開します。
4. [Sas Expander Configuration Policies] を展開します。
5. 削除する SAS エクスパンダ ポリシーを右クリックし、[Delete] を選択します。
6. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Policies] の順に展開します。

ステップ 3 プールを含む組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 [Sas Expander Configuration Policies] を展開します。

ステップ 5 削除する SAS エクスパンダ ポリシーを右クリックし、[Delete] を選択します。

ステップ 6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。



第 7 章

ファームウェア管理

- [Cisco UCS S3260 システムのファームウェア管理 \(87 ページ\)](#)
- [自動インストールによるシャーシファームウェアアップグレード \(89 ページ\)](#)
- [シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージによるファームウェアのアップグレード \(92 ページ\)](#)
- [S3260 シャーシおよびサーバエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード \(100 ページ\)](#)

Cisco UCS S3260 システムのファームウェア管理

Cisco UCS シスコから取得し、シスコによって認定されたファームウェアを使用して、Cisco UCS domain のエンドポイントをサポートします。各エンドポイントは、機能するためにファームウェアが必要な Cisco UCS ドメインのコンポーネントです。

『』『*Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2*』には、完全なファームウェア管理プロセスの詳細情報が記載されています。さらに、Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) 以降では、シャーシのファームウェアポリシーを定義し、Cisco UCS S3260 シャーシに関連付けられたシャーシプロファイルに格納することで、Cisco UCS S3260 シャーシコンポーネントのファームウェアをアップグレードできます。

Cisco UCS Manager を通じて S3260 シャーシとサーバを含む Cisco UCS ドメインを次のようにアップグレードできます。

- 自動インストールによるインフラストラクチャコンポーネントのアップグレード: 自動インストールを使用することで1つの手順で、Cisco UCS Manager ソフトウェアおよびファブリック インターコネクトなどのインフラストラクチャコンポーネントをアップグレードできます。『』『*Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2*』には、自動インストールプロセスの詳細情報が記載されています。
- 次のいずれかを使用してシャーシをアップグレードします。
 - を介してシャーシコンポーネントをアップグレード自動インストール: で始まるCisco UCS Managerリリース 3.2(3)、Cisco UCS のファームウェアをアップグレードするS3260 シャーシコンポーネントを使用して1つのステップで自動インストール。

- シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージを介したシャーシのアップグレード：このオプションにより、1つの手順ですべてのシャーシエンドポイントをアップグレードできます。シャーシファームウェアパッケージを介してアップグレード可能なシャーシエンドポイントは次のとおりです。

- シャーシアダプタ
- シャーシ管理コントローラ
- シャーシボードコントローラ
- ローカルディスク



(注) シャーシファームウェアパッケージを介してシャーシのローカルディスクをアップグレードできます。ホストファームウェアパッケージを介してサーバのローカルディスクをアップグレードします。

- SAS エクスパンダ
- サービスプロファイルのファームウェアパッケージを使用してサーバをアップグレード：このオプションを使用すると1回のステップですべてのサーバのエンドポイントをアップグレードできるため、サーバのリブートによる中断時間を短くすることができます。サービスプロファイルの更新の延期導入とこのオプションを組み合わせ、スケジュールされたメンテナンス時間中にサーバのリブートが行われるようにすることができます。ホストファームウェアパッケージを介してアップグレード可能なサーバエンドポイントは次のとおりです。

- CIMC
- BIOS
- ボードコントローラ
- ストレージコントローラ
- ローカルディスク
- SIOC の NVMe
- SIOC のサードパーティ製のアダプタ

『』 『Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2』には、ホストのファームウェアパッケージを使用したサーバエンドポイントのアップグレードに関する詳細情報が記載されています。

また、各インフラストラクチャ、シャーシとサーバエンドポイントでファームウェアを直接アップグレードすることもできます。このオプションにより、ファブリックインターコネク、SAS エクスパンダ、CMC、シャーシアダプタ、ストレージコントローラ、ボードコント

ローラを含む、多くのインフラストラクチャ、シャーシ、サーバエンドポイントを直接アップグレードできます。ただし、直接アップグレードは、ストレージコントローラ、HBA ファームウェア、HBA オプションROM、ローカルディスクなど、すべてのエンドポイントで利用できるわけではありません。

この章では、Cisco UCS S3260 システム向けに新しく導入された次のファームウェア管理機能について説明します。

- シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージを介したファームウェアのアップグレード
- Cisco UCS S3260 シャーシとサーバエンドポイントでのファームウェアの直接のアップグレード

自動インストールによるシャーシファームウェアアップグレード

Cisco UCS Manager リリース 3.2(3) では、Cisco UCS S3260 シャーシの自動インストールを使用してシャーシファームウェアのアップグレードをサポートします。この機能を有効にするすべてのシャーシコンポーネントをアップグレードする、Cisco UCS ドメイン1つのシャーシファームウェアパッケージを使用します。

自動インストールによるシャーシファームウェアのアップグレード

シャーシファームウェアパッケージを指定して、シャーシファームウェアをアップグレードすることができます。

「**Prepare for Firmware Install**」に従ってシャーシファームウェアを準備する場合、この手順で選択されたシャーシファームウェアバージョンはバックアップバージョンと同じであり、バックアップバージョンがスタートアップバージョンとして設定されます。

以前にバックアップバージョンを設定していない場合は、選択したファームウェアバージョンがバックアップバージョンとして設定されます。このバージョンが起動バージョンとして設定されます。

この段階を完了すると再起動します。



- (注) ドメイン内の Cisco UCS Manager が Cisco UCS Manager 3.2(3) より前のリリースである場合、自動インストールを使用して、Cisco UCS ドメイン内のシャーシをアップグレードすることはできません。詳細については、『*Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2*』の「*Cautions and Guidelines for Upgrading with Auto Install*」セクションを参照してください。

[Install Chassis Firmware] ウィザードで構成が完了した後、シャーシファームウェアのアップグレードプロセスをキャンセルすることはできません。Cisco UCS Manager は変更をただちに適用します。

始める前に

- 『Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2』の「Prerequisites for Upgrading and Downgrading Firmware」セクションに記載されているすべての前提条件を満たします。
- Cisco UCS Manager リリース 3.2(3) または以降のリリースを使用している場合は、シャーシのファームウェアを準備します。『Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2』の「Preparing for Firmware Install」セクションでは、シャーシのファームウェアの準備に関する詳細情報を提供します。



(注) オプションですが、これもお勧めします。

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2** [Equipment] ノードをクリックします。
- ステップ 3** [Work] ペインの [Firmware Management] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Work] ペインの [Firmware Auto Install] タブをクリックします。
- ステップ 5** [Actions] 領域で、**[Install Chassis Firmware]** をクリックします。
- ステップ 6** **[Install Chassis Firmware]** ウィザードの **[Prerequisites]** ページで、このページに一覧されている前提条件とガイドラインを慎重に確認してから、次のいずれかを実行してください。
- 前提条件をすべて満たしている場合は、[Next] をクリックします。
 - 前提条件をすべて満たしていない場合は **[Cancel]** をクリックして、シャーシのファームウェアをアップグレードする前に前提条件を満たしてください。
- ステップ 7** **[Install Chassis Firmware]** ウィザードの **[Select Package Versions]** ページで、次の手順を実行します。
- a) **[Chassis Firmware]** 領域の **[New Version]** ドロップダウンリストからこれらのシャーシをアップグレードするソフトウェアバンドルを選択します。
 - b) シャーシをサービスパックのファームウェアバージョンにアップグレードするには、**[Service-Pack Firmware]** 領域の **[New Version]** ドロップダウンリストからこれらのシャーシをアップグレードするサービスパックを選択します。
 - c) [Next] をクリックします。
- ステップ 8** **[Install Chassis Firmware]** ウィザードの **[Select Firmware Packages]** ページで、次を実行します。
- a) 選択したソフトウェアで更新するシャーシファームウェアパッケージが含まれる各組織のノードを展開します。
- シャーシファームウェアパッケージのファームウェアバージョンを準備している場合、シャーシファームウェアパッケージの名前とともに **[Backup Version]** に表示されます。

- b) 更新する各シャーシファームウェアパッケージの名前の隣にあるチェックボックスをオンにします。

この手順によって、選択したシャーシファームウェアパッケージが新しいバージョンのファームウェアによって更新されます。すべてのシャーシを更新するには、Cisco UCS ドメインのすべてのシャーシに関連付けられたシャーシプロファイルに含まれるシャーシファームウェアパッケージを選択する必要があります。

- c) [Next] をクリックします。

ステップ 9 [Install Chassis Firmware] ウィザードの [Firmware Package Dependencies] ページで、次を実行します。

- a) テーブルに表示される各シャーシファームウェアパッケージのノードを展開します。
b) シャーシファームウェアパッケージが含まれるシャーシプロファイルのリストを確認します。
c) 必要に応じて、次のいずれかのカラムにあるリンクをクリックします。

- [Chassis Pack DN]カラム：シャーシファームウェアパッケージのナビゲータを開きます。
- [Chassis Profile DN] カラム：シャーシプロファイルのナビゲータを開きます。

- d) 次のいずれかを実行します。

- 選択したシャーシファームウェアパッケージを1つ以上変更する場合は、[Prev] をクリックします。
- 適切なシャーシファームウェアパッケージを選択済みで、エンドポイントのシャーシファームウェアのアップグレードの影響を確認する場合は、[Next] をクリックします。
- シャーシのアップグレードをただちに開始する場合は、[Install] をクリックします。

ステップ 10 [Install Chassis Firmware] ウィザードの [Impacted Endpoints Summary] ページで、次の手順を実行します。

- a) [Impacted Endpoints] テーブルで結果をフィルタリングするには、該当するチェックボックスをオンにします。

結果は、エンドポイントのタイプや、アップグレードの影響が重大であるかどうかによってフィルタリングできます。

- b) 影響を受けるエンドポイントのリストを確認します。
c) 必要に応じて、[Maintenance Policy] カラムのリンクをクリックして、そのポリシーのナビゲータを開きます。
d) 次のいずれかを実行します。

- 選択したシャーシファームウェアパッケージを1つ以上変更する場合は、[Prev] をクリックします。
- 適切なシャーシファームウェアパッケージを選択済みで、シャーシのアップグレードを開始する場合は、[Install] をクリックします。

ステップ 11 (任意) シャーシファームウェアのアップグレードの進行状況をチェックするには、アップグレードする各シャーシの [FSM] タブをチェックします。

[Firmware Auto Install] タブの [Firmware Installer] フィールドには、インフラストラクチャファームウェアのアップグレードのステータスだけが表示されます。

シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージによるファームウェアのアップグレード

Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) では Cisco UCS S3260 シャーシのシャーシプロファイルとシャーシファームウェアパッケージのサポートが追加されています。シャーシファームウェアパッケージを定義し、シャーシに関連付けられたシャーシプロファイルに格納することで、Cisco UCS S3260 シャーシエンドポイントのファームウェアをアップグレードできます。シャーシプロファイルに関連付けられたシャーシのファームウェアを手動でアップグレードすることはできません。



- (注) いずれかのシャーシコンポーネントが障害状態になると、シャーシプロファイルの関連付けは失敗します。シャーシプロファイルの関連付けを進める前に、シャーシコンポーネントをバックアップすることをお勧めします。シャーシコンポーネントをバックアップせずに関連付けを続行するには、関連付けの前にコンポーネントを除外します。

シャーシプロファイルでサーバのファームウェアをアップグレードすることはできません。サービスプロファイルでサーバのファームウェアをアップグレードします。

シャーシのサーバは、シャーシのアップグレードプロセスが開始する前に、自動的に電源が切断されます。

シャーシファームウェアパッケージ

このポリシーでは、シャーシファームウェアパッケージ（シャーシファームウェアパック）を構成するファームウェアバージョンのセットを指定することができます。シャーシファームウェアパッケージには、次のサシャーシエンドポイントのファームウェアが含まれています。

- シャーシアダプタ
- シャーシ管理コントローラ
- シャーシボードコントローラ
- ローカルディスク



- (注) [Local Disk] は、デフォルトでシャーシファームウェアパッケージから除外されます。

• SAS エクスパンダ



ヒント 同じシャーシファームウェア パッケージに複数のタイプのファームウェアを含めることができます。たとえば、1つのシャーシファームウェア パッケージに、異なる2つのアダプタのモデル用のボードコントローラ ファームウェアとシャーシアダプタ ファームウェアの両方を含めることができます。ただし、同じ種類、ベンダー、モデル番号に対しては1つのファームウェア バージョンしか使用できません。システムはエンドポイントに必要なファームウェア バージョンを認識し、それ以外のファームウェア バージョンは無視します。

また、新しいシャーシファームウェア パッケージを作成するとき、または既存のシャーシファームウェア パッケージを変更するとき、シャーシファームウェア パッケージから特定のコンポーネントのファームウェアを除外できます。たとえば、シャーシファームウェア パッケージによってボードコントローラ ファームウェアをアップグレードしない場合は、ファームウェア パッケージコンポーネントのリストからボードコントローラ ファームウェアを除外できます。



重要 各シャーシファームウェア パッケージは除外コンポーネントの1つのリストと関連付けられます。

シャーシファームウェア パッケージは、このポリシーが含まれるシャーシプロファイルに関連付けられたすべてのシャーシにプッシュされます。

このポリシーにより、同じポリシーを使用しているシャーシプロファイルに関連付けられているすべてのシャーシでシャーシファームウェアが同一となります。したがって、シャーシプロファイルのあるシャーシから別のシャーシに移動した場合でも、ファームウェアバージョンはそのまま変わりません。さらに、シャーシファームウェア パッケージのエンドポイントのファームウェア バージョンを変更した場合、その影響を受けるシャーシプロファイルすべてに新しいバージョンが即座に適用されます。

影響を受けるシャーシファームウェア パッケージに対し、このポリシーをシャーシプロファイルに含め、そのシャーシのプロファイルにシャーシを関連付けます。

このポリシーは他のどのポリシーにも依存していません。ファブリックインターコネク트에適切なファームウェアがダウンロードされていることを確認します。Cisco UCS Manager によりシャーシとシャーシプロファイルの関連付けが実行される際にファームウェア イメージが使用できない場合、Cisco UCS Manager はファームウェアのアップグレードを無視し、関連付けを完了します。

シャーシ プロファイルのシャーシファームウェア パッケージを使用したファームウェアのアップグレードのステージ

シャーシプロファイルのシャーシファームウェア パッケージポリシーを使用して、シャーシファームウェアをアップグレードすることができます。



注意 エンドポイントを追加するか、既存のエンドポイントのファームウェアバージョンを変更することにより、シャーシファームウェアパッケージを修正すると、Cisco UCS Manager は [Pending Activities] をクリックして変更を確認した後で、エンドポイントをアップグレードします。このプロセスにより、シャーシ間のデータ トラフィックが中断されます。

新しいシャーシ プロファイル

新しいシャーシ プロファイルの場合、このアップグレードは次のステージで行われます。

シャーシ ファームウェア パッケージ ポリシーの作成

このステージでは、シャーシファームウェアパッケージを作成します。

シャーシ プロファイルの関連付け

このステージでは、シャーシプロファイルにシャーシファームウェアパッケージを含め、シャーシプロファイルとシャーシとの関連付けを形成します。システムによって、選択したファームウェアバージョンがエンドポイントにプッシュされます。ファームウェアパッケージで指定したバージョンがエンドポイントで確実に実行されるように、シャーシを再認識させる必要があります。

既存のシャーシ プロファイル

シャーシに関連付けられたシャーシプロファイルの場合、[Pending Activities] をクリックして変更を確認した後で、Cisco UCS Manager がファームウェアをアップグレードします。

シャーシ プロファイルのファームウェア パッケージに対するアップデートの影響

シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージを使用してファームウェアをアップデートするには、パッケージ内のファームウェアをアップデートする必要があります。ファームウェアパッケージへの変更を保存した後の動作は、Cisco UCS ドメインの設定によって異なります。

次の表に、シャーシプロファイルのファームウェアパッケージを使用するシャーシのアップグレードに対する最も一般的なオプションを示します。

シャーシ プロファイル	メンテナンス ポリシー	アップグレード処理
<p>シャーシのファームウェアパッケージが1つ以上のシャーシプロファイルに含まれており、各シャーシプロファイルが、1つのシャーシに関連付けられています。</p> <p>または</p> <p>シャーシ ファームウェアパッケージがアップデート中のシャーシプロファイルテンプレートに含まれており、このテンプレートから作成されたシャーシプロファイルが1つのサーバに関連付けられています。</p>	<p>ユーザ確認応答に関して設定済み</p>	<p>シャーシファームウェアパッケージをアップデートすると、次のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco UCS 変更を確認するように要求され、シャーシのユーザー確認が必要であることが通知されます。 2. 点滅している [Pending Activities] ボタンをクリックし、再認識するシャーシを選択し、新しいファームウェアを適用します。 3. Cisco UCS このポリシーを含むシャーシプロファイルに関連付けられているすべてのシャーシが照合され、モデル番号とベンダーが検証されます。モデル番号とベンダーがポリシーのファームウェアバージョンと一致する場合は、Cisco UCS によりシャーシが再認識され、ファームウェアがアップデートされます。 <p>シャーシを手動で再認識しても、Cisco UCS によってシャーシファームウェアパッケージが適用されたり、保留中のアクティビティがキャンセルされることはありません。</p> <p>[Pending Activities] ボタンを使用して、保留中のアクティビティを確認応答するか、またはキャンセルする必要があります。</p>

シャーシ ファームウェア パッケージの作成



ヒント

同じシャーシファームウェアパッケージに複数のタイプのファームウェアを含めることができます。たとえば、1つのシャーシファームウェアパッケージに、異なる2つのアダプタのモデル用のボードコントローラファームウェアとシャーシアダプタファームウェアの両方を含めることができます。ただし、同じ種類、ベンダー、モデル番号に対しては1つのファームウェアバージョンしか使用できません。システムはエンドポイントに必要なファームウェアバージョンを認識し、それ以外のファームウェアバージョンは無視します。

また、新しいシャーシファームウェアパッケージを作成するとき、または既存のシャーシファームウェアパッケージを変更するとき、シャーシファームウェアパッケージから特定のコンポーネントのファームウェアを除外できます。

始める前に

ファブリック インターコネクに適切なファームウェアがダウンロードされていることを確認します。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Policies] の順に展開します。
3. ポリシーを作成する組織のノードを展開します。
4. [Chassis Firmware Packages] を右クリックして [Create Chassis Firmware Package] を選択します。
5. [Create Chassis Firmware Package] ダイアログボックスで、パッケージの一意の名前と説明を入力します。
6. [Chassis Package] および [Service Pack] の各ドロップダウン リストから、ファームウェアパッケージを選択します。
7. [Excluded Components] 領域で、このシャーシ ファームウェア パッケージから除外するコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。
8. [OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Policies] の順に展開します。

ステップ 3 ポリシーを作成する組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 [Chassis Firmware Packages] を右クリックして [Create Chassis Firmware Package] を選択します。

ステップ 5 [Create Chassis Firmware Package] ダイアログボックスで、パッケージの一意の名前と説明を入力します。

この名前には、1～16文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。

ステップ 6 [Chassis Package] および [Service Pack] の各ドロップダウン リストから、ファームウェアパッケージを選択します。

[Service Pack] のイメージは、[Chassis Package] のイメージよりも優先されます。

ステップ 7 [Excluded Components] 領域で、このシャーシファームウェアパッケージから除外するコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。

コンポーネント チェックボックスを1つもオンにしない場合は、リスト内のすべてのコンポーネントがシャーシファームウェアパッケージに含まれます。

(注) [Local Disk] は、デフォルトでシャーシファームウェアパックから除外されます。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

次のタスク

ポリシーをシャーシ プロファイルまたはシャーシ プロファイル テンプレートに含めます

シャーシファームウェアパッケージのアップデート

同じシャーシファームウェアパッケージに複数のタイプのファームウェアを含めることができます。たとえば、1つのシャーシファームウェアパッケージに、異なる2つのアダプタのモデル用のボードコントローラファームウェアとシャーシアダプタファームウェアの両方を含めることができます。ただし、同じ種類、ベンダー、モデル番号に対しては1つのファームウェアバージョンしか使用できません。システムはエンドポイントに必要なファームウェアバージョンを認識し、それ以外のファームウェアバージョンは無視します。

また、新しいシャーシファームウェアパッケージを作成するとき、または既存のシャーシファームウェアパッケージを変更するとき、シャーシファームウェアパッケージから特定のコンポーネントのファームウェアを除外できます。



重要

各シャーシファームウェアパッケージは除外コンポーネントの1つのリストと関連付けられます。

始める前に

ファブリックインターコネクに適切なファームウェアがダウンロードされていることを確認します。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Policies] の順に展開します。
3. アップデートするポリシーを含む組織のノードを展開します。
4. [Chassis Firmware Packages] を展開し、アップデートするポリシーを選択します。
5. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
6. シャーシファームウェアパッケージのコンポーネントを変更するには、[Modify Package Versions] をクリックします。
7. シャーシパッケージを変更するには、[Chassis Package] ドロップダウン リストから、シャーシパッケージのバージョンを選択します。
8. サービスパックを変更するには、[Service Pack] ドロップダウン リストから、サービスパックのバージョンを選択します。
9. [Excluded Components] 領域で、このシャーシファームウェアパッケージから除外するコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。
10. [OK] をクリックします。

手順の詳細

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Chassis] > [Policies] の順に展開します。
- ステップ 3** アップデートするポリシーを含む組織のノードを展開します。
システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ 4** [Chassis Firmware Packages] を展開し、アップデートするポリシーを選択します。
- ステップ 5** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 6** シャーシ ファームウェア パッケージのコンポーネントを変更するには、[Modify Package Versions] をクリックします。
[Modify Package Versions] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 7** シャーシ パッケージを変更するには、[Chassis Package] ドロップダウン リストから、シャーシ パッケージのバージョンを選択します。
- ステップ 8** サービスパックを変更するには、[Service Pack] ドロップダウン リストから、サービスパックのバージョンを選択します。
サービス パックを削除するには、[<not set>] を選択します。
- ステップ 9** [Excluded Components] 領域で、このシャーシファームウェア パッケージから除外するコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。
コンポーネント チェックボックスを 1 つもオンにしない場合は、リスト内のすべてのコンポーネントがシャーシファームウェア パッケージに含まれます。
(注) [Local Disk] は、デフォルトでシャーシファームウェア パックから除外されます。
- ステップ 10** [OK] をクリックします。
-

既存のシャーシ プロファイルへのシャーシ ファームウェア パッケージの追加

シャーシプロファイルがシャーシに関連付けられると、Cisco UCS Manager は、ユーザの確認後に、新しいバージョンのシャーシのファームウェアを更新し、アクティブ化します。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
2. [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。
3. アップデートするシャーシプロファイルが含まれている組織のノードを展開します。
4. シャーシファームウェアパッケージを追加するシャーシプロファイルをクリックします。

5. [Work] ペインの [Policies] タブをクリックします。
6. 下矢印をクリックして、[Chassis Firmware Package] セクションを展開します。
7. シャーシファームウェア パッケージを追加するには、[Chassis Firmware Package] ドロップダウンリストから目的のポリシーを選択します。
8. [Save Changes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。

ステップ 2 [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。

ステップ 3 アップデートするシャーシプロファイルが含まれている組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 シャーシファームウェア パッケージを追加するシャーシプロファイルをクリックします。

ステップ 5 [Work] ペインの [Policies] タブをクリックします。

ステップ 6 下矢印をクリックして、[Chassis Firmware Package] セクションを展開します。

ステップ 7 シャーシファームウェア パッケージを追加するには、[Chassis Firmware Package] ドロップダウンリストから目的のポリシーを選択します。

ステップ 8 [Save Changes] をクリックします。

Cisco UCS S3260 サーバを使用した UCS ドメインのアップグレード

始める前に

- すべてのサーバ ノードがシャットダウンされていることを確認します。
- シャーシファームウェア パッケージポリシーとシャーシメンテナンス ポリシーを参照するシャーシポリシーが UCS ドメインに割り当てられていることを確認します。

手順の概要

1. 自動インストールによってインフラストラクチャファームウェアをアップグレードします。「[自動インストールを使用したインフラストラクチャファームウェアのアップグレード](#)」を参照してください。
2. シャーシファームウェア パッケージポリシーを更新します。
3. ホストのファームウェアを更新します。「[自動インストールによるサーバファームウェアのアップグレード](#)」を参照してください。

手順の詳細

ステップ1 自動インストールによってインフラストラクチャファームウェアをアップグレードします。「[自動インストールを使用したインフラストラクチャファームウェアのアップグレード](#)」を参照してください。

ステップ2 シャーシファームウェアパッケージポリシーを更新します。

- デフォルトのシャーシファームウェアパッケージポリシーを使用している場合は、新しいパッケージバージョンで**デフォルト** シャーシファームウェアパッケージポリシーを更新します。[シャーシファームウェアパッケージのアップデート \(97 ページ\)](#) を参照してください。
- 新しいシャーシパッケージバージョンを使用して新しいシャーシファームウェアパッケージポリシーを作成し、既存または割り当て済みのシャーシプロファイル（すべての UserAck を許可）を設定します。新しいシャーシファームウェアパッケージポリシーの作成については、[シャーシファームウェアパッケージの作成 \(95 ページ\)](#) を参照してください。

このプロセスには1～2時間かかることがあります。シャーシの [FSM] タブでステータスをモニタできません。

ステップ3 ホストのファームウェアを更新します。「[自動インストールによるサーバファームウェアのアップグレード](#)」を参照してください。

S3260 シャーシ およびサーバエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード

ここでは、S3260 シャーシ とサーバエンドポイントのアップグレードについて詳しく説明します。

S3260 シャーシ エンドポイント

S3260 シャーシ のファームウェアのアップグレードをトリガーするには、次の順に実行します。

1. CMC 1 ファームウェアの更新
2. CMC 2 ファームウェアの更新
3. シャーシアダプタ 1 ファームウェアの更新
4. シャーシアダプタ 2 ファームウェアの更新
5. SAS エクспанダ 1 ファームウェアの更新
6. SAS エクспанダ 2 ファームウェアの更新
7. SAS エクспанダ 1 ファームウェアのアクティブ化

8. SAS エクスパンダ 2 ファームウェアのアクティブ化
9. CMC 1 ファームウェアのアクティブ化
10. CMC 2 ファームウェアのアクティブ化
11. シャーシアダプタ 1 ファームウェアのアクティブ化
12. シャーシアダプタ 2 ファームウェアのアクティブ化
13. シャーシ ボード コントローラのアクティブ化



(注) シャーシのローカルディスクのファームウェアを手動で更新することはできません。ローカルディスクのファームウェアは、シャーシのファームウェアパッケージに明示的に含めた場合は更新されます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのエンドポイント

サーバエンドポイントのファームウェアのアップグレードをトリガーするには、次の順に実行します。

1. CIMC の更新
2. CIMC のアクティブ化
3. Update BIOS
4. BIOS のアクティブ化
5. ボード コントローラのアクティブ化
6. ストレージ コントローラのアクティブ化

ファームウェアのアップグレード中は、次の順に実行することを推奨します。

1. インフラストラクチャのアップグレード : Cisco UCS Manager ソフトウェアおよびファブリック インターコネクト
2. シャーシとサーバエンドポイントのアップグレード

ファームウェアのダウングレード中は、次の順に実行することを推奨します。

1. シャーシとサーバエンドポイントのダウングレード
2. インフラストラクチャのダウングレード : Cisco UCS Manager ソフトウェアおよびファブリック インターコネクト

シャーシエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード

CMC ファームウェアのアップデート S3260 シャーシ



注意 更新プロセスが完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、そこでメンテナンス作業を実行したりしないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します。
3. [Work] ペインの [Installed Firmware] タブをクリックして、[Chassis Management Controller] を選択し、[Update Firmware] をクリックします。
4. [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
5. (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します。

ステップ 3 [Work] ペインの [Installed Firmware] タブをクリックして、[Chassis Management Controller] を選択し、[Update Firmware] をクリックします。

ステップ 4 [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [Version] ドロップダウンリストから、エンドポイントをアップデートするファームウェアバージョンを選択します。
- b) [OK] をクリックします。

1 つ以上のエンドポイントを直接更新できない場合は、Cisco UCS Manager によって通知メッセージが表示されます。通知メッセージを確認すると、Cisco UCS Manager によって、サーバ上にある直接更新可能な他のすべてのエンドポイントのファームウェアが更新されます。

Cisco UCS Manager 選択したファームウェアパッケージがバックアップメモリスロットにコピーされ、アクティブ化されるまで保持されます。

ステップ 5 (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。

アップデートプロセスは数分かかることがあります。[Installed Firmware] タブの [Backup Version] フィールドに、選択したファームウェアパッケージが表示されるまで、ファームウェアをアクティブにしないでください。

次のタスク

ファームウェアをアクティブにします。

S3260 シャーシのシャーシアダプタ ファームウェアの更新

両方のファブリックインターコネクต์へのアダプタ接続がダウンした場合は、アップグレードはスキップされます。



注意 更新プロセスが完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、そこでメンテナンス作業を実行したりしないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します
3. [Installed Firmware] タブで [Chassis Adapter] を選択し、[Update Firmware] をクリックします。
4. [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
5. (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します

ステップ 3 [Installed Firmware] タブで [Chassis Adapter] を選択し、[Update Firmware] をクリックします。

ステップ 4 [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [Version] ドロップダウンリストから、エンドポイントをアップデートするファームウェアバージョンを選択します。
- b) [OK] をクリックします。

1 つ以上のエンドポイントを直接更新できない場合は、Cisco UCS Manager によって通知メッセージが表示されます。通知メッセージを確認すると、Cisco UCS Manager によって、サーバ上にある直接更新可能な他のすべてのエンドポイントのファームウェアが更新されます。

Cisco UCS Manager 選択したファームウェア パッケージがバックアップ メモリ スロットにコピーされ、アクティブ化されるまで保持されます。

ステップ 5 (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。

アップデート プロセスは数分かかることがあります。[Installed Firmware] タブの [Backup Version] フィールドに、選択したファームウェア パッケージが表示されるまで、ファームウェアをアクティブにしないでください。

次のタスク

ファームウェアをアクティブにします。

SAS エクスパンダのファームウェアのアップデート S3260 シャーシ



注意 更新プロセスが完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、そこでメンテナンス作業を実行したりしないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップ パーティションが破損する場合があります。バックアップ パーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します
3. [Installed Firmware] タブで、更新する SAS エクスパンダを選択して [Update Firmware] をクリックします。
4. [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
5. (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します

ステップ 3 [Installed Firmware] タブで、更新する SAS エクスパンダを選択して [Update Firmware] をクリックします。

ステップ 4 [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [Version] ドロップダウン リストから、エンドポイントをアップデートするファームウェア バージョンを選択します。
- b) [OK] をクリックします。

1 つ以上のエンドポイントを直接更新できない場合は、Cisco UCS Manager によって通知メッセージが表示されます。通知メッセージを確認すると、Cisco UCS Manager によって、サーバ上にある直接更新可能な他のすべてのエンドポイントのファームウェアが更新されます。

Cisco UCS Manager 選択したファームウェア パッケージがバックアップ メモリ スロットにコピーされ、アクティブ化されるまで保持されます。

ステップ 5 (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。

アップデート プロセスは数分かかることがあります。[Installed Firmware] タブの [Backup Version] フィールドに、選択したファームウェアパッケージが表示されるまで、ファームウェアをアクティブにしないでください。

次のタスク

ファームウェアをアクティブにします。

SAS エクスパンダ ファームウェアのアクティブ化 S3260 シャーシ

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します
3. [Installed Firmware] タブで、更新する SAS エクスパンダを選択して [Activate Firmware] をクリックします。
4. [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します

ステップ 3 [Installed Firmware] タブで、更新する SAS エクスパンダを選択して [Activate Firmware] をクリックします。

ステップ 4 [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [バージョン設定 (Set Version)] ドロップダウンリストから、該当するバージョンを選択します。

1 つ以上の選択したエンドポイントがバックアップ バージョンとして必要なバージョンで設定されていない場合は、[Set Version] ドロップダウンリストにそのバージョンが表示されません。各エンドポイントについて、[Startup Version] カラムからバージョンを選択する必要があります。

- b) [OK] をクリックします。
-

CMC ファームウェアのアクティブ化 S3260 シャーシ

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します
3. [Installed Firmware] タブで [Chassis Management Controller] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。
4. [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します

ステップ 3 [Installed Firmware] タブで [Chassis Management Controller] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。

ステップ 4 [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [バージョン設定 (Set Version)] ドロップダウン リストから、該当するバージョンを選択します。

1 つ以上の選択したエンドポイントがバックアップバージョンとして必要なバージョンで設定されていない場合は、[Set Version] ドロップダウンリストにそのバージョンが表示されません。各エンドポイントについて、[Startup Version] カラムからバージョンを選択する必要があります。

- b) [OK] をクリックします。
-

S3260 シャーシでシャーシアダプタ ファームウェアをアクティブ化する

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します
3. [Installed Firmware] タブで [Chassis Adapter] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。
4. [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します

ステップ 3 [Installed Firmware] タブで [Chassis Adapter] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。

ステップ 4 [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [バージョン設定 (Set Version)] ドロップダウン リストから、該当するバージョンを選択します。

1つ以上の選択したエンドポイントがバックアップバージョンとして必要なバージョンで設定されていない場合は、[Set Version] ドロップダウンリストにそのバージョンが表示されません。各エンドポイントについて、[Startup Version] カラムからバージョンを選択する必要があります。

- b) [OK] をクリックします。

シャーシボードコントローラ ファームウェアのアクティブ化 S3260 シャーシ



(注) Cisco UCS Manager 以前のバージョンへのシャーシボードコントローラ ファームウェアのアクティブ化をサポートしません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します
3. [Installed Firmware] タブで [Board Controller] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。
4. [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します

ステップ 3 [Installed Firmware] タブで [Board Controller] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。

ステップ 4 [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [バージョン設定 (Set Version)] ドロップダウンリストから、該当するバージョンを選択します。

1つ以上の選択したエンドポイントがバックアップバージョンとして必要なバージョンで設定されていない場合は、[Set Version] ドロップダウンリストにそのバージョンが表示されません。各エンドポイントについて、[Startup Version] カラムからバージョンを選択する必要があります。

- b) [OK] をクリックします。
-

サーバエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード

Cisco UCS S3260 サーバノードの CIMC ファームウェアのアップデート



注意 更新プロセスが完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、そこでメンテナンス作業を実行したりしないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. CIMC をアップデートするサーバのノードを展開します。
4. [Work] ペインの [Inventory] タブをクリックします。
5. [CIMC] タブをクリックします。
6. [Actions] 領域で [Update Firmware] をクリックします。
7. [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
8. (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 CIMC をアップデートするサーバのノードを展開します。

ステップ 4 [Work] ペインの [Inventory] タブをクリックします。

ステップ 5 [CIMC] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域で [Update Firmware] をクリックします。

ステップ 7 [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [Version] ドロップダウンリストから、エンドポイントをアップデートするファームウェアバージョンを選択します。
- b) [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager 選択したファームウェアパッケージがバックアップメモリスロットにコピーされ、アクティブ化されるまで保持されます。

ステップ 8 (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。

アップデート プロセスは数分かかることがあります。[General] タブの [Firmware] 領域の [Backup Version] フィールドに、選択したファームウェアパッケージが表示されるまで、ファームウェアをアクティブにしないでください。

次のタスク

ファームウェアをアクティブにします。

Cisco UCS S3260 サーバノードの CIMC ファームウェアのアクティブ化

CIMC のファームウェアのアクティベーションによって、データ トラフィックは中断しません。ただし、すべての KVM セッションに割り込み、サーバに接続しているすべての vMedia が切断されます。



注意

更新プロセスが完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、そこでメンテナンス作業を実行したりしないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップ パーティションが破損する場合があります。バックアップ パーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. アップデートしたファームウェアをアクティブにする対象の Cisco Integrated Management Controller (CIMC) が搭載されているサーバのノードを展開します。
4. [Work] ペインで [Inventory] タブをクリックします。
5. [CIMC] タブをクリックします。
6. [Actions] 領域の [Activate Firmware] をクリックします。
7. [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 アップデートしたファームウェアをアクティブにする対象の Cisco Integrated Management Controller (CIMC) が搭載されているサーバのノードを展開します。

ステップ 4 [Work] ペインで [Inventory] タブをクリックします。

ステップ 5 [CIMC] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域の [Activate Firmware] をクリックします。

ステップ7 [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [Version To Be Activated] ドロップダウン リストから、適切なバージョンを選択します。

1 つ以上の選択したエンドポイントがバックアップバージョンとして必要なバージョンで設定されていない場合は、[Set Version] ドロップダウンリストにそのバージョンが表示されません。各エンドポイントについて、[Startup Version] カラムからバージョンを選択する必要があります。

- b) スタートアップバージョンを設定し、エンドポイントで実行しているバージョンを変更しない場合、[Set Startup Version Only] チェックボックスをオンにします。

[Set Startup Version Only] を設定した場合は、アクティブ化されたファームウェアが pending-next-reboot 状態に移行して、エンドポイントがすぐにリブートしません。有効化されたファームウェアは、エンドポイントがリブートするまで、実行中のファームウェアのバージョンになりません。

- c) [OK] をクリックします。

Cisco UCS S3260 サーバノードの BIOS ファームウェアのアップデート



注意 更新プロセスが完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、そこでメンテナンス作業を実行したりしないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. BIOS ファームウェアをアップデートするサーバのノードを展開します。
4. [Work] ペインの [Inventory] タブをクリックします。
5. [Motherboard] タブをクリックします。
6. [Actions] 領域で [Update BIOS Firmware] をクリックします。
7. [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

手順の詳細

ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ3 BIOS ファームウェアをアップデートするサーバのノードを展開します。

ステップ4 [Work] ペインの [Inventory] タブをクリックします。

ステップ5 [Motherboard] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域で [Update BIOS Firmware] をクリックします。

ステップ 7 [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [Version] ドロップダウンリストから、サーバ BIOS のアップデートの対象となるファームウェアバージョンを選択します。
- b) (任意) 互換性のない可能性や、現在実行中のタスクに関係なく、ファームウェアをアップデートする場合は、[Force] チェックボックスをオンにします。
- c) [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager により、選択したサーバの BIOS ファームウェアパッケージがバックアップメモリスロットにコピーされますが、明示的にアクティブ化されるまで、バックアップのままです。

アップデートが完了すると、[Motherboard] タブの [BIOS] 領域で、[Backup Version] の [Update Status] カラムに [Ready] と表示されます。

次のタスク

ファームウェアをアクティブにします。

Cisco UCS S3260 サーバノードの BIOS ファームウェアのアクティブ化

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. アップデートした BIOS ファームウェアをアクティブ化するサーバのノードを展開します。
4. [Work] ペインの [Inventory] タブをクリックします。
5. [Motherboard] タブをクリックします。
6. [Actions] 領域で [Activate BIOS Firmware] をクリックします。
7. [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 アップデートした BIOS ファームウェアをアクティブ化するサーバのノードを展開します。

ステップ 4 [Work] ペインの [Inventory] タブをクリックします。

ステップ 5 [Motherboard] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域で [Activate BIOS Firmware] をクリックします。

ステップ 7 [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [Version To Be Activated] ドロップダウンリストから、適切なサーバ BIOS のバージョンを選択します。

- b) スタートアップバージョンを設定し、サーバで実行しているバージョンを変更しない場合、[Set Startup Version Only] チェックボックスをオンにします。

[Set Startup Version Only] を設定した場合は、アクティブ化されたファームウェアが pending-next-boot 状態に移行し、サーバはすぐにはリブートされません。アクティブ化されたファームウェアは、サーバがリブートされるまでは、実行されているバージョンのファームウェアになりません。

- c) [OK] をクリックします。

Cisco UCS S3260 サーバノードのボードコントローラ ファームウェアのアクティブ化



- (注) このアクティブ化手順を実行すると、サーバはリブートされます。サーバに関連付けられているサービス プロファイルにメンテナンス ポリシーが含まれているかどうかに応じて、リブートはただちに行われることがあります。ボードコントローラファームウェアは、Cisco UCS ドメインのアップグレードの最後の手順として、サーバ BIOS のアップグレードと同時に、サービス プロファイル内のホストファームウェア パッケージからアップグレードすることをお勧めします。これによって、アップグレードプロセス中にサーバをリブートする回数を低減できます。

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] ノードをクリックします。

ステップ 3 [Work] ペインの [Firmware Management] タブをクリックします。

ステップ 4 [Installed Firmware] タブの [Activate Firmware] をクリックします。

Cisco UCS Manager GUI によって [ファームウェアのアクティブ化 (Activate Firmware)] ダイアログボックスが開かれ、Cisco UCS ドメイン内のすべてのエンドポイントのファームウェアバージョンが検証されます。このステップは、シャーシとサーバの数に基づいて数分かかる場合があります。

ステップ 5 [Activate Firmware] ダイアログボックスのメニューバーにある [Filter] ドロップダウンリストから、[Board Controller] を選択します。

Cisco UCS Manager GUI によって、[Activate Firmware] ダイアログボックスにボードコントローラを備えたすべてのサーバが表示されます。

ステップ 6 更新するボードコントローラに合わせて、[Startup Version] ドロップダウンリストからバージョンを選択します。

ステップ 7 [OK] をクリックします。

ステップ 8 (任意) 異なるアーキテクチャの CPU にアップグレードする場合には、[Force Board Controller Activation] オプションを使用してファームウェアバージョンを更新することもできます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのストレージコントローラ ファームウェアのアクティブ化

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. アクティブ化するストレージコントローラが存在するサーバを選択します。
4. [Installed Firmware] タブで [Storage Controller] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。
5. [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 アクティブ化するストレージコントローラが存在するサーバを選択します。

ステップ 4 [Installed Firmware] タブで [Storage Controller] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。

ステップ 5 [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [バージョン設定 (Set Version)] ドロップダウンリストから、該当するバージョンを選択します。

1 つ以上の選択したエンドポイントがバックアップバージョンとして必要なバージョンで設定されていない場合は、[Set Version] ドロップダウンリストにそのバージョンが表示されません。各エンドポイントについて、[Startup Version] カラムからバージョンを選択する必要があります。

- b) [OK] をクリックします。
-



第 8 章

シャーシ管理

- Cisco UCS S3260 シャーシ (115 ページ)
- シャーシの認識 (116 ページ)
- シャーシの稼働中止 (117 ページ)
- シャーシの削除 (117 ページ)
- シャーシのロケータ LED の電源投入 (118 ページ)
- シャーシのロケータ LED の電源切断 (119 ページ)
- インベントリからのゾーン分割ポリシーの作成 (119 ページ)
- シャーシの POST 結果の表示 (120 ページ)

Cisco UCS S3260 シャーシ

Cisco UCS Manager リリース 4.0(1) では、Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect で Cisco UCS S3260 シャーシがサポートされています。

Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) では、Cisco UCS 6300 シリーズの Cisco UCS S3260 シャーシのサポート、6200 シリーズ ファブリック インターコネクト設定が導入されました。

Cisco UCS S3260 シャーシは、スタンドアロン環境でも、または Cisco Unified Computing System の一部としても動作するように設計された、4U シャーシです。次の主要なコンポーネントがあります。

- 4 つの 1050 W AC 電源モジュール (2+2 共有および動作の冗長モード)
- 2 つのシステム I/O コントローラ (SIOC) スロット
- 2 つのストレージスロット、そのうちの 1 つは拡張ストレージに使用可能



(注) シャーシの 2 番目のサーバスロットは、追加の 4 台の 3.5 インチドライブ用の HDD 拡張トレイ モジュールで利用できます。

- 2 番目のサーバの代わりに、オプションの 4 台の 3.5 インチ HDD 拡張トレイ モジュールを含む 56 個の 3.5 インチ ドライブ ベイ

- 6TB HDD を使用した最大 360TB のストレージ容量
- 個々のサーバモジュールに3.5インチドライブを割り当てるように設定できるシリアル接続 SCSI (SAS) エクスパンダ
- シャーシの 2 台のサーバは、IO エクスパンダを含む 1 台のダブルハイトサーバと交換可能です

シャーシの認識

シャーシをファブリックインターコネクタに接続するポートを変更した場合は、次の手順を実行します。Cisco UCS Managerがポートの変更を認識していることをシャーシに確認します。

シャーシをファブリックインターコネクタに接続するポートを変更した後、少なくとも1分間待ってからシャーシを再確認します。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
3. 確認するシャーシを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域の [Acknowledge Chassis] をクリックします。
6. Cisco UCS Manager に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。

ステップ 3 確認するシャーシを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域の [Acknowledge Chassis] をクリックします。

ステップ 6 Cisco UCS Manager に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

Cisco UCS Manager によって、シャーシの接続が解除され、システム内にシャーシとファブリックインターコネクタとの接続が再確立されます。

シャーシの稼働中止

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
3. 稼働を停止するシャーシを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で、[Decommission Chassis] をクリックします。
6. Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。

ステップ 3 稼働を停止するシャーシを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Decommission Chassis] をクリックします。

ステップ 6 Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

稼働停止処理が完了するまでには、数分かかる場合があります。

シャーシの削除

始める前に

次の手順を実行する前に、シャーシを物理的に取り外します。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
3. 削除するシャーシを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で [Remove Chassis] をクリックします。
6. Cisco UCS Manager に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
 - ステップ 3 削除するシャーシを選択します。
 - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Actions] 領域で [Remove Chassis] をクリックします。
 - ステップ 6 Cisco UCS Manager に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
削除が完了するまでに数分かかる場合があります。
-

シャーシのロケータ LED の電源投入

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
3. 位置を特定する必要があるシャーシをクリックします。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で [Turn on Locator LED] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
- ステップ 3 位置を特定する必要があるシャーシをクリックします。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で [Turn on Locator LED] をクリックします。

ロケータ LED の電源がすでにオンになっている場合、この処理は実行できません。

シャーシの LED が点滅を開始します。

シャーシのロケータ LED の電源切断

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
3. ロケータ LED の電源をオフにするシャーシを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で [Turn off Locator LED] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。

ステップ 3 ロケータ LED の電源をオフにするシャーシを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で [Turn off Locator LED] をクリックします。

ロケータ LED の電源がすでにオフになっている場合、この処理は実行できません。

シャーシの LED の点滅が停止します。

インベントリからのゾーン分割ポリシーの作成

既存のインベントリとディスクの所有権からディスク ゾーン分割ポリシーを作成できます。



(注) 既存のインベントリからディスク ゾーン分割ポリシーを作成すると、Cisco UCS S3260 シャーシでのみサポートされます。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
3. ゾーン分割ポリシーを作成するシャーシを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で、[Create Zoning Policy from Inventory] をクリックします。
6. 表示された [Create Zoning Policy from Inventory] ダイアログボックスで、次を実行します。
7. 表示される確認ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
- ステップ 3 ゾーン分割ポリシーを作成するシャーシを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Create Zoning Policy from Inventory] をクリックします。
- ステップ 6 表示された [Create Zoning Policy from Inventory] ダイアログボックスで、次を実行します。
- [Disk Zoning Policy Name] を入力します。
 - ポリシーを作成する組織を選択します。
 - [OK] をクリックします。
- ステップ 7 表示される確認ダイアログボックスで [OK] をクリックします。
-

シャーシの POST 結果の表示

シャーシ内のすべてのサーバおよびアダプタに対する Power On Self-Test プロセスで収集されたすべてのエラーを表示できます。

手順の概要

- [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
- Power On Self-Test (POST) の結果を表示するシャーシを選択します。
- [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- [Actions] 領域で [View POST Results] をクリックします。
- (任意) アダプタのプロパティを表示するには、[Affected Object] カラムをクリックします。
- [OK] をクリックして [POST Results] ダイアログボックスを閉じます。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] の順に展開します。
- ステップ 3 Power On Self-Test (POST) の結果を表示するシャーシを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で [View POST Results] をクリックします。

[POST Results] ダイアログボックスに、シャーシ内の各サーバとそのアダプタに対する POST の結果が一覧表示されます。

ステップ 6 (任意) アダプタのプロパティを表示するには、[Affected Object] カラムをクリックします。

ステップ 7 [OK] をクリックして [POST Results] ダイアログボックスを閉じます。



第 9 章

サーバ管理

- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードの管理 \(124 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードのブート \(124 ページ\)](#)
- [サービス プロファイルからの Cisco UCS S3260 サーバのブート \(125 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードのブート順序の決定 \(126 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードのシャットダウン \(126 ページ\)](#)
- [サービス プロファイルからの Cisco UCS S3260 サーバ ノードのシャットダウン \(127 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードのリセット \(128 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードの出荷時のデフォルト設定へのリセット \(129 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードの再認識 \(130 ページ\)](#)
- [シャーシからの Cisco UCS S3260 サーバ ノードの削除 \(131 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードからのインバンド設定の削除 \(132 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードの稼働停止 \(132 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードの再稼働 \(133 ページ\)](#)
- [サーバ スロットの再認識 S3260 シャーシ \(134 ページ\)](#)
- [存在しない Cisco UCS S3260 サーバ ノードの設定データベースからの削除 \(135 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードのロケータ LED のオン/オフ切り替え \(135 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードのローカルディスク ロケータ LED のオン/オフ切り替え \(136 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードの CIMC のリセット \(137 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードの CMOS のリセット \(138 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードからの NMI の発行 \(139 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードの POST 結果の表示 \(139 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 サーバ ノードのヘルス イベントの表示 \(140 ページ\)](#)
- [ヘルス LED アラーム \(142 ページ\)](#)

Cisco UCS S3260 サーバノードの管理

Cisco UCS Managerを使用して、Cisco UCS ドメインのCisco UCS S3260サーバノードすべてを管理およびモニタできます。電源状態の変更など一部のサーバ管理タスクは、サーバおよびサービスプロファイルから実行できます。

残りの管理タスクは、サーバ上でだけ実行できます。

シャーシ内のサーバスロットが空の場合、そのスロットに関する情報、エラー、および障害がCisco UCS Manager から提供されます。サーバ mismatch エラーを解決し、そのスロット内のサーバを再検出するために、スロットを再認識させることもできます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのブート

[Actions] 領域で [Boot Server] リンクがグレー表示されている場合は、まず、サーバをシャットダウンする必要があります。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. ブートするサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域の [Boot Server] をクリックします。
6. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 ブートするサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域の [Boot Server] をクリックします。

ステップ 6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

サーバがブートされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに [OK] ステータスが表示されます。

サービス プロファイルからの Cisco UCS S3260 サーバのブート

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
2. [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。
3. サービス プロファイルを作成する組織、または適切なサービス プロファイルが含まれている組織のノードを展開します。
4. 関連付けられたサーバをブートする必要があるサービス プロファイルを選択します。
5. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
6. [Actions] 領域の [Boot Server] をクリックします。
7. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
8. [Boot Server] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。

ステップ 2 [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。

ステップ 3 サービス プロファイルを作成する組織、または適切なサービス プロファイルが含まれている組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 関連付けられたサーバをブートする必要があるサービス プロファイルを選択します。

ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域の [Boot Server] をクリックします。

ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ 8 [Boot Server] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

サーバがブートした後は、[General] タブの [Overall Status] フィールドに [ok] ステータスまたは [up] ステータスが表示されます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのブート順序の決定



ヒント サーバに関連付けられているサービス プロファイルの [General] タブからもブート順序タブを表示できます。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. ブート順序を決定するサーバをクリックします。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Boot Order Details] 領域が展開されていない場合は、見出しの右側の [Expand] アイコンをクリックします。
6. サーバに割り当てられているブート順序を表示するには、[Configured Boot Order] タブをクリックします。
7. 物理サーバ構成内のさまざまなデバイスから何がブートされるかを表示するには、[Actual Boot Order] タブをクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 ブート順序を決定するサーバをクリックします。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Boot Order Details] 領域が展開されていない場合は、見出しの右側の [Expand] アイコンをクリックします。

ステップ 6 サーバに割り当てられているブート順序を表示するには、[Configured Boot Order] タブをクリックします。

ステップ 7 物理サーバ構成内のさまざまなデバイスから何がブートされるかを表示するには、[Actual Boot Order] タブをクリックします。

Cisco UCS S3260 サーバノードのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティング システムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフルシャットダウン シーケンスがトリガーされます。

[Actions] 領域の [Shutdown Server] リンクがグレー表示されている場合、そのサーバは動作していません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. シャットダウンするサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。
6. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 シャットダウンするサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。

ステップ 6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

サーバが正常にシャットダウンされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに電源オフ状態が表示されます。

サービス プロファイルからの Cisco UCS S3260 サーバノードのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティング システムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフル シャットダウンシーケンスがトリガーされます。

[Actions] 領域の [Shutdown Server] リンクがグレー表示されている場合、そのサーバは動作していません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
2. [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。
3. 関連付けられているサービス プロファイルを含む組織のノードを展開します。
4. シャットダウンするサーバと関連付けられたサービス プロファイルを選択します。
5. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
6. [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。
7. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ2 [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。
- ステップ3 関連付けられているサービス プロファイルを含む組織のノードを展開します。
- ステップ4 シャットダウンするサーバと関連付けられたサービス プロファイルを選択します。
- ステップ5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。
- ステップ7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

サーバが正常にシャットダウンされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに [down] ステータスまたは [power-off] ステータスが表示されます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのリセット

サーバをリセットすると、Cisco UCS Manager により、リセットライン上にパルスが送信されます。オペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを選択することができます。オペレーティングシステムがグレースフルシャットダウンをサポートしていない場合は、サーバの電源を切ってから入れ直します。サーバをリセットする前に、Cisco UCS Manager にすべての管理操作を完了させるオプションでは、それらの操作がサーバのリセット前に完了する保証はありません。



- (注) 電源切断状態からサーバをブートする場合は、[Reset] を使用しないでください。

この手順を使用して電源投入を続けると、サーバの望ましい電源状態が実際の電源状態と同期しなくなり、サーバが後で予期せずシャットダウンすることがあります。選択したサーバを電源切断状態から安全にリブートするには、[Cancel] をクリックし、[Boot Server] アクションを選択します。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. リセットするサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で [Reset] をクリックします。
6. [Reset Server] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 リセットするサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で [Reset] をクリックします。
- ステップ 6 [Reset Server] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a) [Power Cycle] オプションをクリックします。
 - b) (任意) このサーバの保留中の管理操作を Cisco UCS Manager によってすべて完了させる場合は、チェックボックスをオンにします。
 - c) [OK] をクリックします。

リセットが完了するまでに数分かかる場合があります。サーバがリセットされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに OK ステータスが表示されます。

Cisco UCS S3260 サーバノードの出荷時のデフォルト設定へのリセット

Cisco UCS S3260 サーバノードを出荷時の設定にリセットできるようになりました。デフォルトでは、出荷時へのリセット操作は、ストレージドライブに影響しません。これはデータの損失を防止するためです。ただし、これらのデバイスを既知の状態にリセットすることもできます。

次のガイドラインは、スクラブ ポリシーを使用する場合に Cisco UCS S3260 サーバノードに適用されます。

- Cisco UCS S3260 サーバノードでは、スクラブ ポリシーを使用してストレージを削除することはできません。
- Cisco UCS S3260 サーバノードでは、FlexFlash ドライブはサポートされていません。
- Cisco UCS S3260 サーバノードで行える操作は、スクラブ ポリシーを使用した BIOS のリセットのみです。



重要 ストレージデバイスをリセットすると、データが失われる可能性があります。

サーバを出荷時のデフォルト設定にリセットするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ3 出荷時のデフォルト設定にリセットするサーバを選択します。
- ステップ4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
- ステップ6 [Maintenance] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- [Reset to Factory Default] をクリックします。
 - [OK] をクリックします。
- ステップ7 表示される [Maintenance Server] ダイアログ ボックスから適切なオプションを選択します。
- すべてのストレージを削除するには、[Scrub Storage] チェックボックスを選択します。

(注) Cisco UCS S3260 サーバノードでは、スクラブ ポリシーを使用してストレージを削除することはできません。
 - すべてのストレージを削除してからすべてのディスクを初期状態に戻すには、[Create Initial Volumes] チェックボックスを選択します。

[Scrub Storage] チェックボックスを選択した場合のみ、このチェックボックスを選択できます。JBOD をサポートするサーバの場合、ディスクは JBOD 状態になります。JBOD をサポートしないサーバの場合、各ディスクはディスク内のすべての領域を占有する単一 R0 ボリュームで初期化されます。
- 重要** ストレージプロファイルを使用するには、[Create Initial Volumes] ボックスを選択しないでください。ストレージプロファイルを使用しているときに初期ボリュームを作成すると、設定エラーが発生する可能性があります。
- Cisco UCS Manager サーバを出荷時のデフォルト設定にリセットします。
-

Cisco UCS S3260 サーバノードの再認識

サーバ、およびそのサーバのエンドポイントすべてを再検出する必要がある場合は、次の手順を実行します。たとえば、サーバがディスクバリ状態など、予期していなかった状態から抜け出せなくなっている場合に、この手順を使用します。

手順の概要

- [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- 再確認するサーバを選択します。
- [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。

6. [Maintenance] ダイアログボックスで、[Re-acknowledge] をクリックし、次に [OK] をクリックします。

手順の詳細

-
- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
 - ステップ 3 再確認するサーバを選択します。
 - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
 - ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、[Re-acknowledge] をクリックし、次に [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager はサーバを切断し、その後、サーバとシステム内の 1 つまたは複数のファブリック インターコネクトとの接続を確立します。確認が終了するまでに数分かかる場合があります。サーバが確認されると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに OK ステータスが表示されます。

シャーシからの Cisco UCS S3260 サーバノードの削除

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. シャーシから削除するサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
6. [Maintenance] ダイアログボックスで、[Decommission] をクリックし、[OK] をクリックします。
7. シャーシの物理的な配置場所で、スロットからサーバハードウェアを取り外します。

手順の詳細

-
- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
 - ステップ 3 シャーシから削除するサーバを選択します。
 - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
 - ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、[Decommission] をクリックし、[OK] をクリックします。

サーバが Cisco UCS 構成から削除されます。

ステップ 7 シャーシの物理的な配置場所で、スロットからサーバハードウェアを取り外します。

サーバハードウェアの取り外し方法については、お使いのシャーシの『*Cisco UCS Hardware Installation Guide*』を参照してください。

次のタスク

サーバを物理的に取り付けなおす場合は、スロットを再認識して、Cisco UCS Manager にこのサーバを再検出させる必要があります。

Cisco UCS S3260 サーバノードからのインバンド設定の削除

この手順では、ブレードサーバからインバンド管理 IP アドレスの設定を削除します。このアクションがグレー表示されている場合、インバンド設定は完了していません。

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] > [Server Name] の順に展開します。

ステップ 3 [Work] 領域の [Inventory] タブをクリックします。

ステップ 4 [CIMC] サブタブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Delete Inband Configuration] をクリックします。

ステップ 6 [Delete] の確認ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。

サーバのインバンド設定が削除されます。

(注) Cisco UCS Manager でインバンドサービスプロファイルがデフォルト VLAN とプール名で設定されている場合、ここでインバンド設定を削除した約 1 分後、サーバ CIMC が自動的にインバンドプロファイルからインバンド設定を取得します。

Cisco UCS S3260 サーバノードの稼働停止

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. 稼働を停止するサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。

6. [Maintenance] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
 - ステップ 3 稼働を停止するサーバを選択します。
 - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
 - ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a) [Decommission] をクリックします。
 - b) [OK] をクリックします。サーバが Cisco UCS 構成から削除されます。
-

次のタスク

サーバを物理的に取り付けなおす場合は、Cisco UCS Manager にスロットを再認識させ、そのサーバを再検出させる必要があります。

Cisco UCS S3260 サーバノードの再稼動

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Chassis] ノードをクリックします。
3. [Work] ペインで [Decommissioned] タブをクリックします。
4. 再稼動する各サーバの行で、[Recommission] カラムのチェックボックスをオンにしてから、[Save Changes] をクリックします。
5. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
6. (任意) サーバの再稼動と検出の進行状況を、そのサーバの [FSM] タブでモニタします。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Chassis] ノードをクリックします。
- ステップ 3 [Work] ペインで [Decommissioned] タブをクリックします。
- ステップ 4 再稼動する各サーバの行で、[Recommission] カラムのチェックボックスをオンにしてから、[Save Changes] をクリックします。

ステップ5 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ6 (任意) サーバの再稼動と検出の進行状況を、そのサーバの [FSM] タブでモニタします。

サーバスロットの再認識 S3260 シャーシ

物理ハードウェアをシャーシから取り外さずにサーバの稼働を中止した場合、Cisco UCS Manager にサーバを再検出させ、再認識させるには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. スロットを再確認するサーバを選択します。
4. Cisco UCS Manager に [Resolve Slot Issue] ダイアログボックスが表示された場合は、次のいずれかの手順を実行します。

手順の詳細

ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ3 スロットを再確認するサーバを選択します。

ステップ4 Cisco UCS Manager に [Resolve Slot Issue] ダイアログボックスが表示された場合は、次のいずれかの手順を実行します。

オプション	説明
[Situation] 領域の [here] リンク	このリンクをクリックして、確認ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。Cisco UCS Manager がスロットを再認識し、スロット内のサーバを検出します。
OK	[General] タブに移動するには、このボタンをクリックします。[Actions] 領域の [Reacknowledge Slot] リンクを使用すると、Cisco UCS Manager でスロットを再確認し、スロット内のサーバを検出できます。

存在しない Cisco UCS S3260 サーバノードの設定データベースからの削除

サーバを解放せずにサーバハードウェアを物理的に外した場合は、次の手順を実行します。サーバが物理的に存在する場合はこの手順を実行できません。

サーバを物理的に削除するには、[シャーンからの Cisco UCS S3260 サーバノードの削除 \(131 ページ\)](#) を参照してください。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. 設定データベースから削除するサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
6. [Maintenance] ダイアログボックスで、[Remove] をクリックし、[OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 設定データベースから削除するサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。

ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、[Remove] をクリックし、[OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager は、設定データベースからそのサーバに関するすべてのデータを削除します。サーバスロットは、新しいサーバハードウェアの挿入に使用できます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのロケータ LED のオン/オフ切り替え

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

3. ロケータ LED のオン/オフを切り替えるサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で、次のいずれかをクリックします。
 - [Turn on Locator LED] : 選択したサーバの LED を点灯します。
 - [Turn on Locator LED] : 選択したサーバの LED を消灯します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 ロケータ LED のオン/オフを切り替えるサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、次のいずれかをクリックします。

- [Turn on Locator LED] : 選択したサーバの LED を点灯します。
- [Turn on Locator LED] : 選択したサーバの LED を消灯します。

Cisco UCS S3260 サーバノードのローカル ディスク ロケータ LED のオン/オフ切り替え

始める前に

- ディスクがゾーン分割されていることを確認します。ゾーン分割されていないディスクでは、ロケータ LED のオンおよびオフはできません。
- ディスクが配置されるサーバの電源が投入されていることを確認します。サーバがオフの場合、ローカル ディスクのロケータ LED のオン/オフを切り替えることはできません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. ローカル ディスクのロケータ LED のオン/オフを切り替えるサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[Inventory] > [Storage] > [Disks] タブの順にクリックします。
5. ディスクをクリックします。
6. [Details] 領域で、[Toggle Locator LED] をクリックします。
7. [Save Changes] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 ローカル ディスクのロケータ LED のオン/オフを切り替えるサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[Inventory] > [Storage] > [Disks] タブの順にクリックします。
ストレージコントローラ インベントリが表示されます。
- ステップ 5 ディスクをクリックします。
ディスクの詳細が表示されます。
- ステップ 6 [Details] 領域で、[Toggle Locator LED] をクリックします。
[Locator LED] の状態が [On] の場合は、[Off] に切り替わります。[Locator LED] の状態が [Off] の場合は、[On] に切り替わります。
- ステップ 7 [Save Changes] をクリックします。

Cisco UCS S3260 サーバノードの CIMC のリセット

ファームウェアの場合、サーバのトラブルシューティング時に、CIMC のリセットが必要になることがあります。CIMC のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC のリセット後、CIMC は、そのサーバで実行中のバージョンのファームウェアを使ってリブートします。

CIMC をリセットすると、CIMC がリブートするまで、Cisco UCS の電力モニタリング機能が短時間使用不能になります。通常は 20 秒しかかかりませんが、その間にピーク電力制限を超える可能性があります。低い電力制限が設定された環境で、設定された電力キャップを超えないようにするには、CIMC のリブートまたはアクティブ化を交互に実施することを検討してください。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. CIMC をリセットするサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
6. [Recover Server] ダイアログボックスで、[Reset CIMC (Server Controller)] をクリックし、[OK] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
 - ステップ 3 CIMC をリセットするサーバを選択します。
 - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
 - ステップ 6 [Recover Server] ダイアログボックスで、[Reset CIMC (Server Controller)] をクリックし、[OK] をクリックします。
-

Cisco UCS S3260 サーバノードの CMOS のリセット

場合によっては、サーバのトラブルシューティング時に、CMOSのリセットが必要になることがあります。CMOSのリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. CMOS をリセットするサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
6. [Recover Server] ダイアログボックスで、[Reset CMOS] をクリックし、[OK] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
 - ステップ 3 CMOS をリセットするサーバを選択します。
 - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
 - ステップ 6 [Recover Server] ダイアログボックスで、[Reset CMOS] をクリックし、[OK] をクリックします。
-

Cisco UCS S3260 サーバノードからの NMI の発行

システムが応答しないままになっており、Cisco UCS Manager で、CIMC から BIOS またはオペレーティングシステムに NMI (マスク不能割り込み) を発行する必要がある場合は、次の手順を実行します。このアクションにより、サーバにインストールされているオペレーティングシステムに応じて、コア ダンプまたはスタック トレースが作成されます。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. NMI を発行するサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
6. [Maintenance] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 NMI を発行するサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。

ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a) [Diagnostic Interrupt] をクリックします。
- b) [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager BIOS またはオペレーティングシステムに NMI を送信します。

Cisco UCS S3260 サーバノードの POST 結果の表示

サーバとそのアダプタに対する Power On Self-Test プロセスで収集された任意のエラーを表示できます。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. POST の結果を表示するサーバを選択します。

4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で [View POST Results] をクリックします。
6. (任意) アダプタのプロパティを表示するには、[Affected Object] カラムをクリックします。
7. [OK] をクリックして [POST Results] ダイアログボックスを閉じます。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 POST の結果を表示するサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で [View POST Results] をクリックします。

[POST Results] ダイアログボックスに、サーバとそのアダプタに対する POST の結果が一覧表示されます。

ステップ 6 (任意) アダプタのプロパティを表示するには、[Affected Object] カラムをクリックします。

ステップ 7 [OK] をクリックして [POST Results] ダイアログボックスを閉じます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのヘルスイベントの表示

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
3. ヘルスイベントを表示するサーバを選択します。
4. [Work] ペインで、[Health] タブをクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 ヘルスイベントを表示するサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[Health] タブをクリックします。

このサーバでトリガーされたヘルスイベントが表示されます。このタブのフィールドは次のとおりです。

名前	説明
[Health Summary] 領域	

名前	説明
[Health Qualifier] フィールド	コンポーネントに対してトリガーされるすべてのヘルス イベントのカンマ区切りの名前。
[Health Severity] フィールド	<p>コンポーネントに対してトリガーされるすべてのステータスイベントの最高重大度。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • critical • major • minor • warning • info • cleared <p>(注) 重大度レベルが最高のもから順に記載されています。</p>
[Health Details] 領域	
[Severity] カラム	<p>ヘルス イベントの重大度。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • critical • major • minor • warning • info • cleared <p>(注) 重大度レベルが最高のもから順に記載されています。</p>
[Name] カラム	ヘルス イベントの名前。
[Description] カラム	ヘルス イベントの詳細。
[Value] カラム	ヘルス イベントの現在の値。

名前	説明
[Details] 領域	[Details] 領域には、[Health Details] 領域で選択するヘルス イベントの [Name]、[Description]、[Severity] および [Value] の詳細が表示されます。

ヘルス LED アラーム

サーバのヘルス LED は各サーバの前面にあります。Cisco UCS Manager ではセンサー故障が発生すると、ブレードのヘルス LED の色が緑からオレンジ、またはオレンジの点滅に変わります。

ヘルス LED アラームには次の情報が表示されます。

名前	説明
[Severity] カラム	アラームの重大度。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> 重要：サーバのステータス LED がオレンジ色に点滅します。これは赤色のドットで示されます。 マイナー：サーバのステータス LED がオレンジ色です。これはオレンジ色のドットで示されます。
[Description] カラム	アラームの簡単な説明。
[センサー ID (Sensor ID)] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの ID。
[Sensor Name] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの名前。

ヘルス LED アラームの表示

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 ヘルス LED アラームを表示する対象のサーバをクリックします。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[View Health LED Alarms] をクリックします。

[View Health LED Alarms] ダイアログボックスに、選択したサーバのヘルス LED アラームが一覧表示されます。

ステップ 6 [OK] をクリックして、[View Health LED Alarms] ダイアログボックスを閉じます。



第 10 章

SIOC 管理

- SIOC 管理 Cisco UCS Manager (145 ページ)
- SIOC の認識 (146 ページ)
- PCIe サポートがある SIOC に移行する (147 ページ)
- CMC のリセット (148 ページ)
- CMC セキュア ブート (148 ページ)

SIOC 管理 Cisco UCS Manager

Cisco UCS Manager を使用して Cisco UCS ドメイン 内のすべてのシステム I/O コントローラ (SIOC) を管理およびモニタできます。

SIOC の削除または交換

シャーシから SIOC の取り外しや交換ができます。SIOC の取り外しと交換はサービスに影響する操作であるため、シャーシ全体の電源をオフにする必要があります。

SIOC の取り外しのガイドライン

- アクティブな SIOC または両方の SIOC を取り外すには、シャーシ全体をシャットダウンして電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
- シャーシから SIOC を削除すると、シャーシ全体が Cisco UCS Manager から切断されます。

SIOC の取り外し

SIOC をシステムから取り外すには、次の手順を実行してください。

1. シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
2. SIOC をシステムに接続しているケーブルを取り外します。

3. システムから SIOC を取り外します。

SIOC の交換

SIOC をシステムから取り外し、別の SIOC に置き換えるには、次の手順を実行してください。

1. シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
2. SIOC をシステムに接続しているケーブルを取り外します。
3. システムから SIOC を取り外します。
4. 新しい SIOC をシステムに接続します。
5. ケーブルを SIOC に接続します。
6. 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。
7. 新しい SIOC を認識させます。

置き換えられた SIOC に接続されているサーバを再度検出します。



- (注) 置き換えられた SIOC のファームウェアのバージョンがピア SIOC と異なる場合、シャーシプロファイルの関連付けを再度トリガーして、置き換えられた SIOC のファームウェアを更新することが推奨されます。

SIOC の認識

Cisco UCS Manager にはシャーシの特定の SIOC を認識する機能もあります。シャーシの SIOC を交換したときには、次の手順を実行します。



- 注意** この操作では、SIOC とその接続先ファブリック インターコネクトとの間に、ネットワーク接続が再構築されます。この SIOC に対応するサーバは到達不能になり、トラフィックは中断されます。

NVMe スロット 1 SIOC をサーバ 1 に、NVMe スロット 2 をサーバ 2 にマッピングします。SIOC で両方のサーバに NVMe がマッピングされているため、Cisco UCS Manager は両方のサーバで再検出をトリガします。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [SIOC] の順に展開します

3. 認識する SIOC を選択します。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域の [Acknowledge SIOC] をクリックします。
6. [Acknowledge SIOC] 確認ボックスで、[Yes] をクリックします。

手順の詳細

-
- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [SIOC] の順に展開します
 - ステップ 3 認識する SIOC を選択します。
 - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Actions] 領域の [Acknowledge SIOC] をクリックします。
 - ステップ 6 [Acknowledge SIOC] 確認ボックスで、[Yes] をクリックします。
-

PCIe サポートがある SIOC に移行する

始める前に

Cisco UCS Manager がリリース 4.0(1a) 以上であることを確認してください。

手順の概要

1. シャーシとサーバのファームウェアを 4.0(1) リリースにアップデートします。
2. シャーシの稼働を中止します。
3. シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
4. SIOC をシステムに接続しているケーブルを取り外します。
5. システムから SIOC を取り外します。
6. 新しい SIOC をシステムに接続します。
7. ケーブルを SIOC に接続します。
8. 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。
9. 新しい SIOC を認識させます。

手順の詳細

-
- ステップ 1 シャーシとサーバのファームウェアを 4.0(1) リリースにアップデートします。
 - ステップ 2 シャーシの稼働を中止します。
 - ステップ 3 シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。

ステップ4 SIOC をシステムに接続しているケーブルを取り外します。

ステップ5 システムから SIOC を取り外します。

ステップ6 新しい SIOC をシステムに接続します。

ステップ7 ケーブルを SIOC に接続します。

ステップ8 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。

ステップ9 新しい SIOC を認識させます。

CMC のリセット

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [SIOC] > [SIOC Number] の順に展開します
3. [Work] ペインの [Chassis Management Controller] タブをクリックします。
4. [Actions] 領域で [Reset CMC] をクリックします。
5. [Reset CMC] 確認ボックスで、[Yes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [SIOC] > [SIOC Number] の順に展開します

ステップ3 [Work] ペインの [Chassis Management Controller] タブをクリックします。

ステップ4 [Actions] 領域で [Reset CMC] をクリックします。

ステップ5 [Reset CMC] 確認ボックスで、[Yes] をクリックします。

CMC セキュア ブート

Chassis Management Controller (CMC) のセキュア ブートにより、シスコの署名が付加されたファームウェア イメージのみインストールでき、CMC で実行できます。CMC が更新されると、イメージは、ファームウェアがフラッシュされる前に認証されます。認証に失敗すると、ファームウェアはフラッシュされません。これにより、CMC ファームウェアへの不正アクセスを防止します。

CMC セキュア ブートの注意事項と制約事項

- CMC セキュア ブートは、Cisco UCS S3260 シャーシ上でのみサポートされます。

- シャーシの関連付けの実行中、1 つの SIOC でセキュア ブートを有効にすると、操作は失敗します。
- CMC セキュア ブートを有効にした後で、無効にすることはできません。
- CMC セキュア ブートはそれが有効にされた SIOC に固有です。CMC セキュア ブートが有効になっている SIOC を置き換えると、[Secure boot operational state] フィールドには新しい SIOC のセキュア ブートのステータスが表示されます。
- CMC セキュア ブートがシャーシで有効にされると、そのシャーシをスタンダロンモードに戻すことはできず、CMC のファームウェア イメージを Cisco IMC リリース 2.0(13) 以前にダウングレードできなくなります。
- [Secure boot operational state] フィールドには、セキュア ブートのステータスが表示されず、次のいずれかになります。
 - Disabled : CMC セキュア ブートが有効ではありません。これは、デフォルトの状態です。
 - Enabling : CMC セキュア ブートが有効化されています。
 - Enabled : CMC セキュア ブートが有効化されました。
- 4.0(1)以降では、セキュア ブート動作状態がデフォルトで **[Enabled]** の状態になっており、ユーザーは設定できません。オプションがグレー表示されます。

CMC セキュア ブートの有効化

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [SIOC] の順に展開します
3. CMC セキュア ブートを有効にする SIOC を選択します。
4. [Work] ペインの [Chassis Management Controller] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で、[Enable Secure Boot] をクリックします。
6. [Yes] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [SIOC] の順に展開します

ステップ 3 CMC セキュア ブートを有効にする SIOC を選択します。

ステップ 4 [Work] ペインの [Chassis Management Controller] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Enable Secure Boot] をクリックします。

[Enable Secure Boot] 確認ボックスには次の警告が表示されます。

コミットすると、CMCセキュアブートとインストールが有効になります。この操作は、元に戻すことができません。セキュアブートを有効にしますか。

ステップ 6 [Yes] をクリックします。



索引

B

- BIOS [110, 111](#)
 - ファームウェアのアクティブ化 [111](#)
 - ファームウェアのアップデート [110](#)

C

- CIMC [108, 109, 137](#)
 - ファームウェアのアクティブ化 [109](#)
 - ファームウェアのアップデート [108](#)
 - リセット [137](#)
- CMC [102, 106](#)
 - ファームウェアのアクティブ化 [106](#)
 - ファームウェアのアップデート [102](#)
- CMOS リセット [138](#)

L

- LED ロケータ [118, 119, 135](#)
 - サーバ [135](#)
 - chassis [118, 119](#)

N

- NMI [139](#)
 - サーバ [139](#)
- NMI の発行 [139](#)
 - サーバ [139](#)

P

- POST [120, 139](#)
 - サーバ [139](#)
 - シャーシの表示 [120](#)
- Power on Self-Test [120, 139](#)
 - サーバ [139](#)
 - シャーシの表示 [120](#)

S

- SAS エクスパンダ [104, 105](#)
 - ファームウェアのアクティブ化 [105](#)
 - ファームウェアのアップデート [104](#)
- SIOC モジュール [145](#)
 - 管理 [145](#)

あ

- アクティブ化 [105, 106, 107, 109, 111, 112, 113](#)
 - BIOS ファームウェア [111](#)
 - CIMC ファームウェア [109](#)
 - CMC ファームウェア [106](#)
 - SAS エクスパンダ ファームウェア [105](#)
 - 共有アダプタ ファームウェア [106](#)
 - ストレージコントローラのファームウェア [113](#)
 - ボードコントローラ ファームウェア [107, 112](#)
- アップグレード [89, 92, 93, 100](#)
 - シャーシファームウェアのインストール [89](#)
 - ファームウェア [93](#)
 - ファームウェア、シャーシプロファイル [92](#)
 - ファームウェア、直接 [100](#)
 - アップデートテンプレート [49](#)

い

- インベントリからのゾーン分割ポリシー [119](#)
 - 作成 [119](#)

え

- エンドポイント [92, 100](#)
 - シャーシプロファイルのアップグレード [92](#)
 - 直接のファームウェア アップグレード [100](#)

か

- decommissioning [117, 132](#)
 - 高密度ストレージサーバ ノード [132](#)
 - chassis [117](#)

認識 **116, 130**

サーバ **130**

chassis **116**

管理 **124, 145**

SIOC **145**

高密度ストレージサーバノード **124**

き

共有アダプタ **103, 106**

ファームウェアのアクティブ化 **106**

ファームウェアのアップデート **103**

く

グレースフルシャットダウン **128**

こ

更新 **97**

シャーシファームウェアパッケージ **97**

高密度ストレージサーバノード **124, 126, 130, 132, 135**

decommissioning **132**

管理 **124**

再確認 **130**

削除 **135**

データベースから **135**

ブート順序の決定 **126**

さ

サーバ **45, 49, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 137, 138, 139**

NMIの発行 **139**

POST結果 **139**

decommissioning **132**

高密度ストレージサーバノード **124**

高密度ストレージラック **124**

ブート **124**

再確認 **130**

再稼働 **133**

削除 **131, 135**

シャーシから **131**

データベースから **135**

シャーシプロファイルテンプレートの作成 **49**

シャーシプロファイルの複製 **45**

シャットダウン **126, 127**

ストレージサーバのリセット **129**

スロットの再確認 **134**

電源再投入 **128**

ハードリセット **128**

サーバ (続き)

ブート **125**

ブート順 **126**

リセット **137, 138**

CIMC **137**

CMOS **138**

ロケータ LED **135**

サーバ管理 **124**

サーバの起動 **124, 125**

サーバのシャットダウン **127**

サーバの停止 **126, 127**

サービスプロファイル **125, 127**

サーバ **125, 127**

シャットダウン **127**

ブート **125**

再確認 **130, 134**

サーバ **130**

サーバスロット **134**

再稼働 **133**

サーバ **133**

削除 **46, 117, 131, 135**

chassis **117**

シャーシからサーバ **131**

シャーシプロファイル **46**

設定からの高密度ストレージサーバノード **135**

作成 **119**

インベントリからのゾーン分割ポリシー **119**

し

システム管理 **124, 145**

SIOC **145**

高密度ストレージサーバノード **124**

自動インストール **89**

シャーシファームウェアのインストール **89**

アップグレード **89**

概要 **89**

chassis **42, 44, 46, 47, 48, 53, 54, 58, 89, 116, 117, 118, 119, 120, 130, 131, 134, 139**

NMIの発行 **139**

POST結果 **120**

decommissioning **117**

認識 **116**

サーバの確認 **130**

サーバの削除 **131**

削除 **117**

自動インストール **89**

シャーシテンプレートプロファイルの複製 **53**

シャーシプロファイル **46**

シャーシプロファイルとの関連付け **47**

シャーシプロファイルとの関連付け解除 **48**

chassis (続き)

- シャーシ プロファイルの作成 [42](#)
- シャーシ プロファイルの名前の変更 [44](#)
- スロットの再確認 [134](#)
- メンテナンス ポリシーの変更 [54, 58](#)
- ロケータ LED の電源切断 [119](#)
- ロケータ LED の電源投入 [118](#)
- シャーシ管理 [116, 117, 118, 119](#)
 - 認識 [116](#)
 - 削除 [117](#)
 - ロケータ LED の電源切断 [119](#)
 - ロケータ LED の電源投入 [118](#)
- シャーシ接続ポリシー [40](#)
 - システム関連ポリシー [40](#)
 - chassis [40](#)
- シャーシテンプレート プロファイル [53](#)
 - コピー [53](#)
- シャーシテンプレート プロファイルの複製 [53](#)
- シャーシの関連付け解除 [48](#)
- シャーシの関連付け [47](#)
- シャーシ ファームウェアのインストール [89](#)
 - 概要 [89](#)
- シャーシ ファームウェア パッケージ [92, 95, 97, 98](#)
 - 概要 [92](#)
 - 更新 [97](#)
 - 作成 [95](#)
 - シャーシ プロファイルへの追加 [98](#)
- シャーシプール [47, 48](#)
 - シャーシ プロファイルの関連付け [47](#)
 - シャーシ プロファイルの関連付け解除 [48](#)
- シャーシ プロファイル [42, 44, 45, 47, 48, 49, 55, 56, 58, 92, 98](#)
 - ウィザードを使用して作成 [42](#)
 - 関連付け [47](#)
 - disassociating [48](#)
 - コピー [45](#)
 - ガイドライン [42](#)
 - テンプレート [49](#)
 - テンプレートからのバインド解除 [56](#)
 - テンプレートへのバインディング [55](#)
 - 名前の変更 [44](#)
 - ファームウェア アップグレード [92](#)
 - ファームウェア パッケージの追加 [98](#)
 - メンテナンス ポリシーの変更 [58](#)
- シャーシ プロファイル ウィザード [42](#)
 - 開く [42](#)
- シャーシ プロファイル テンプレート [49, 54, 55, 56](#)
 - 作成 [49](#)
 - シャーシ プロファイルのバインディング [55](#)
 - シャーシ プロファイルのバインド解除 [56](#)
 - メンテナンス ポリシーの変更 [54](#)

- シャーシ プロファイル テンプレート ウィザード [49](#)
 - 開く [49](#)
- シャーシ プロファイルの名前の変更 [44](#)
- シャーシ プロファイルの複製 [45](#)
- シャーシメンテナンス ポリシー [56, 59](#)
 - 削除 [59](#)
 - 作成 [56](#)
- シャットダウン [126](#)
 - サーバ [126](#)
- シャットダウン、グレースフル [128](#)
- 出荷時の初期状態へのリセット [129](#)
 - ストレージサーバ [129](#)
- 初期テンプレート [49](#)

す

- ステージ、ファームウェア アップグレード [93](#)
- ストレージコントローラ [113](#)
 - ファームウェアのアクティブ化 [113](#)

ち

- ガイドライン [42](#)
 - シャーシ プロファイル [42](#)

て

- 展開の遅延 [56](#)
 - シャーシメンテナンス ポリシー [56](#)
- 電源オフ [119](#)
 - シャーシロケータ LED [119](#)
- 電源再投入 [128](#)
 - サーバ [128](#)
- 電源投入 [118](#)
 - シャーシロケータ LED [118](#)
- テンプレート [49](#)
 - シャーシ プロファイル [49](#)

は

- ハードリセット [128](#)
 - サーバ [128](#)
- binding [55](#)
 - シャーシ プロファイル [55](#)
- バインド解除 [56](#)
 - シャーシ プロファイル [56](#)
- パック [92](#)
 - シャーシ ファームウェア [92](#)
- パッケージ [95, 97, 98](#)
 - シャーシ ファームウェア [95, 97](#)

パッケージ (続き)

シャーシプロファイルへの追加 98

ひ

beacon 118, 119, 135

サーバ 135

chassis 118, 119

ふ

ファームウェア 89, 92, 93, 95, 97, 100, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113

BIOS のアクティブ化 111

BIOS のアップデート 110

CIMC のアクティブ化 109

CIMC のアップデート 108

CMC のアクティブ化 106

CMC のアップデート 102

SAS エクスパンダのアクティブ化 105

SAS エクスパンダのアップデート 104

アップグレードのステージ 93

共有アダプタのアクティブ化 106

共有アダプタの更新 103

シャーシパッケージ 92, 95, 97

シャーシファームウェアのインストール 89

シャーシプロファイル 92

ストレージコントローラのアクティブ化 113

直接アップグレード 100

ボードコントローラのアクティブ化 107, 112

ファームウェアのアップグレード 102, 103, 104, 108, 110

BIOS 110

CIMC 108

CMC 102

SAS エクスパンダ 104

ファームウェアのアップグレード (続き)

共有アダプタ 103

ファームウェアのアップデート 102, 103, 104, 108, 110

ブート 124, 125, 126

高密度ストレージサーバノード 124

サービスプロファイルからのサーバ 125

ブート順序の決定 126

ブート順 126

サーバ 126

へ

ヘルス LED ステータス 142

ヘルス led ステータスの表示 142

ほ

ボードコントローラ 107

ファームウェアのアクティブ化 107

ボードコントローラ、ファームウェアのアクティブ化 112

保存先への移動 118

chassis 118

ポリシー 56, 92, 95, 97

シャーシファームウェア 92, 95, 97

シャーシメンテナンス 56

り

リセット 128, 137, 138

CIMC 137

サーバ 137

CMOS 138

サーバ 128

リブート 128

サーバ 128